

【三重県】

都道府県名	開催年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
三重県赤十字血液センター	(募集)H22.9.20~H22.11.30 (表彰式)H23.1.9	献血推進ポスターコンクール		県内の高校・特別支援学校(高等部)	血液センターが主催、三重県・三重県教育委員会の後援により、はたちの献血キャンペーンのイベント会場で表彰式を行った。	
三重県、三重県赤十字血液センター	年中	各キャンペーン	各ショッピングセンター	県民	ヤングミッドサポーター(学生献血ボランティア)に協力してもらい、同世代へ献血を広く呼びかけた。	

【滋賀県】

都道府県名	開催年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
滋賀県	H22.8.1	サマー献血	近江八幡市(市役所付近)	県民	滋賀県学生献血推進協議会が主体となって献血の呼びかけ、啓発活動の実施(学生ボランティア 8名)	献血者 74人
	H22.8.29	しがの若者献血率アップキャンペーン	高島市(藤樹の里文化芸術会館)	滋賀県青年団員	滋賀県青年団大会でキャンペーンを実施し啓発活動とともに、若者の意識調査を実施。	
	H22.12.23	クリスマス献血	JR近江八幡駅	県民	滋賀県学生献血推進協議会が主体となって献血の呼びかけ、啓発活動の実施(学生ボランティア 40名)	献血者 138人
	H23.1.9	「はたちの献血」キャンペーン	守山市(ららぽーと守山)	県民	学生ボランティアや看護学生、赤十字奉仕団員等が「はたち」になった方々を中心として啓発活動を実施	献血者 119人
	H23.1.10	「はたちの献血」キャンペーン	草津市(イオンモール草津)	県民	学生ボランティアや看護学生、赤十字奉仕団員等が「はたち」になった方々を中心として啓発活動を実施	献血者 51人
	H23.2.11	バレンタイン献血	草津市(イオンモール草津)	県民	学生ボランティアが主となり、啓発活動を実施。サッカーチーム「MIOびわこ草津」の選手も参加。	献血者 54人
	H23.2.13	しがの若者献血率アップキャンペーン	草津市(イオンモール草津)	県民	若者や、子ども連れ若い夫婦をターゲットに啓発活動を実施。	
	H23.2.13	バレンタイン献血	草津市(イオンモール草津)	県民	立命館大学テアリーディング部 4名が呼びかけに参加。	献血者 81人
	H23.2.20	学生ボランティア近畿統一キャンペーン	草津市(イオンモール草津)	県民	近畿2府4県が同一日に「近畿献血大作戦☆~近畿CHANGE THE WORLD」統一スローガンで開催	献血者 72人

【大阪府】

都道府県名	開催年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
大阪府赤十字血液センター	H22.4.1~H23.3.31	専門学生及び高校による呼びかけボランティア	大阪府内の献血会場	大阪府内の専門学生、高校生	若年層献血推進を目的とし、献血ボランティアに参加することで献血意識を深める	大阪医療技術専門学校、南海福祉専門学校、大阪赤十字看護専門学校、大阪府立山田高等学校 随上部
大阪府	H22.7.1~H22.9.30(募集) H22.12.1(発表) H22.12.22(表彰式)	熱血献血キャンペーン ポスター原画大募集	・府内の高校、市町村等に募集告知用チラシを配布 ・府HP等による募集告知	府内の16歳~29歳	献血離れが特に進んでいる10代・20代の若者に献血の重要性、輸血によって救われる命の大切さを訴えるため、同世代の若者を対象に献血のポスター原画を募集	・府内の学生を中心に応募あり ・優秀作品は、カレンダー化した他、府内の高校、大学等に配布した他、府庁や献血ルーム、大型商業施設等で随時展示
大阪府、大阪府赤十字血液センター	H23.2.15、H23.2.18	府立滝南造形高校献血キャンペーン	まいどなんば献血ルーム	当該校1・2年生約30名	・献血ルーム周辺での街頭キャンペーン ・献血者への接遇 ・献血者対象の似顔絵イラストサービス	・2日間で200名以上の方に献血にご協力いただいた ・多くのメディアから取材を受けた

【兵庫県】

都道府県名	開催年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
兵庫県赤十字血液センター	H.23.2.26	ひょうご青年フォーラム	新長田勤労市民センター	青年	青年150名が参加するフォーラムに献血ブースを出展し、献血推進を行った。	
兵庫県、血液センター	H22.11	18歳の献血キャンペーン	県下の高等学校	県下の高校3年生	県下の高校3年生全員にキャンペーンリーフレットを配布し、献血への参加を呼び掛けた。 県教育委員会、私立中学高等学校連合会の後援名義を得る。	県下の全高等学校231校の3年生にリーフレットを配布。初回・複数回を問わず、献血協力全般について呼びかけ。
	H22.4~	高校生献血ボランティア推進事業	県下の高等学校	県下の高校生	在校中に初めて献血可能年齢を迎える高校生(高等専門学校生含む)を対象として、ボランティア活動としての献血の趣旨等について普及啓発をおこなった。	25校で実施

【和歌山県】

都道府県名	実施年月日	その他の名称	開催場所	対象	内容	備考
和歌山県赤十字血液センター	H22.5.16、H22.5.30、H22.6.13	街頭献血および世界献血者デーキャンペーン	県内大型ショッピングセンター	一般買物客等	和歌山県学生献血推進協議会(以下「学推」という)による若者や一般客への呼びかけと接遇を行った。	
	H22.8.1	サマー献血キャンペーン(学推主催)	大型ショッピングセンター(和歌山市)	一般買物客等	学推主催による若者や一般客への呼びかけと接遇を行った。	
	H22.11.20～H23.2.27	雷だるま献血キャンペーン、クリスマス献血キャンペーン(学推主催)	県内大型ショッピングセンター9ヶ所	一般買物客等	学推主催による若者や一般客への呼びかけと接遇を行った。	

【鳥根県】

都道府県名	実施年月日	その他の名称	開催場所	対象	内容	備考
鳥根県、日本赤十字社鳥根県支部、鳥根県赤十字血液センター	H22.7.1～H22.9.30	高校生ふれ愛キャンペーン		県内の高校生全員	県内高校生全員を対象として、献血に関するクイズ付きのリーフレットを配布し、クイズへの応募、献血に関する質問等を募集。	・クイズ応募者:54名 ・全問正解者:41名 ・質問に対する回答を行い、ホームページでも公開
鳥根県、市町村、日本赤十字社鳥根県支部、鳥根県赤十字血液センター	H22.8、H23.1	「はたちの日」成分献血啓発事業	成人式会場	県内の新成人	次世代の献血を担う新成人を対象に、成人式会場において、成分献血をーとした献血に関するリーフレットを配布し普及啓発を図る	7,420枚のリーフレット配布
鳥根県、鳥根県赤十字血液センター	H22.10.16	鳥根大学ギター部定期演奏会協賛献血セミナー	松江市プラバホール	学生及び一般	演奏会に先立ち、DVD「ありがとうっていっぱい言わせて」の上映と「献血Walker」、献血推進パンフレット配布により献血協力の呼びかけを実施。	入場約300名
	H23.3.16	松江高专吹奏楽部定期演奏会協賛献血セミナー	鳥根県民会館	学生及び一般	演奏会に先立ち、DVD「ありがとうっていっぱい言わせて」の上映と「献血Walker」、献血推進パンフレット配布により献血協力の呼びかけを実施。けんけつちゃん着ぐるみも登場。	入場約500名

【岡山県】

都道府県名	実施年月日	その他の名称	開催場所	対象	内容	備考
岡山県	H22.6.15～H22.9.30(募集) H23.1.23(授賞式)	第5回いのちと献血俳句コンテスト岡山センター所長賞(授賞式)	岡山県赤十字血液センター	若年層を中心に幅広い年代	若年層を中心に幅広い年代から献血に関する俳句の公募を行い、人命の尊さ、助け合いの大切さや献血の理解につながることを目的として実施した。	全国約39万句の応募のなかより、岡山県においては、岡山センター所長賞1名、入選4名、団体賞4団体が受賞した。

【広島県】

都道府県名	実施年月日	その他の名称	開催場所	対象	内容	備考
広島県	H22.4.1～H22.6.18	献血推進ポスター募集		中高生	献血を呼びかけるポスターの図案募集	
	H23.1	はたちの献血チラシ配布	成人式典会場	新成人等	成人式典において啓発チラシ配布	式典主催者である市町の協力

【山口県】

都道府県名	実施年月日	その他の名称	開催場所	対象	内容	備考
山口県	通年		各大学・専門学校	各大学・専門学校生	学内献血等に合わせ、献血要請	

【徳島県】

都道府県名	実施年月日	その他の名称	開催場所	対象	内容	備考
徳島県	H22.7～H23.3	けんけつ「ハートメッセンジャー」事業		若年層	若年層の献血離れに歯止めをかけるため、若者向けのタウン誌に年間6回、献血に関する記事を掲載し、啓発活動を行った。	

【香川県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	実施場所	対象	概要	備考
香川県	H22.7.17 H23.1.23	高校生街頭献血キャンペーン	ゆめタウン高松 ゆめタウン丸亀	高校生	高校生献血ボランティアに献血に関する学習をしてもらった後、店内で献血への協力呼びかけを実施。	高校生を対象に献血ボランティアを募集したところ、延べ20校102名の参加があった。
	H22.8.7 H22.10.24 H22.11.6	高校生献血サポーター事業	イオン高松ショッピングセンター 香川県赤十字血液センター 住民献血実施場所	高校生	高校単位で献血ボランティアを実施。実施内容は担当教諭と相談しながら決定。	3校で実施、延べ32名の参加があった。

【愛媛県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	実施場所	対象	概要	備考
愛媛県	H23.1.1～H23.2.28	はたちの献血	献血会場等	若年層	各市町で実施される成人式会場等において啓発用パンフレットを配布し、献血の普及啓発を行う。	

【高知県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	実施場所	対象	概要	備考
高知県	H22.12.29	年末血液確保キャンペーン	イオンモール高知	幅広い世代	イオンモール高知でイベントを行い、集まったお客さんに菓子をかける	
	H23.1.8	はたちの献血キャンペーン	イオンモール高知	幅広い世代	今年20歳になる学生に1日所長になってもらい、若い世代にPRをしてもらう	

【福岡県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	実施場所	対象	概要	備考
福岡県	通年	献血機会の増加	既実施大学等	各大学等	既実施の各大学等の献血の機会を可能な限り増加	
	通年	高校献血の開拓	各高等学校	各高等学校	新たな協力校を開拓	

【佐賀県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	実施場所	対象	概要	備考
佐賀県	年度後半	卒業献血	県内の3高等学校	高校3年生	献血に協力を求めるため血液センター職員が献血の必要性について事前に説明し、献血を校内で実施した。	

【長崎県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	実施場所	対象	概要	備考	
長崎県	H22.7.3	献血サマーイベント2010(佐世保市)	献血ルーム「西海」	一般県民	大学生ボランティアが着ぐるみを着て、特に若い世代への献血協力の呼びかけを実施		
	H22.12.18～H22.12.19 H22.12.12	全国学生クリスマスキャンペーン2010	献血ルーム「はまのまち」 献血ルーム「西海」	一般県民	全国的なキャンペーンとして学生ボランティアが主体となり、献血協力の呼びかけ等を行う。		
	H23.1.7 H23.1.12 H23.1.15～H23.1.16	「はたちの献血」キャンペーン	長崎短期大学 長崎大学 献血ルーム「はまのまち」	学生を中心とした県民	大学・短大等に献血バスを配車し、はたちを迎える若者を中心に献血協力の呼びかけ等を行う	イベント会場での抽選会や焼き芋の提供。献血来所者105名	
	H23.1.9	成人の日献血	献血ルーム「西海」	新成人を中心とした県民	繁華街において、献血協力の呼びかけを行う。		
	H22.6～H22.9(募集)	献血推進ポスター募集		県内中学生、高校生	若年層へ献血についての一層の普及啓発と広報活動を行うため、献血をテーマとしたポスターデザインを募集	応募点数 100点	
	H22.7.25	ライブコンサート会場における献血	アミュープラザ長崎	バンドメンバー及び観客	コンサート会場やテラスでの献血啓発及び観客への献血呼びかけ	献血来所者 55名	

【熊本県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
熊本県	H22.8.7	高校生献血まつり	血液センター	高校生・大学生	熊本県学生献血推進協議会の大学生がオープンキャンパス形式で高校生に献血セミナーを開催した。	
	H22.10.11	ハロウィン献血キャンペーン	大型ショッピングセンター	県民	学生献血推進協議会と協力して、同世代の若者を中心に献血への協力を呼びかけた。	
	H22.12.12	学生クリスマス街頭キャンペーン	大型ショッピングセンター	県民	学生献血推進協議会と協力して、同世代の若者を中心に献血への協力を呼びかけた。	
	H22.12~H23.2	若者向け情報誌における献血に係る広告の掲載		県民	10代から20代の若者に的を絞った広報啓発のため、若者向け情報誌に献血推進に関する関連記事を掲載し献血への協力を呼びかけた。(県:2回、日赤:1回)	

【大分県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
大分県	H22.7~H23.1	高校生献血の輪拡大大推進事業	各高等学校等	高校生その他	7つの高校を「高校生献血の輪拡大大推進校」に県が指定し、各高校のボランティア部の生徒が、献血について学びながら啓発活動を実施。	活動を通して、高校生の献血に対する意識が向上。地元のボランティア団体と連携して活動した高校もあった。
大分県学生献血推進協議会	H22.7.18	献血サポーター	大分銀行ドーム	トリニータサポーター	大分トリニータの公式試合前の学推協による献血の呼びかけ。	学生30名が呼びかけに参加。同会場で実施した献血では248名の協力が得られた。
	H22.12.12	赤十字ふれあい広場	血液センター	若年層を中心に幅広い年代	献血クリスマスキャンペーンとして学推協によるイベントを実施し、若年層の献血者の確保を行う。	学生170名が参加。同会場で実施した献血では124名の協力が得られた。

【宮崎県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
宮崎県	H22.5.9	おしえてケンチャウ	テレビ	県民全般	県政番組	10代献血者が前年比14.3%と増加した。特に、減少が続いていた高校生が献血者数で2倍以上の増加となった。
	H23.1.2	みやざきゲンキTV	テレビ	県民全般	県政番組	
	H23.1.7	わけもん	テレビ	県民全般	若年層を対象とした番組	
	H23.1.2~H23.1.10	Todayみやざき	ラジオ	県民全般	県政番組	
	H23.1.15	おしえて宮崎	テレビ	県民全般	県政番組	
	H23.1.26	おはよう県庁	ラジオ	県民全般	県政番組	
	H23.1.5、H23.2.12	はたちの献血キャンペーン	街頭等	若年層を中心とした幅広い年代層	地元タレント、学生と「けんけつちゃんオリジナルペン」配布等により呼びかけ	
	H23.2.11~H23.2.14	バレンタイン献血	店頭等	若年層を中心とした幅広い年代層	献血者へのミニチョコプレゼント	

【鹿児島県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	備考
鹿児島県	H22.5~	血液教育事業	各中学校	中学生	献血可能年齢周辺の中学3年生を対象に、血液に関する正しい知識と責任ある献血の重要性を認識させるため、県薬剤師会に委託し、学校薬剤師による講義を行った。
鹿児島県、鹿児島県赤十字血液センター	H22.4~	献血出前講座・献血講座	各高校・専門学校・血液センター等	小学生~大学・専門学校	「献血のしくみ」・「アンパンマンのエキス」のDVDを見ることで献血の重要性と命の大切さを理解し献血への導入を図る
鹿児島県赤十字血液センター	H22.4~	市町村との協働による若年層の健康増進と献血実施	鹿児島県内各市町村	10代~30代	市町村の若年層の健康増進を図る為、国保担当者と献血との協働し30代までをターゲットに特定検診等も一緒にイベントに併せて献血を実施する
	H22.4~	学生献血推進協議会主催の各種キャンペーンの実施	ショッピングセンター オフシア他	10代~20代	学生が自主的にキャンペーンを企画実施し、若年層に呼び掛けることで、献血啓発と導入に繋がる。

【沖縄県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	備考
沖縄県	H23.2.10	献血教室	豊見城市立伊良波小学校	小学生(6年生)	映像・パワーポイントにて血液の知識、献血の重要性を説明し、将来にわたる継続的な献血への協力をお願いした。また、献血運動車の見学を実施した。

⑨安定的な集団献血の確保

【北海道】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	備考	
北海道	H22.9.13	ライオンズクラブ331-A地区献血推進協議会研修会	全日空ホテル	クラブ会員	331-A地区の献血担当者に対して献血に関するビデオ等ほ視聴していただき、献血に対する興味を持っていただき、また、講話で献血をより理解していただき、会員へ啓発していただくことを目的とする	協力的なクラブが増加した。また、献血の協力についても、会員関連会社への啓発も影響し協力者が増加
	H22.6.1、H22.11.12	成分献血推進打合せ	新さっぽろ献血ルーム	大学生	大学の寮生を対象としており、推進は主に血小板成分献血で、打合せ、勉強会等を通じて献血の必要性を理解していただき、継続的な協力を得ることを目的とする。	年間、500名以上の血小板成分献血を協力していただく
	H22.10.8、H23.2.10	成分献血推進打合せ	アスティ献血ルーム	大学生	〃	

【岩手県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	備考
岩手県	通年	企業、事業所訪問	県内一円	企業、事業所	献血推進専門員による企業、事業所訪問協力要請

【青森県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	備考	
青森県	H22.4.1~H23.3.31 H22.6.28(贈呈式)	PTA献血協力の実施	青森献血ルーム及び献血バス	青森市小・中学校PTA	PTA連合会の総会時に勉強会を開催し、血液事業の現状を説明し、各学校単位で献血の協力してもらい、献血実績優良学校に所長感謝状を贈呈して、血液を確保した。	延べ796人の協力

【宮城県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	備考
宮城県	通年	県庁内での定例献血及び各保健所におけるバス配車	宮城県庁及び各保健所	全年代	・県庁内での年3回の定例献血を行った (県庁内の定例献血では、平成22年度に322名確保) ・各保健所において年1回以上のバス配車を行った

【秋田県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
秋田県	H23.1～H23.3		各保健所、試合会場(県立体育館等)	県民	秋田プロバスケットボールチーム「ノーザンハビネッツ」との共同で献血推進資料を作成し、試合会場で配布した。	
秋田県(赤十字血液センター)	通年			県内事業所	全県的に事業所への献血サポーターへの参加呼びかけを行った。	80件の依頼

【山形県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
山形県	通年	サポート団体育成事業		県内事業所	献血に協力的な事業所等を市町村ロビー等に掲示することにより、顕彰を行い、本県における事業所等が行う献血活動のより一層の推進を図った。	登録事業所等192団体(H23.3.31現在)

【茨城県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
茨城県	通年	新規事業所の開拓		県内事業所等	保健所・市町村等の情報により新規事業所の開拓を実施	54ヶ所実施 献血者1,273名
	通年	休眠状態事業所の再開拓		以前献血実施事業所	献血者減少により献血を実施しなくなった事業所の再開拓を実施	28ヶ所実施 献血者631名

【栃木県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
栃木県	H22.6.15	「県民の日」献血キャンペーン	栃木県庁舎内 県民広場(宇都宮市) 県民の日記念イベント会場内	県民	栃木県医薬品配置協会や栃木県学生献血推進連盟「かけはし」の協力を得て、県民に対し、献血の普及啓発を行うとともに、移動採血車による献血を行うことにより、「献血思想」の意識の醸成を図った。	来場者:約1,000名 献血者数:48名
	H22.7	「愛の血液助け合い運動」キャンペーン	県内	県民	ラジオやテレビによるスポットCM放送や県政広報誌への記事掲載により、400ml献血及び成分献血への理解と協力を呼びかけ、献血者の確保を図った。	
	H22.7.26	献血功労者表彰式	とちぎ福祉プラザ(宇都宮市)	県民	献血に功績のあった個人又は団体の表彰を行うとともに、一般県民も参加可能な記念コンサートを開催し、県民に対して、献血の普及啓発を図った。 第1部 式典 献血功労者の表彰 第2部 アトラクション ピアノコンサート	参加者:約150名
	H22.8.1～H22.8.31	チャレンジ! 400ml献血 & 成分献血キャンペーン	うつのみや大通り献血ルーム、栃木県赤十字血液センター、県内献血会場	県民	血液が不足する時期に献血者を確保するため、実施期間中に初めて「400ml献血」または「成分献血」に協力いただいた方にオリジナル記念品を贈呈し、県民各層の間に献血思想の普及を図った。	初回献血者 ・400ml献血 512名 ・成分献血 150名
	H22.10.3	「ヒューマンフェスタとちぎ2010」献血キャンペーン	マロニエプラザ(宇都宮市)	県民	栃木県学生献血推進連盟「かけはし」の協力を得て、啓発物資の配布、移動採血車による献血等を実施することにより、県民に対して、献血の普及啓発を図った。	来場者数:1,000名 献血者数:41名
	H23.1～H23.2	「はたちの献血」キャンペーン	・成人式 各市町の会場 ・シネアド TOHOシネマズ宇都宮及び109シネマズ佐野	新成人を中心に幅広い年代	各市町で開催する成人式でのリーフレット配布やラジオ・テレビによるスポットCM放送のほか、県内2か所の映画館でシネアドの放映を行うことにより、若年層を中心とした幅広い世代に献血への理解と協力を呼びかけ、献血者の確保を図った。	・新成人へのリーフレット配布数 23,075枚 ・シネアド放映回数 延べ約800回

【群馬県】

都道府県名	行事年月日	行事の名称	開催場所	対象	概要	備考
群馬県赤十字血液センター	通年	市町村、献血推進団体、献血協力団体等に対する啓発活動		県内献血協力団体および大型事業者、各種学校等	献血協力団体・献血推進団体および献血未実施団体に対して、更なる献血への協力を呼びかけるための説明会を実施した。	

【千葉県】

都道府県名	行事年月日	行事内容	開催場所	担当者	備考	
千葉県	年間	新規献血協力団体募集	ホームページ	事業所	ホームページへ新規協力団体募集の掲載をした。またインターネット等で企業の情報を入手し未実施団体への協力を要請した。	平成22年12月現在 43団体
	通年	献血協賛企業との啓発ポスター制作	-	県内協力団体他	献血協賛企業との献血啓発ポスターを活用し、各献血協力団体へ、献血協賛への参加を促す。	各献血会場などへ掲出することで、当該企業や、献血サポーター制度への問い合わせが増えている。

【東京都】

都道府県名	行事年月日	行事内容	開催場所	担当者	備考	
東京都	H22.4.1～継続	献血協賛企業確保	企業の会議室や敷地内	幅広い年代	既存団体の紹介、中断団体や企業代表メールへ献血協力依頼他、行政からの依頼文を活用し推進強化を図る。	依頼83件 34件実施

【新潟県】

都道府県名	行事年月日	行事内容	開催場所	担当者	備考	
新潟県、 新潟県赤十字 血液センター	H22.7.23	新潟県献血功労者表彰式	新潟県自治会館	献血推進団体	献血推進に功績のある団体及び個人に対して表彰を行った。	大臣表彰 2件 大臣感謝状 6件 知事感謝状 13件 日赤新潟県支部長感謝状 10件
	通年	企業等訪問		県内献血協力企業等	県、市町村、血液センターで県内の企業等を訪問し、献血への協力を依頼した。	

【富山県】

都道府県名	行事年月日	行事内容	開催場所	担当者	備考	
富山県	H22.4～H23.3	献血場所付近の企業への献血協力依頼。				

【石川県】

都道府県名	行事年月日	行事内容	開催場所	担当者	備考	
石川県赤十字 血液センター	H22.4～H23.3	新規協力企業・団体の確保	血液センター周辺企業	企業総務担当者	固定施設周辺で、急に全血・成分献血が必要な時に、献血を依頼し、応じていただける企業・団体を確保すべく訪問、依頼する。	平成22年度は7団体からの了承を取り付けた。

【福井県】

都道府県名	行事年月日	行事内容	開催場所	担当者	備考	
福井県赤十字 血液センター	通年	成分献血者の送迎	血液センター	市役所、町役場	各市役所、各町役場から職員を血液センターまで送迎し、成分献血実施者を確保した。	
福井県、 福井県赤十字 血液センター	H22.6.28	ライオンズクラブ担当者会議	サンドーム福井	ライオンズクラブ担当者会議	献血に関する研修会を開催する他、ライオンズクラブ主催の献血を実施し、安定的に献血者を確保した。	

【山梨県】

都道府県名	行事年月日	行事内容	開催場所	担当者	備考	
山梨県	H23.2.24	血液事業推進会議	血液センター	県担当者	既存献血団体に対し各保健所から来年度の献血協力依頼をした。	県内約300団体
	H22.4～	新規献血団体の開拓	県内事業所	各事業所等	県保健所の紹介や血液センターの開拓により献血協力を頂いた。	新規献血協力団体(8団体)
	H22.4～	献血実施回数増の依頼	県内事業所	各事業所等	既存献血団体に対し献血実施回数を増やすことを依頼した。	年1回から2回(12団体)

【岐阜県】

都道府県名	行事年月日	行事内容	開催場所	担当者	備考	
岐阜県	H22.10.29	献血感謝の集い	未来会館 長良川ホール	一般、関係者	献血推進功労者表彰 献血推進ポスター入賞者表彰	400名が参加

【静岡県】

都道府県名	行年/月日	行事の名称	開催場所	対象	備考	
静岡県	H22.4~H23.3	「アボちゃん協力会」との連携		協力団体等	平成3年に設置した献血協力団体「アボちゃん協力会」の会員企業等に対し、定期的に献血啓発リーフレット等啓発資料を送付し、意識普及を図った。	協力団体数:606

【愛知県】

都道府県名	行年/月日	行事の名称	開催場所	対象	備考	
愛知県	H22.7.23	愛知県献血推進大会	名古屋市中区役所ホール	一般県民	300回以上献血された方や長年組織的に献血に御協力いただいている企業または団体、献血推進に協力いただいている企業または団体に対して愛知県知事感謝状を贈呈した。	300回献血者 25名 献血協力団体 29団体 献血功労団体 2団体

【三重県】

都道府県名	行年/月日	行事の名称	開催場所	対象	備考	
三重県赤十字血液センター	年中		各企業・団体	従業員・団体職員	年間献血回数を2回から3回に増やして、実績を上げた。	
	年中		母体・各ルーム	各市町職員・団体職員	一定人数の成分献血者を確保し、送迎を実施した。	

【滋賀県】

都道府県名	行年/月日	行事の名称	開催場所	対象	備考	
滋賀県	H22.9.5	湖北長浜1000人献血運動	長浜市(長浜市市駐車場付近)	県民		献血者 141人
	H22.12.25	湖北長浜1001人献血運動冬の陣	長浜市(長浜市身山博物館前広場)	県民	地域のイベント会場での行事	献血者 67人

【京都府】

都道府県名	行年/月日	行事の名称	開催場所	対象	備考	
京都府	H22.5.7、H22.8.12、H22.8.13、H23.1.6、H23.1.7	職員献血	府庁	府職員	血液が不足しがちなゴールデンウィーク中、お盆、年始に京都府庁で職員を対象とした献血を実施	
	H22.7、H23.1~H23.2	愛の血液助け合い運動等	各広域振興局、保健所等	府職員、府民	各広域振興局等を対象とした献血の実施	

【大阪府】

都道府県名	行年/月日	行事の名称	開催場所	対象	備考	
大阪府	毎月第一水曜日	定例府庁前献血	府庁別館前等	府職員及び来庁者	庁内ウェブ及び庁内放送で協力呼びかけ 実施実績:計14回、644名献血(臨時含む)	
大阪府赤十字血液センター	H22.4.1~H23.3.31	大規模献血協力団体の計画的な協力依頼	大阪府内	府民	大規模の献血協力団体に対して、血液が不足する時期に献血を実施し、また複数回献血を実施することにより、安定的な血液の確保を図る	NTT労組、パナソニック関連会社、関西電力各社、ラクロス協会、大阪南部地域のだんじり祭り各青年団等
	H22.8.6 H22.8.16 他2回	ホテル献血	大阪府内のホテル	府民	高級ホテルの協力で、場所の提供及び紅茶、ケーキ等のもてなしをいただき、盛況であった	3箇所のホテルで523名の献血協力
	H22.8.24	ライオンズクラブ国際協会335-B地区クラブ献血担当委員長会議	ホテル日航大阪	335-B地区各ライオンズクラブ	各ライオンズクラブの献血担当委員長の献血意識を高めることにより、各クラブにおける献血者の増加を図る	研修会参加者214名
	H22.9.1~H23.2.28	ライオンズクラブ国際協会335-B地区献血委員会設立30周年記念事業	大阪府内の献血会場	府民	例年実施している献血以外に、各ゾーンで1,000人を目標に献血を実施する。	期間中に、1,000人献血の取り組みとして、264台、14,064人の協力を得た
	H22.9.4	国際ロータリー第2660地区クラブ社会奉仕委員長研修会	事業年金会館	第2660地区各ロータリークラブ	各ロータリークラブの社会奉仕委員長の献血意識を高めることにより、各クラブにおける献血者の増加を図る	研修会参加者95名

【兵庫県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施主体	備考
兵庫県赤十字血液センター	H22.4~H23.2	献血サポーターロゴマークの配布		企業・団体	現在、献血にご協力頂いている企業・団体に対してロゴマークを配布し、継続的に協力と緊急時等の積極的な依頼 208件配布
兵庫県	H22.8	夏季献血推進強化月間	県下全域	県内企業、団体	血液の不足しがちな時期に合わせ、文書による協力要請を呼びかけ。
	H22.12、H23.1	冬季献血推進強化月間	県下全域	県内企業、団体	血液の不足しがちな時期に合わせ、文書による協力要請を呼びかけ。

【奈良県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施主体	備考
奈良県	H22.10.14	団体献血	十津川村役場	村民	村民の献血率向上のため役場からの要請。 参加人数80名
	①H22.4.26、H22.4.27 ②H22.8.20、H22.8.24 ③H22.12.27、H22.12.28、H23.1.11	県庁献血	県庁東棟「県民ホール」	県庁職員・県警職員等	年間3回(4・8・12月)と緊急時に県庁職員を中心に献血協力を呼び掛け、献血者の確保を図る。 ①採血総数182名(受付総数199名) ②採血総数202名(受付総数230名) ③採血総数277名(受付総数315名) 緊急献血は実施せず

【和歌山県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施主体	備考
和歌山県赤十字血液センター	H22.4.18	和歌山市少年剣道連盟の献血	和歌山市民体育館	和歌山市内少年剣道連盟所属関係者ならびに父兄	毎年開催される大会における関係者の献血協力。(新規開拓)
	H22.6.1	和歌山競輪場での献血	和歌山競輪場	選手ならびに競輪場職員	新規開拓
	H22.7.8	全日本不動産協会和歌山県本部主催献血	全日本不動産協会和歌山県本部	会員	新規開拓
	H22.7.25	和歌山興紀ボーイズ(少年野球)主催献血	田井ノ瀬グラウンド(和歌山市)	関係者ならびに選手父兄	新規開拓
	H22.8.7、H22.9.19、H23.3.26		和歌山市	紀州レンジャーズ(独立リーグ野球)関係者および一般	紀州レンジャーズ関係者との協働献血活動。(新規開拓)
	H22.9.13	理容組合有田支部主催献血	有田市	理容組合有田支部会員ならびに一般	新規開拓
	H22.9.26	毎日ウィーク・イン和歌山	和歌山市	スタッフならびに来場者	新規開拓
	H22.4.1~H23.3.31	上記以外の新規企業・団体の献血(16企業・団体)	和歌山県下		新規開拓

【鳥取県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施主体	備考
鳥取県・市町村・鳥取県赤十字血液センター	H22.7~H22.8	事業所の巡回	県内	新規事業所等	「愛のたすけあい運動」期間中に事業所を訪問し、協力依頼を行っている。

【岡山県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施主体	備考
岡山県	H22.4.29	ももたろう献血キャンペーン	イトーヨーカドー岡山店	学生及び社会人を中心とした一般県民	県学生献血推進連盟主催により4月から新たに学生または社会人となる方を中心として県民に献血に対する理解を深めていただき、血液の安定的確保のため献血を呼びかけた。 献血者数(97名)
	H22.12.18 H22.12.23	クリスマス献血キャンペーン	イトーヨーカドー岡山店 イオン津山ショッピングセンター	学生及び社会人を中心とした一般県民	県学生献血推進連盟主催により若年層を中心とした県民に冬期に不足する血液確保のため、献血を呼びかけた。 献血者数 イトーヨーカドー岡山店(105名) イオン津山ショッピングセンター(155名)

【広島県】

都道府県名	行実施年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
広島県	H22.7.22	知事感謝状贈呈	輝城会館	功労20団体	特に献血推進に功勞のあった団体に、感謝状を贈呈	県献血推進大会で贈呈

【山口県】

都道府県名	行実施年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
山口県	通年	緊急時献血協力者名簿の作成	各事業所等	各事業所職員	名簿を利用し、献血要請を実施	

【徳島県】

都道府県名	行実施年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
徳島県	H22.4～H23.3	県庁職員成分献血者登録制度		県職員	徳島県における安全な医療用血液の安定的な確保を図るため、県職員の成分献血者登録制度を発足させた。	

【愛媛県】

都道府県名	行実施年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
愛媛県	H22.9.8	平成22年度献血推進協力団体等に対する厚生労働大臣表彰及び感謝状伝達式並びに知事感謝状贈呈式	愛媛県庁	県民	献血運動の推進に関し積極的に協力し、他の模範となる業績を示した会社、事業所、地域組織等に対し、知事感謝状の贈呈を行い、もって一層の献血運動の推進に資する。	
	常時	企業献血の推進		新規事業所	各ライオンズクラブを通じて事業所の紹介並びに事業所献血への協力を依頼	

【福岡県】

都道府県名	行実施年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
福岡県	通年	ライオンズクラブ主催献血の定着化	福岡県内各会場	ライオンズクラブ	既に献血に協力していただけており、多くの献血者確保をしていただけてライオンズクラブに対し、継続的にアプローチ	
	通年	新規献血機会の確保	福岡県内各会場	ライオンズクラブ等	関連のイベント等の機会に併せて献血も実施していただくよう交渉	

【佐賀県】

都道府県名	行実施年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
佐賀県	年度全般	献血協力団体とのタイアップによる献血に実施	各献血会場	各地区住民	市町村献血時にライオンズクラブ・ロータリークラブ等の協力を得る献血者確保の実時	

【長崎県】

都道府県名	行実施年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
長崎県	H22.6.25	三菱重工長崎造船所新人献血	移動バス、献血ルーム、血液センター	新入社員 190名	新入社員に献血を体験させ、街頭での献血を呼びかけるボランティアにも参加させ、献血意思を普及した。	献血来所者228名(3か所)

【熊本県】

都道府県名	行実施年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
熊本県	H22.9.15	熊本県ライオンズクラブ337-D地区献血推進研修会	血液センター	ライオンズクラブ三献運動協力会員	献血の現状と課題を説明し、献血に関する一層の推進を図った。	
	H23.3.2	熊本市地域婦人連合会献血推進研修会	血液センター	地域婦人連合会会員	献血の現状と課題を説明し、献血に関する一層の推進を図った。	
	H23.2.14～H23.3.10	献血推進リーダー研修会	県保健所	団体・企業等の献血推進リーダー	団体・企業等の献血推進リーダーに献血の現状等を説明し、一層の理解と協力の推進を図った。	

【大分県】

都道府県名	行実施年月日	行事の名称	開催場所	対象	内容	備考
大分県赤十字血液センター	H22.9.18	ライオンズクラブ献血セミナー	別府ビーコンプラザ	ライオンズクラブ会員	ライオンズクラブの会長や献血担当者を対象に献血に関する研修会を行い、ライオンズクラブ協力の献血での献血者増に繋げる。	

【宮崎県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施者	備考	備考
宮崎県	H22.5.28、H22.11.24、H22.12.7、 H23.2.24、H23.3.11	町、総ぐるみ献血参加運動	5市町村	開催市町村	県、市町村の有するネットワークを活用し、市町村の隅々まで献血の呼びかけを行う	H21から14市町村で実施し、前年実績比平均で200%を超えている。
	H22.8.13、H22.7.11、H23.2.13	県政けいじばん	新聞各紙	県民全般	口蹄疫、鳥フル、新燃岳による影響による献血者減少に対する献血協力をお願い	
	H22.7.14、H22.9.18、H22.11.10、 H23.1.12	がんばる献血応援団	新聞	県民全般	サポーター企業登録等のお願い	

【鹿児島県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施者	備考	備考
鹿児島県、 鹿児島県赤十字 血液センター	H23.3.3	ライオンズクラブ献血推進セミナー	鹿児島サンロイヤルホテル	ライオンズクラブ会員	ライオンズクラブを対象として、血液事業の現状をご理解いただくために献血推進セミナーを開催した。県内58クラブ中27クラブから参加していただいた。	

【沖縄県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施者	備考	備考
沖縄県				県内企業	工事現場や未実施の団体等に献血への協力を依頼した。	

⑨複数回献血者の増加

【北海道】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施者	備考	備考
北海道	H22.10.1～H22.12.31	血小板成分献血キャンペーン	北海道、全道定施設	血小板成分献血複数回献血者	例年、需要増が見込まれ、また、献血者が減少傾向にある時期に、複数回献血者を対象としたキャンペーンを行い、安定供給を図る(目ハムとタイアップ)	期間内に3回以上の協力者、目標値20.2%→20.5%と若干上回る

【青森県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施者	備考	備考
青森県	H22.4.1～H23.3.31	マッサージ(15回)の実施 リフレクソロジー(149回)の実施	献血ルーム	複数回献血クラブ会員	年2回以上400・成分献血に協力してくれる献血者に複数回献血クラブの入会を勧め、特権としてマッサージ・リフレクソロジーのサービスの提供をした。	新規複数回クラブ入会者740名
	H22.4.1～H23.3.31	新聞折込チラシ	献血バス	県民	献血バスが訪問する市町村に、新聞折込チラシを入れて献血者を募った。	340,000枚の配布

【宮城県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施者	備考	備考
宮城県赤十字 血液センター	H22.12.5	AED講習会および血液センター見学会	血液センター	複数回献血クラブ会員	複数回献血クラブ会員に対しAED講習会後に血液センター見学会を行うことにより、献血の重要性等について更なる理解を深めていただくと共に今後も複数回献血に協力していただけるよう実施	40名参加

【秋田県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施者	備考	備考
秋田県	H22.10.22	環境・保健事業功労者知事表彰	県正庁	過去10年以内において、献血運動に關し功労者として認められる方	献血運動の推進に積極的に協力し、他の模範となる実績を示した事業所等及び個人に対し、知事表彰状等を贈呈し、献血者に謝意を示す。	計90名(団体含む)
秋田県(赤十字血液センター)	H23.2.8～	複数回献血クラブ(メール会員)登録	血液センター、献血ルーム	既献血者	献血会場において、簡単に複数回献血クラブ(メール会員)へ登録できるようサイドスタンプを設置した。	月20人登録が、35人に増加
	H23.2～H23.3	ハンドトリートメントサービス	血液センター、献血ルーム	献血した方で、希望された方	ボランティア団体の協力により、ハンドトリートメントサービスを実施した。	大変好評であり、リピートにつながることを期待している。

【山形県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	実施者	備考	備考
山形県	通年	献血街頭キャンペーン	定常献血会場、イベント会場等	県民	人が多く集まる場所において、献血啓発資材を配布し、献血の普及啓発を図った	県内で24回実施

【福島県】

都道府県名	行われる月日	イベントの名称	開催会場	対象	概要	備考
福島県	H22.12～H23.1(応募券配布期間)	複数回献血クラブ入会キャンペーン	各献血会場	未入会献血者	複数回献血者の入会促進を目的として、応募券を配布し、入会後次の献血の際に処遇品(オリジナルチョロQ)をプレゼント	新規登録者数:H21年度497件に対してH22年度は946件(対前年比190%)

【茨城県】

都道府県名	行われる月日	イベントの名称	開催会場	対象	概要	備考
茨城県	通年	複数回献血クラブ	各献血会場	献血者	ネットケイタイクラブを活用し、献血の協力依頼やイベント情報を配信。	毎月2,700件配信 応諾率18%
	H22.11～H23.4	400mL献血推進キャンペーン	移動採血の全会場	400mL献血者	8月～11月に400mL献血者にカードを20,000枚配布し、11月からカード持参者に記念品を配布(3月・4月はダブルプレゼント)	12月～2月カード持参者2,538名

【栃木県】

都道府県名	行われる月日	イベントの名称	開催会場	対象	概要	備考
栃木県	H22.6.15	「県民の日」献血キャンペーン	栃木県庁舎内 県民広場(宇都宮市) 県民の日記念イベント会場内	県民	栃木県医薬品配置協会や栃木県学生献血推進連盟「かけはし」の協力を得て、県民に対し、献血の普及啓発を行うとともに、移動採血車による献血を行うことにより、「献血思想」の意識の醸成を図った。	来場者:約1,000名 献血者数:48名
	H22.7	「愛の血液助け合い運動」キャンペーン	県内	県民	ラジオやテレビによるスポットCM放送や県政広報誌への記事掲載により、400mL献血及び成分献血への理解と協力を呼びかけ、献血者の確保を図った。	
	H22.7.26	献血功労者表彰式	とちぎ福祉プラザ(宇都宮市)	県民	献血に功績のあった個人又は団体の表彰を行うとともに、一般県民も参加可能な記念コンサートを開催し、県民に対して、献血の普及啓発を図った。 第1部 式典 献血功労者の表彰 第2部 アトラクション ピアノコンサート	参加者:約150名
	H22.8.1～H22.8.31	チャレンジ! 400ml献血&成分献血キャンペーン	うつのみや大通り献血ルーム、栃木県赤十字血液センター、県内献血会場	県民	血液が不足する時期に献血者を確保するため、実施期間中に初めて「400mL献血」または「成分献血」に協力いただいた方にオリジナル記念品を贈呈し、県民各層の間に献血思想の普及を図った。	初回献血者 ・400mL献血 512名 ・成分献血 150名
	H22.10.3	「ヒューマンフェスタとちぎ2010」献血キャンペーン	マロニエプラザ(宇都宮市)	県民	栃木県学生献血推進連盟「かけはし」の協力を得て、啓発物資の配布、移動採血車による献血等を実施することにより、県民に対して、献血の普及啓発を図った。	来場者数:1,000名 献血者数:41名
	H23.1～H23.2	「はたちの献血」キャンペーン	・成人式 各市町の会場 ・シネアド TOHOシネマズ宇都宮及び109シネマズ佐野	新成人を中心に幅広い年代	各市町で開催する成人式でのリーフレット配布やラジオ・テレビによるスポットCM放送のほか、県内2か所の映画館でシネアートの放映を行うことにより、若年層を中心とした幅広い世代に献血への理解と協力を呼びかけ、献血者の確保を図った。	・新成人へのリーフレット配布数 23,075枚 ・シネアド放映回数 延べ約900回

【群馬県】

都道府県名	行われる月日	イベントの名称	開催会場	対象	概要	備考
群馬県赤十字血液センター	通年	献血メールクラブの推進	血液センター	携帯電話等電子メール使用環境を持つ幅広い年齢層	「献血メールクラブ」会員は6,000名に達した。血液不足対策だけでなく、緊急血液不足時の要請や献血キャンペーンのお知らせ等について当該ネットワークシステムを活用した電子メールによる情報配信を行った。	

【埼玉県】

都道府県名	行われる月日	イベントの名称	開催会場	対象	概要	備考
埼玉県	H22.12.1～H23.3.31	「携帯メールクラブ」新規会員募集キャンペーン	県内8か所献血ルーム	新成人を中心に幅広い年代	複数回献血を依頼する「携帯メールクラブ」会員の新規募集のためのポスター掲示を関係機関に依頼した。	携帯メールクラブ新規登録者数 3,682人(H22.12.31現在)

【千葉県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象者	実施内容	備考
千葉県	H22.12.5	赤十字セミナー	千葉県支部	子育て世代を中心に幼児安全法に関心のある方	パパとママの赤十字セミナーとして120人が参加。プロ野球選手がババ代表で参加したトークショーや、心肺蘇生法等の実技講習を実施。複数回献血くらぶ会員からも参加者を募集し、複数回献血の必要性をアピールした。	千葉県支部・成田赤十字病院・血液センター三者合同開催。ペイFMやホームページ・メール等で募集。
	H23.3から実施	複数回献血クラブ会員募集	献血ルーム	年1回の献血者	新規複数回献血くらぶ会員確保のため、サイトスタンパーを導入し、年1回の献血者に会員登録を促す。	6献血ルームに設置。来年度には、約3,000名の新規登録者を確保。
	H22.11から実施	電話による献血要請	献血ルーム	献血者	400mL献血可能者に電話による献血協力をお願いをした。	目標1日10名

【東京都】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象者	実施内容	備考
東京都	通年	複数回献血者確保事業	東京都内献血ルーム	ルーム来所献血者	今後の携帯メールクラブ加入へ導入を図るために、年間での複数回献血をハガキに献血者ご自身で記入いただき、献血サポーターとなっていた。	
	通年	400mL献血サポーター募集	東京都内献血ルーム	400mL献血者	各献血ルームにおいて、400mL献血協力者にその場でハガキに自筆で宛名を記入していただき、献血可能日前に当該ハガキを郵送して再来を勧奨する。	
	通年	メールによる献血要請	東京都内献血ルーム	ルーム来所献血者	複数回献血クラブ会員に定期的にEメールによる献血依頼要請を強化。	
	通年	はがきによる献血依頼(全血・成分)	東京都内献血ルーム	ルーム来所献血者	各献血ルームにおける一定期間未献血者に案内はがき(ダイレクトメール)を発送し献血推進を図る。	
	通年	はがきによる献血依頼(渉外支援)	移動・出張採血現場・東京都内ルーム	移動・出張・都内ルーム来所献血者	前回、同献血会場に来所した献血者に移動採血の案内はがき(ダイレクトメール)発送し献血依頼を強化。	

【神奈川県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象者	実施内容	備考
神奈川県赤十字血液センター	H23.3	国庫補助事業「複数回献血協力者確保事業」の「健康相談事業」	上大岡献血ルーム、みぞのくち献血ルーム、藤沢献血ルーム、本厚木献血ルーム	平日の開催日(曜日指定)の午前中に、上大岡献血ルーム、みぞのくち献血ルーム、藤沢献血ルーム、本厚木献血ルームで献血をした方のうち希望者	頭部等のマッサージと、快眠に関するアドバイス	

【新潟県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象者	実施内容	備考
新潟県	H23.2.1~H23.3.31	クリアファイルによる献血メールクラブPR		献血バスで400mL献血をしていた未登録者	クリアファイルにQRの付加されたPRリーフレットを入れて対象となる方にお渡しした。	
	H23.3.1~H23.3.31	未登録者に対する献血メールクラブPRと登録のお願い		400mLを献血していただいた方	複数回献血協力者確保のため、未登録者を抽出し、依頼文とリーフレットを送付した。	
	通年	企業等訪問		県内献血協力企業等	県、市町村、血液センターで県内の企業等を訪問し、献血への協力を依頼した。	

【富山県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象者	実施内容	備考
富山県	H22.4~H23.3	献血できなかった者に対する保健師による健康相談	献血協力企業など	献血の申込者のうち、低比重などで献血できなかった方	低比重不足などにより献血できなかった者に対し、保健師による健康相談を実施し、再チャレンジできるよう健康な献血者の確保に努める。	延べ52回、464名に実施。
	H23.2.27	LOVE LINK献血2011	ショッピングセンター	一般県民	ラジオ公開生放送による献血啓発活動及びLOVEメール会員募集イベントを実施した。	

【石川県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象者	実施内容	備考
石川県赤十字血液センター	H22.4~H23.3	複数回献血クラブ会員増加	県内献血会場等	複数回献血協力者	血液センターが作成するパンフレット等や要請書に複数回献血クラブを紹介する記事を載せ、会員募集した。	平成22年度には587名の増加となり、会員数は3,097名となった。

【福井県】

都道府県名	行実施年月日	行の名称	開催場所	対象	備考
福井県	通年	成分献血推進事業	血液センター	成分献血者(複数回)	成分献血について、ポイント制報償制度を実施し、複数回献血者を確保した。
福井県赤十字血液センター	通年	初回献血者に対する礼状の送付	血液センター	初回献血者	血液センター所長名で礼状を出し、年内に再度、献血をしていただいた方に記念品を提供した。
	通年	複数回献血者の確保	血液センター	複数回献血クラブ会員、複数回献血者	はがきおよびメールにて献血の周知を行った。
	H22.12.3	複数回献血者映画試写会の実施	映画館	複数回献血者、県民	成分献血の複数回献血者(抽選で200名)および県民(抽選で50名)を映画の試写会に招待した。

【山梨県】

都道府県名	行実施年月日	行の名称	開催場所	対象	備考
山梨県	H22.4~	はがき依頼	市町村献血	市町村での献血者	市町村での献血者に対しはがきによる献血依頼を行った。
	H22.4~	メールクラブ新規会員の募集	移動採血・献血ルーム	全献血者	各献血会場でチラシ、記念品(クリアケース)を配付し新規会員の募集を行った。

【長野県】

都道府県名	行実施年月日	行の名称	開催場所	対象	備考
長野県	駒ヶ根:H22.9.11~H22.9.12 佐久:H23.1.8~H23.1.10 飯田:H23.3.5~H23.3.6 中野:H23.3.12~H23.3.13	献血ルーム体験運動	駒ヶ根市、佐久市、飯田市、中野市内の大型店舗	県民(来客者、通行人)	血液センターが無い地域の大型店舗内に臨時の献血ルームを設置し、献血を体験する機会を設けるとともに、会場周辺でチラシ配布などの啓発活動を行った。
	長野:H22.8~H23.3 上田:H22.5~H23.3 岡谷:H22.5~H23.1 山形村:H22.5~H23.3	定例献血スポットキャンペーン	長野市、上田市、岡谷市、山形村内の大型店舗	県民(来客者、通行人)	大規模駐車場を備え集客力のある大型店舗へ移動採血車を配車し、定例的な献血会場として定着させることで献血者の確保を図った。
	サマー:H22.7.10、H22.7.19 クリスマス:H22.12.5、H22.12.11	学生ボランティアキャンペーン	長野駅前及び飯田市内の大型店舗	若年層を中心幅広い年代	献血者が減少する夏期と冬期に人が集まる場所へ移動採血車を配車し、学生ボランティアの協力を得て、サマーキャンペーン及びクリスマスキャンペーンを実施した。
	H22.12~H23.2	"けんけつ"啓発ラジオマンスリー放送	全県	県民(聴取者)	献血者が減少する冬期に聴取率の高い時間帯の番組内で、平日毎日、同じ時間に献血への協力を呼びかけた。
	H22.7、H23.1	ラジオスポット放送	全県	県民(聴取者)	全国的な献血キャンペーンの期間中に民放ラジオ2局でそれぞれ7日間ずつ献血への協力を呼びかけた。

【静岡県】

都道府県名	行実施年月日	行の名称	開催場所	対象	備考
血液センター	H22.4	複数回献血クラブ会員募集	静岡大学キャンパス	大学生	静岡大学キャンパスにおいて複数回献血クラブPRチラシを配布。
	H22.6.6、H22.9.25	複数回献血クラブ会員募集	アウトソーシングスタジアム日本平	サッカー観戦来場者	Jリーグ(清水エスパルス)公式戦来場者約5000人に複数回献血クラブPRチラシを配布。
	H22.11~H23.3	クラブ加入用サイトスタンプ	各献血ルーム・献血バス	献血来場者	各献血ルーム・献血バスにサイトスタンプを設置し複数回献血クラブに関心を持ってもらい、加入の促進を図った。

【愛知県】

都道府県名	行実施年月日	行の名称	開催場所	対象	備考
愛知県	H22.7.1~H23.3.31	400mL複数回献血キャンペーン	県内献血会場	400mL献血者	7月から11月の間、400mL献血に御協力いただいた方に「けんけつちゃん」カードをお渡しし、12月から平成23年3月までに再度400mL献血をしていただいた方に記念品を贈呈した。

【三重県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象者	内容	備考
三重県赤十字血液センター	H22.6～H23.3	複数回献血キャンペーン	県内採血バス			400ml献血の2回目実施以降は、記念品を進呈した。
	H23.3.6	メールクラブ会員イベント	三重県赤十字血液センター	メールクラブ会員	メールクラブ会員限定で、体操とAED講習を行った。	

【大阪府】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象者	内容	備考
大阪府赤十字血液センター	H22.4.1～H23.3.31	献血ルームにおける各種キャンペーン	大阪府内の献血ルーム(計11箇所)	府民	・ネイルケア、マッサージ、ハンドトリートメントサービス等 ・抹茶とお菓子のサービス、モーニングキャンペーン等 ・「生け花」の実演会、手相占い等	
大阪府	H22.7.1～H22.7.31	愛の血液助け合い運動	府内一円	府民	府内市町村及び市町村献血推進協議会を中心に街頭キャンペーン、機関紙等への広報掲載等を実施	
	H22.7.26	大阪府知事感謝状贈呈式(厚生労働大臣表彰状・感謝状伝達式同時開催)	KKRホテル大阪	献血に功績のあった団体並びに個人	大阪府知事感謝状の贈呈並びに厚生労働大臣表彰状感謝状の伝達	
大阪府赤十字血液センター	H22.8.1～H22.10.31 H23.1.4～H23.3.31	けんけつE倶楽部 新規会員登録キャンペーン	大阪府内の献血会場	府民	キャンペーンを実施し、会員入会の強化を図る	第1回、第2回のキャンペーン期間中の新規会員:8,302名
大阪府	H22.12.1～H22.12.31	大阪府献血推進月間	府内一円	府民	府内市町村及び市町村献血推進協議会を中心に街頭キャンペーン、機関紙等への広報掲載等を実施	
大阪府、日本赤十字社大阪府支部、大阪府赤十字血液センター	H22.12.1	大阪府献血感謝のつどい	エル・おおさか	献血にご協力いただいた団体並びに個人等	献血に多大なご協力をいただいた団体等の表彰及び記念講演	

【兵庫県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象者	内容	備考
兵庫県赤十字血液センター	H22.4.1～H23.2.28	プラス1献血クラブ会員への献血依頼メール配信	各献血会場	プラス1献血クラブ会員	会員に対して血液型別不足等において、全血・血小板成分献血の依頼をメールを配信する。	延3,978人の会員にメール配信し、728人の応諾があった。

【奈良県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象者	内容	備考
奈良県	H22.5～H23.4	400mL献血1・2キャンペーン	移動採血車	400mL献血者	年間400mL献血を2回以上協力していただいた方に記念品を進呈する。	400mL献血者999名の増加。延人数34,503⇒35,502

【和歌山県】

都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象者	内容	備考
和歌山県赤十字血液センター	H23.1.22、H23.3.27	健康に関する講演	和歌山市	献血希望者	献血のための健康作り。	
	H23.1.24～H23.1.26	健康相談動脈硬化測定	和歌山駅前献血ルーム	献血希望者	動脈硬化測定及び医師による健康相談を行った。	
	H23.2.21	栄養相談	大型ショッピングセンター	不採血者及び希望者	献血のための健康作り。	
	H23.3.27	栄養相談	大型ショッピングセンター	不採血者及び希望者	献血のための健康作り。	

【鳥取県】						
都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
鳥取県赤十字血液センター	年中	複数回献血クラブへの会員募集	血液センター等の固定施設及び移動採血車	献血者全員	安定的な血液確保するため、受付時にチラシを配布するとともに説明も行っている。	
【島根県】						
都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
島根県、島根県赤十字血液センター	H22.12.5	複数回献血クラブ感謝の集い	松江サティ	複数回献血クラブ登録者及び県民	日頃協力いただいている献血者に対する感謝と若者に対して献血の必要性を広く訴える事を目的に、体験発表等を実施	ポスター掲示、ミニライブ、映画「八月の二重奏」上映。献血クイズ
	H23.3.1～H23.3.16	「癒しのコーナー」開設	島根県赤十字血液センター	献血者	献血いただいた方に松江総合医療専門学校学生さんによるマッサージのサービスを実施。	期間中299名の利用者があり、大変好評だった。
【岡山県】						
都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
岡山県	H22.12.1	登録用サイトスタンプの設置	血液センター、献血ルーム	複数回献血クラブ登録希望者	携帯電話を当該機器にかざすことで複数回献血クラブへの入会が完了する。従来の方法と比較し、より簡便に入会できるため登録者の増加が見込まれる。血液センター、献血ルームに各2台ずつ設置。	導入後、複数回献血クラブへの登録率が従来より約37%増加した。
【広島県】						
都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
広島県		栄養士による食事改善相談	献血バス、ルーム	血色茶量不足者	鉄分を摂取しやすい食事について助言	
【山口県】						
都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
山口県	通年	複数回献血登録の要請	各献血会場	献血者	複数回献血を要請	
【徳島県】						
都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
徳島県	H22.4～H23.3	けんけつ「ハートメッセンジャー」事業	保健所、市町村窓口等	若年層を中心に幅広い年代	複数回献血クラブの会員数の増加を図ることを目的に、タウン誌、リーフレット等の印刷物にQRコードを掲載し、携帯電話から簡易にアクセスできるような環境整備に努めた。	
徳島県赤十字血液センター	H22.4～H23.3	血小板成分献血・400mL献血推進キャンペーン		複数回献血者	誕生日に該当する献血者及び血小板献血可能者に献血依頼の葉書を送付し、複数回献血者の増加を図った。	
【香川県】						
都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
香川県	成人式等	はたちの献血リーフレットの作成	各市町、献血ルーム	はたちの県民	はたちの献血キャンペーンにあわせ、配布した「はたちの献血」のリーフレットに献血登録制度について掲載。	
【愛媛県】						
都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
愛媛県	常時	リピートあいビーの周知	献血会場	献血者	献血者に「複数回献血クラブ(リピートあいビー)」の周知に協力し、複数回献血の推進を図る	
【福岡県】						
都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
福岡県	通年	メールクラブ・PCクラブ等、登録の推進キャンペーン	献血ルーム	献血初回者及び未登録献血者	血液不足時等に備えての対策として促進	
【佐賀県】						
都道府県名	実施年月日	実施の名称	開催場所	対象	概要	備考
佐賀県	年度後半	複数回献血登録パンフレット	各献血会場	一般献血者	登録方法がわかりやすいように作成し、献血者へ配布した。	

【長崎県】

都道府県名	開催年月日	活動の名称	開催場所	対象者	内容	備考
長崎県	H22.7.31	平成22年度長崎県献血推進大会	チトセピアホール	献血功労者、献血推進協力団体、一般県民	献血運動の推進に長年にわたり積極的に協力していただいた個人や団体に対し、長崎県知事及び日赤長崎県支部長の感謝状を贈呈し、これまでの献血推進功労に感謝の意を表した。	参加者 350人
	H23.3.26	複数回献血者並びにボランティア研修会	ホテル「セントヒル長崎」	複数回登録者	赤十字の理念と使命を正しく理解し、安全で安心な輸血用血液を確保するために血液事業への理解を深めると共に赤十字健康生活支援講習を通して健康で爽やかな明日のために日々の生活を見直す。	支部へも呼びかけし赤十字健康生活支援講習には、担当職員の協力をいただいた。

【熊本県】

都道府県名	開催年月日	活動の名称	開催場所	対象者	内容	備考
熊本県	H22.4～H23.3年間(6か所×1週間)	移動献血ギャラリー	繁華街、大型ショッピングセンター等の展示スペース	県民	パネル等を展示して400mL献血や成分献血の重要性並びに血液に関する正しい知識を県民各層に広げる取り組みを行った。	
	H22.7.1～H22.8.31	愛の血液助け合い運動	県内一円	県民	運動月間中に市町村、学生献血推進協議会及び献血協力団体等と連携を図って、広報紙、大型ビジョン、懸垂幕、各種広報資材を活用して、広く県民各層に献血への理解と協力の推進を図った。	
	H22.8.20	「献血者感謝の集い」(映画鑑賞)	市内映画館	県民	愛の献血助け合い運動の一環として、献血ルーム来場者を対象に100超200名を映画に招待し、複数回献血の協力を推進した。	
	通年	複数回献血クラブ会員登録推進	献血ルーム、献血会場	県民	複数回献血クラブ「ちくちく」の会員募集、周知を行った。	
	H22.10.24	献血クラブ「ちくちく」トレッキングイベント	阿蘇(高森)	複数回献血クラブ登録者	複数回献血者の登録会員に各種サービスの提供を行い、複数回献血を推進し、献血血液の安定供給や安全性確保を図るための取り組みを行った。	
	H22.11.3	献血クラブ「ちくちく」中庭ティータイムコンサート	血液センター	複数回献血クラブ登録者		
	H23.1.1～H23.2.28	はたちの献血キャンペーン	県内一円	県民	キャンペーン期間中に市町村、学生献血推進協議会及び献血協力団体等と連携を図って、広報紙、大型ビジョン、懸垂幕、各種広報資材を活用して、若者を中心に広く県民各層に献血への理解と協力の推進を図った。	
	H23.1.10	成人の日街頭キャンペーン	市中心部アーケード街	県民(新成人)	学生献血推進協議会と協力して、同世代の若者を中心に献血への協力を呼びかけた。	

【宮崎県】

都道府県名	開催年月日	活動の名称	開催場所	対象者	内容	備考
宮崎県	H22.5.13	がんばる献血応援団	新聞	若年層を中心とした幅広い年代層	複数回献血クラブ登録のお願い	
	H23.1.31～H23.3.31	複数回献血クラブ会員登録増強キャンペーン	献血ルーム	若年層を中心とした幅広い年代層	フットスパサービス、記念品として「けんけつちゃんオリジナルタオル」を進展	

【鹿児島県】

都道府県名	実施年月日	プログラムの名称	開催場所	対象	概要	備考
鹿児島県、鹿児島県赤十字血液センター	H22.4～	複数回献血クラブへの入会案内の強化	固定施設、移動採血会場	献血者	国の緊急雇用創出臨時特例基金を活用し、県赤十字血液センターに臨時職員を雇用して、複数回献血クラブへの入会案内の強化を図った。	
鹿児島県赤十字血液センター	H23.2.5	健康講話と救急法(AED)	血液センター研修ホール	複数回献血クラブ会員	複数回献血クラブ会員を対象とした、講座。会員本人には「今以上の健康」を、また他人のためには、献血同様「いざというときの救急法」という目的で設定した。(AED講習については希望多数のため同時に実施することとした)	現在、会員数が2300人程度であるが、メールで発信し、先着45名とした。(45名の参加)

【沖縄県】

都道府県名	実施年月日	プログラムの名称	開催場所	対象	概要	備考
沖縄県	H23.3.6	ゆいまーる献血コンサート	ショッピングセンター特設ステージ	来客者	アーティストによるコンサートの合間に献血トーク(献血の現状説明等)及び献血クイズを実施した。また、複数回登録の推進に関しては、パンフの配布やアーティストと共に呼びかけを行った。当日は移動献血も同時に実施した。	
	H22.12	登録依頼文(返信はがき付)による勧誘	平成22年12月より発送	成分・400mL献血者協力者	那覇市近隣10市町村在住の成分・400mL献血協力者へ登録依頼文書(パンフレット(登録申込返信はがき付き))を3カ月毎に送付し登録を勧誘した。	
	H23.1	サイトスタンプによる勧誘	各移動献血現場	献血者	携帯電話をかざす事で複数回献血クラブサイトにアクセスできる機器を各移動献血バスに設置し、複数回献血クラブへの登録を勧誘した。	

⑩その他

【滋賀県】

都道府県名	実施年月日	プログラムの名称	開催場所	対象	概要	備考
滋賀県	H22.7.30	愛の献血感謝のつどい	栗東市(文化芸術会館さくら)	県民	献血推進功労者の表彰等	

【奈良県】

都道府県名	実施年月日	プログラムの名称	開催場所	対象	概要	備考
奈良県	H22.7.1～H22.8.31	愛の血液助け合い運動(街頭献血キャンペーン)	県内市町村	県民	各市町村の街頭において献血啓発運動を実施し、献血思想の普及啓発並びに血液が不足する夏期において安全な血液製剤を安定的に供給するため、献血者の確保を図る。	県内市町村 27ヶ所で実施(参加者数:1804人・献血者数:1518人)
	H23.1.1～H23.2.28	はたちの献血キャンペーン(街頭献血キャンペーン)	県内市町村	県民	各市町村の街頭において献血啓発運動を実施し、新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く県民各層に献血に関する理解と協力を求め、献血者が減少しがちな冬期における安全な血液製剤の安定的供給のため、献血者の確保を図る。	県内市町村 23ヶ所で実施(参加者数:1377人・献血者数:1189人)
	①H22.4.1～H22.8.14(募集) ②H22.7.26(表彰)	献血運動啓発ポスター募集	①県内へ広報し、募集 ②県庁にて献血功績者と併せて表彰	①県内在住・在学・在勤の方(年齢制限なし) ②特選・入選者	広く県民に献血についての理解を深め、献血運動推進のPRに役立てるために実施。	①応募数 182 作品 ②対象:特選1点・入選4点
	①H22.8.3～H22.8.10(展示) ②H22.8.17～H22.8.24(展示)	献血運動啓発ポスター入賞作品の表彰及び展示	県内大型スーパー2店舗内 ①イオンモール橿原アルル ②イオンモール大和郡山	「献血運動啓発ポスター」入賞(特選・入選・佳作)作品(20点)	幅広い年齢層の優秀作品を展示することにより、広く県民各層に献血運動をPRし献血に対する理解と協力を求めることとする。	対象:特選1点・入選4点・佳作15点
	H22.7.26	献血功績者表彰式	県庁	献血に功績のあった者を表彰	献血に対する県民の理解を深め、献血運動を推進するため、献血に功績のあった者を表彰する。	①厚生労働大臣表彰の伝達:7団体 ②献血推進協議会会長(知事)表彰:12団体 ③「献血運動啓発ポスター」入賞者表彰:5名

【福岡県】

開催日	開催内容	開催場所	実施主体	備考
H22.5.14	福岡県市町村献血推進協議会連合会理事会	福岡県庁	理事	県内の市区町村献血推進協議会の事業に関する連絡調整及び円滑な運営を図ることを目的とする。理事会においては、市区町村献血推進協議会の事業等について協議を行った。
H22.7.22	第44回福岡県献血運動推進大会	宮若市 宮田文化センター	献血功労者及び県民	「愛の血液助け合い運動」の一環として開催。献血功労者に対する表彰、献血に関する体験発表等を行い、県内における献血思想の普及啓発を図った。
H22.7.14～H22.7.26	ライオンズクラブ並びに市区町村献血推進担当者合同研修会	北九州市 久留米市 福岡市 飯塚市	ライオンズクラブ、市区町村献血担当者及び献血推進協議会	昨年度の献血実績を報告し、今後の献血推進事業について説明を行った。
H22.10.27 H22.10.29	ライオンズクラブ並びに市区町村担当者合同献血推進研究会	北九州市 福岡市	ライオンズクラブ、市区町村献血担当者及び献血推進協議会	血液事業について研修を行うほか、ライオンズクラブ及び市町村担当者による献血に関する事例報告を行い、献血思想の普及啓発を図った。
H22.11.26	第14回福岡県輸血療法委員会合同会議	福岡県庁	血液製剤を使用する医療機関の医師、薬剤師、臨床検査技師等	血液製剤の使用適正化に密接な関係にある医療現場における輸血について、適正な輸血療法の推進を目的として開催。輸血療法に関する研修や、輸血業務に関するアンケートの集計結果を基に今後の課題検討等を行った。
H23.2.25	福岡県献血推進協議会	福岡県吉塚合同庁舎	委員	次年度の献血推進計画を策定するとともに、その他献血組織の育成強化、献血思想の普及を図るための広報活動等を行った。
H22.5.11～H22.5.13 H22.8.18～H22.8.20 H23.1.12～H23.1.14	県庁職域献血	福岡県庁	県庁職員、来庁者	県庁本庁舎において、県庁職員を対象とする職域献血を年3回(計9日間)実施し、職員の献血に対する意識向上に努めた。

【沖縄県】

開催日	開催内容	開催場所	実施主体	備考
H22.7.5	愛の血液助け合い運動街頭キャンペーン	県内	県民	広く県民に献血への理解と協力を求めた。
H22.7.30	厚生労働大臣、県知事表彰、日赤支部長及び県血液センター所長表彰の伝達式	県内(県庁内)	受賞団体及び個人	愛の血液助け合い運動の一環として、厚労大臣表彰及び県知事表彰等の伝達式を行った。
H23.1.6	はたちの献血街頭キャンペーン	県内	県民(若年層を中心)	新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く県民各層に献血に関する理解と協力を求めるとともに、特に成分献血、400mL献血の継続的な推進を図った。
H23.1.10	成人式での知事メッセージ伝達	県内成人式会場	二十歳の成人	「はたちの献血」キャンペーンの一環として、成人式会場において新たに成人式を迎える若者へ知事メッセージを送った。
H23.2.2	血液センター1日所長	県内(献血ルーム前)	県民(若年層を中心)	二十歳の学生を1日献血所長に任命し、献血のPR活動を行った。

献血者確保対策について

(日本赤十字社の取り組み)

20110916

日本赤十字社血液事業本部

日本赤十字社が実施した血液需給将来推計シミュレーションでは、現在の献血率(献血可能人口の延べ献血率 5.9%)のまま少子高齢化が進展すると、需要がピークを迎える平成 39 年(2027 年)には、献血者約 101 万人分の血液が不足することが示された。

こうした状況を踏まえ、将来に亘り血液の安定供給を行える体制を確保するため、国が策定した平成 26 年(2014 年)度までの中期的な献血推進目標(献血推進 2014)を踏まえ、達成目標を以下のとおり設定し、献血の推進を一層強力に実施する。

平成 27 年(2015 年)度以降については、それまでの結果を踏まえ、献血推進に係る新たな目標の設定を行う。

*献血推進 2014(平成 26 年(2014 年)度までの達成目標)

項目	目標	平成 22 年度実績
若年層の献血者数の増加	10 代(注 1)の献血率を 6.4%まで増加させる。	6.1%
	20 代の献血率を 8.4%まで増加させる。	7.7%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を 50,000 社まで増加させる。	45,343 社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間 120 万人まで増加させる。	999,325 人

1. 平成 26 年度までの達成目標

(1) 若年層の献血者数の増加について

・10 代では、平成 22 年(2010 年)度の献血率 6.1%(29.6 万人)を踏まえ、23 年(2011 年)度は 6.0%(29.3 万人)、24 年(2012 年)度 6.1%(29.5 万人)、25 年(2013 年)度 6.2%(29.8 万人)、26 年(2014 年)度 6.4%(30.0 万人)まで増加させる。

・20 代については、平成 22 年(2010 年)度の献血率 7.7%(108.1 万人)を踏まえ、23 年(2011 年)度は 7.9%(111.0 万人)、24 年(2012 年)度 8.0%(109.9 万人)、25 年(2013 年)度 8.2%(109.2 万人)、26 年(2014 年)度 8.4%(108.7 万人)まで増加させる。

*献血率算出における人口については、総務省統計局発表資料「平成 22 年国勢調査 抽出速報集計」を準用

(2) 安定的な集団献血の確保について

・安定的な集団献血の確保を図るために、集団献血等に協力いただける企業・団体を平成23年(2011)度は46,400社、24年(2012)度は47,600社、25年(2013)度は48,800社、26年(2014)度は50,000社まで増加させる(参考1)。

(3) 複数回献血の増加について

・複数回献血者については、平成22年(2010)年度の100万人を踏まえ、平成23年(2011)度は106万人、24年(2012)度は111万人、25年(2013)度は115万人、26年(2014)度は年間120万人まで増加させる(参考1)。

2. 上記1.を達成するための重点的な取組み

(1) 献血の意義を明確に理解していただく。

献血の意義や、献血血液の医療現場での使用状況について、国民が広く理解できるように進めることが、献血意識を高めることにつながることから、当年度以降、血液事業をより理解していただくためのターゲットごとの広報を継続的に展開し、受血者の顔が見える取組みを一層強化する。

(2) 安定供給につながる若年層(中学生、高校生)への対策に力を入れる。

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に「献血制度について適宜触れること」が盛り込まれたことから、平成23年から25年度にかけては、高校生はもとより将来の献血可能群である中学生を対象とした献血セミナーを学校へ出向いて積極的に実施するよう努める(参考1)。

内容としては、献血のみならず赤十字活動全体を含めて命の大切さを盛り込んだ統一資材を用いる。26年度以降は、それまでの実施状況を踏まえ、統一資材の改訂及び献血セミナー実施目標の新たな設定も含めて、当該施策を展開する。

(3) 安心して献血ができる環境を整備する。

献血ルームについては、平成22年9月に策定された「献血ルーム施設整備ガイドライン」に基づき、平成23年度以降順次移転・拡張等を進める。

2

また、献血バスの機能面の改善、イメージアップを目的として、平成23年度中にトラック仕様の献血バス(平成22年度導入済)の運用の調査及び評価を行った上で、仕様等の検討を行い、平成24年度以降に具体的な製作導入に向けた作業を進め、その導入を図る。

(4) 採血基準の見直しに伴う献血者フォロー

400mL献血の可能年齢を男性17歳に引き下げること及び血小板成分採血を69歳まで延長すること等の省令が改正され、平成23年4月から実施されたことから、採血時あるいは採血後の副作用発生状況を把握していく。また、同時に献血の必要性、採血副作用の種類・発生頻度、献血後の注意事項等の献血に関する必要な情報について初回献血者を始めとした献血者へ周知徹底していく。

(5) 献血手帳(カード)の様式見直し等を行う。

複数回献血の増加を図るために、複数回献血クラブ会員(希望者)を対象として、現行の献血カードに加え、新たなデザインの献血カードを提供する(平成23年10月3日全国導入予定、参考2)。

また、現在の磁気カードに替わり、データ容量の多いICカードの導入について、平成23~24年度中に検討を開始、平成25年度中にシステム構築を進め、平成26年度中の導入を図る。

(6) 効率的な献血受入のあり方を各血液センターで共有する。

平成23年度に献血バスの採血効率や献血受入環境(接遇体制、行政や献血推進団体等との関わり等)の調査を行い、平成24年度以降、各血液センターにおいて効率的な採血の実施にかかる情報の共有を図り、採血効率性を高める。

(7) 献血受入に係る効果的な広報のあり方を検討する。

各献血ルームにおける献血者の動向調査結果(「採血基準の見直しと献血者確保の方策に関する研究」河原委員報告、平成22年3月)を踏まえ、年齢別・地域別の献血者分布に基づく、献血者確保の効果的な広報のあり方を検討する。

(参考) 平成 23 年度献血受入計画

(1) 献血受入の基本方針

ア. 献血受入体制の整備

献血者の安全性と利便性に配慮し、立地条件等を考慮した採血所の設置、移動採血車による計画的採血等、効率的な採血を行うための設備及び体制の整備・充実を継続的に実施する。また、採血所における休憩スペースの十分な確保や地域の特性に合わせたイメージ作り等環境整備に努め、一層のイメージアップを図る。

イ. 献血者の処遇等の充実

献血者が安心して献血できるように、献血の受入れに当たっては、献血者を丁寧に対処し、不快の念を与えないよう、職員の教育訓練の充実強化により献血者の処遇向上を図るとともに、献血者の意見・要望を把握し、献血受入体制の改善に努める。

また、献血者の個人情報保護や献血者健康被害救済制度についても適正な運用に努める。

ウ. 初回献血者への対応

初めて献血をする方の献血に対する不安等を払拭するために、献血の手順や献血後の過ごし方等の映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行う。また、学校献血会場において、採血後の献血者をケアする者を配置し、採血副作用の防止に努める。

エ. 検査サービス等の実施

献血者の健康管理に資するため、引き続き希望者に対し生化学検査成績、血球計数検査成績をお知らせする。

また、ヘモグロビン濃度の低値により献血にご協力いただけなかった献血申込者に対して健康相談等を実施し、献血者の増加を図る。

(2) 献血者の確保

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため幼少期も含めた若年層、企業や団体、複数回献血者を普及啓発の対象として効果的な活動や重点的な献血者募集を実施するとともに健康な高齢層の献血受入れについても積極的に推進する。

また、病氣やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等により、血液製剤がこれを必要とする患者さんへの医療に欠くことのできない有限なものであることを含めた献血思想の普及啓発を図る。

4

特に少子高齢化による若年層献血者の減少を踏まえ、若年層を対象とした取組みとして体験学習の継続的な実施等、献血への動機付けとしての活動も積極的に推進する。

ア. 若年層を対象とした対策

① 若年層全体に対する対策

若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、同世代からの働きかけ、病氣やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等、効果的な広報に努める。

② 小学生、中学生を対象とした対策

献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明するため、ボランティア組織の協力を得ながら、学校へ出向いての献血セミナーや血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図る。

③ 高校生を対象とした対策

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に献血に関する内容が盛り込まれたことから、これまで実施してきた若年層献血はもとより、献血のみならず、赤十字活動全体を含めた命の大切さ等についての献血セミナーを学校へ出向いて積極的に実施するよう努める。

④ 大学生を対象とした対策

・献血推進活動を行っている献血ボランティア組織等の協力を得て、連携を図り、大学生における献血や血液製剤に関する理解、献血体験の促進に努める。

・学生献血ボランティアとの更なる連携を図るとともに、その組織基盤強化を図る。

・さらに、将来の医療の担い手となる学生等に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組みを行う。

⑤ 10代への啓発として、採血基準の改正により、男性に限り400mL全血採血が17歳から可能となることについて普及啓発に努める。

イ. 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

① 20歳代後半～30歳代の女性を対象とした対策

5

この年代の女性については、出産、あるいは子育てに忙しいという理由により献血者が減少しているものと考えられることから、その取組みとして、地域の特性に応じて献血ルームにキッズスペースを整備する等の受入体制を整え、親子が献血にふれあう機会を設けるよう努める。

② 40歳～50歳代を対象とした対策

企業や団体の中心的な存在であるこの年代に対して、「血液の使われ方」、「献血可能年齢」等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、社会貢献活動の一つとして、地域の実情に即した方法で企業・団体等における献血の推進を図る。

③ 60歳以上を対象とした対策

- ・この年代は、60歳を超えたところでの献血者数の割合が急激に減少しており、その理由として定年退職することにより献血に関する情報に触れる機会が減ってしまうことや健康上の問題等が要因として考えられることから、定年退職後も引き続き積極的に献血に協力していただけるよう、情報伝達の方法を工夫するなど献血者の増加を促進するよう努める。
- ・70歳以上の献血が出来なくなった方についても、個人ボランティアとして協力頂き、献血の推進に支援いただけるよう努める。
- ・また、血小板成分献血について、採血基準の改正により、男性に限り69歳まで可能となることについて普及啓発に努める。

ウ. 企業等における献血の推進対策

社会貢献活動の一環として、献血に協賛する企業や団体を募り、地域の実情に即した方法で献血の推進を図る。

エ. 複数回献血協力者の確保

複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブの充実等、重点的な啓発、施策を行うよう努める。

また、複数回献血の増加を図るために、複数回献血クラブ会員(希望者)を対象として、現行の献血カードに加え、新たなデザインの献血カードを提供する(平成23年10月3日全国導入予定、参考2)

オ. 献血推進キャンペーン等の実施

将来の献血基盤となる10代・20代の若年層献血の推進は、血液事業にとって喫緊の課題であり、広く国民への献血の普及啓発を図るため、戦略的なキャンペーン等の広報を展開する。

【平成23年度に予定されている主なキャンペーン】

- ・複数回献血者確保キャンペーン(4～5月)
- ・愛の血液助け合い運動(7月)
- ・いのちと献血俳句コンテスト(7月～12月)
- ・全国学生クリスマス献血キャンペーン(12月)
- ・はたちの献血キャンペーン(1～2月)
- ・LOVE in Action プロジェクト(通年)

①青少年等献血ふれあい事業

Table showing the number of participants in the 'Youth Blood Donation Campaign' across various prefectures from Heisei 19 to Heisei 22. The table is organized by year and includes columns for implementation count and participant numbers across different age groups (Kindergarten, Elementary, Junior High, High School, etc.).

②若年者献血セミナー事業

Table showing the number of participants in the 'Young People Blood Donation Seminar' across various prefectures from Heisei 19 to Heisei 21. The table is organized by year and includes columns for implementation count and participant numbers across different categories (High School, University, etc.).

③献血協賛企業活動推進事業

	企業・団体数				ロゴマーク配付数			
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	2008年 3月末現在	2009年 3月末現在	2010年 3月末現在	2011年 3月末現在	目標2,400	目標2,400	目標2,400	目標2,400
北海道	1,850	2,050	2,217	2,336	117	117	117	117
青森	650	681	815	846	25	6	6	10
岩手	897	953	1,136	1,190	64	64	64	64
宮城	715	852	1,100	1,226	24	32	47	52
秋田	1,042	1,145	1,423	1,467	10	14	75	75
山形	512	565	602	726	25	0	22	36
福島	1,308	1,475	1,635	1,737	92	6	5	8
茨城	783	890	1,020	1,109	54	54	54	54
栃木	787	887	979	1,044	55	30	35	2
群馬	734	810	896	923	52	52	52	52
埼玉	1,131	1,269	1,421	1,456	2	7	2	79
千葉	1,080	1,202	1,343	1,425	24	79	79	79
東京	969	1,102	1,242	1,320	11	45	7	17
神奈川	757	810	884	864	53	53	36	4
新潟	832	728	826	858	44	44	4	11
山梨	204	227	256	269	16	10	15	15
富山	582	598	619	648	2	0	2	1
石川	279	317	346	354	19	13	53	2
福井	242	278	302	310	17	17	17	13
長野	759	863	981	993	209	0	0	2
岐阜	701	800	894	942	49	45	49	49
静岡	1,359	1,540	1,737	1,823	6	1	18	13
愛知	1,633	1,871	1,995	2,121	76	44	56	16
三重	655	736	819	853	29	12	12	15
滋賀	319	362	396	418	14	3	5	5
京都	573	634	686	710	4	24	19	11
大阪	1,712	1,867	2,196	2,292	121	121	121	121
兵庫	1,717	1,916	2,117	2,178	124	5	2	111
奈良	408	474	530	546	9	0	2	9
和歌山	804	710	788	819	43	43	43	6
鳥取	816	717	806	825	15	6	44	44
島根	733	823	836	977	52	7	52	52
岡山	545	644	746	794	29	29	10	6
広島	130	145	185	179	9	9	9	9
山口	563	622	682	697	8	41	40	8
徳島	483	540	600	612	35	19	10	35
香川	574	670	736	753	38	13	38	38
愛媛	824	882	1,013	1,106	62	62	62	49
高知	381	446	508	553	20	18	15	28
福岡	409	457	510	540	59	27	27	2
佐賀	246	282	320	348	18	10	2	10
長崎	811	697	824	854	42	42	53	42
熊本	403	455	506	519	30	5	3	1
大分	286	347	388	396	21	21	21	1
宮崎	518	589	648	662	12	1	10	35
鹿児島	741	836	927	947	45	52	27	52
沖縄	415	543	634	696	23	28	28	28
全国計	34,059	38,389	43,183	45,343	1,685	1,331	1,450	1,483

④複数回献血者クラブに関する事業

	平成19年度				平成20年度				平成21年度				平成22年度			
	クラブ会員数 (H20.3末現在)	クラブ情報誌等 発行部数	各種講習会等 開催回数	健康相談 実施回数	クラブ会員数 (H21.3末現在)	クラブ情報誌等 発行部数	各種講習会等 開催回数	健康相談 実施回数	クラブ会員数 (H22.3末現在)	クラブ情報誌等 発行部数	各種講習会等 開催回数	健康相談 実施回数	クラブ会員数 (H23.3末現在)	クラブ情報誌等 発行部数	各種講習会等 開催回数	健康相談 実施回数
北海道	1,800	4,000	1	8	3,200	72,050	1	3	5,300	25,000	1	3	7,540	25,000	1	7
青森	2,500	40,000	1	45	3,200	130,000	1	100	3,713	140,000	1	100	4,024	35,000	1	149
岩手	1,000	9,500	2	32	1,400	7,500	2	42	1,678	11,000	2	48	1,899	8,000	1	34
宮城	3,800	150,000	2	14	5,700	60,000	1	8	7,803	90,000	5	8	10,319	80,000	1	5
秋田	1,800	72,000	2	19	2,000	20,000	9	19	2,134	13,220	1	14	2,408	94,670	1	17
山形	700	46,600	1	32	1,200	70,000	1	50	2,187	60,000	1	41	3,033	15,000	0	25
福島	1,800	70,000	1	18	2,300	5,500	1	18	2,789	5,700	1	18	3,825	4,000	2	11
茨城	2,000	72,000	1	21	2,800	90,000	1	21	3,528	130,000	1	10	4,979	1,100	1	10
栃木	1,200	100,000	5	93	2,100	28,000	7	161	2,531	12,500	6	96	2,621	14,500	8	65
群馬	2,000	43,000	1	48	3,500	22,700	1	84	5,744	80,000	1	89	7,113	40,000	1	49
埼玉	7,800	12,000	1	1	12,100	20,000	1	12	19,263	131,380	1	38	24,214	162,000	2	0
千葉	3,400	110,000	1	16	5,200	120,000	1	10	7,982	140,000	1	12	10,807	30,000	1	13
東京	21,800	40,000	3	45	30,500	90,000	3	21	42,613	270,000	1	11	91,979	68,528	1	10
神奈川	4,400	45,000	3	30	8,300	36,400	3	28	19,175	94,083	2	20	30,198	63,917	1	7
新潟	1,100	10,000	1	38	2,100	10,000	1	33	3,099	10,000	1	33	5,198	30,070	1	34
山梨	900	6,806	2	30	1,000	5,519	2	30	1,625	9,430	1	30	2,004	11,577	1	28
富山	500	131,500	1	14	800	115,500	1	25	960	31,800	1	32	1,242	31,800	1	32
石川	700	27,200	1	41	1,700	40,000	1	39	2,440	65,000	1	39	3,007	742	1	13
福井	1,000	63,024	2	73	2,000	115,000	1	51	2,710	80,500	1	50	3,555	30,000	1	51
長野	1,600	37,500	1	17	1,900	21,000	1	17	2,925	51,000	1	17	6,035	70,500	1	17
岐阜	1,500	40,000	1	41	2,100	23,000	1	40	2,504	18,000	1	44	3,180	40,000	1	28
静岡	2,600	80,000	3	42	3,800	80,000	2	29	6,425	120,000	2	56	8,729	108,000	1	22
愛知	5,000	45,000	1	3	9,800	8,000	1	5	13,751	13,000	1	7	19,438	35,000	1	7
三重	500	131,000	3	15	1,100	111,200	1	16	1,515	110,350	2	15	2,129	100,850	1	14
滋賀	700	10,000	1	32	900	15,000	2	43	1,053	10,000	3	97	1,285	10,000	2	97
京都	2,900	16,000	2	8	4,100	21,000	1	8	5,578	22,500	1	8	7,424	40,000	1	8
大阪	7,400	25,000	1	10	15,000	155,000	1	10	13,757	200,000	1	10	33,909	10,000	0	6
兵庫	2,500	37,500	1	21	4,700	19,000	2	39	8,019	58,000	1	3	11,861	10,000	1	7
奈良	1,300	120,000	4	21	1,700	100,000	4	29	3,553	60,000	2	30	4,562	62,500	2	48
和歌山	500	53,257	3	10	1,400	14,489	4	15	2,360	50,000	1	10	2,853	55,443	3	5
鳥取	400	38,780	3	31	500	41,000	3	28	685	26,500	2	32	862	3,000	1	19
島根	1,100	21,100	3	18	1,300	166,100	2	19	1,824	32,600	1	17	2,184	104,530	2	14
岡山	1,000	60,000	1	42	2,200	80,000	1	28	2,675	3,000	2	18	3,488	80,000	1	11
広島	900	170,000	2	32	1,600	40,000	2	40	2,284	15,000	2	32	2,985	50,000	2	23
山口	800	170,000	2	32	1,300	117,020	3	48	1,784	25,000	1	19	2,462	60,000	1	39
徳島	400	20,300	1	25	800	2,000	1	49	1,067	32,000	1	50	1,421	297	1	50
香川	500	30,000	3	39	800	10,000	3	37	1,634	50,000	4	24	2,587	30,000	2	17
愛媛	800	82,000	1	25	1,600	57,098	1	30	3,724	50,000	1	76	5,908	60,000	1	36
高知	500	86,000	1	46	900	7,000	1	48	1,135	2,200	1	50	1,432	1,000	1	40
福岡	7,200	39,070	1	15	8,100	39,951	1	15	10,180	59,415	1	17	13,753	55,657	1	16
佐賀	800	10,700	1	16	1,000	204,000	1	16	1,104	304,000	1	38	1,254	9,800	1	13
長崎	600	10,000	1	30	1,000	10,000	1	32	1,326	10,000	3	29	1,715	6,000	1	19
熊本	4,100	89,000	1	9	4,800	150,000	1	20	2,988	100,000	1	19	5,773	100,000	2	2
大分	1,500	8,000	1	30	2,000	4,000	1	4	2,068	4,000	1	6	2,413	2,050	1	2
宮崎	500	15,000	2	21	900	13,281	1	30	1,152	12,448	2	2	1,780	4,000	1	20
鹿児島	700	9,875	2	22	900	10,000	2	13	1,623	10,000	10	24	2,222	12,000	1	10
沖縄	700	30,000	1	15	800	21,500	2	20	918	26,000	2	20	1,908	2,500	1	13
全国計	109,400	2,627,731	80	1,280	169,100	2,589,806	86	1,487	236,902	2,676,624	82	1,457	375,525	1,846,831	60	1,151

(参考2)

複数回献血クラブ会員専用カードについて

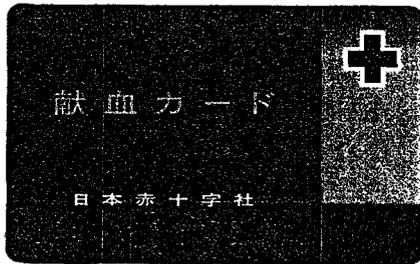
1. 目的

若年層の献血者数の増加、安定的な集団献血の確保、複数回献血の増加については、平成26年度までの中期目標を設定し、重点的に推進を図っているところであるが、その中で複数回献血者については、平成26年度までに120万人まで増加させる目標を設定し、取り組んでいるところである。

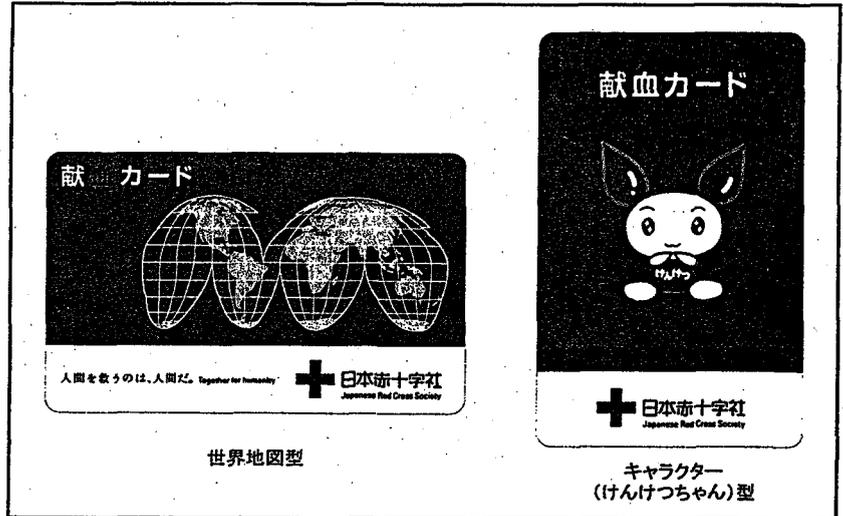
特に若年層の複数回献血の推進については、メールを利用した複数回献血クラブの入会促進を積極的に行うことが必要と考え、今般、従来のデザインと異なる新たなデザインの献血カードを「複数回献血クラブ」会員へ発行することにより、会員限定の付加価値の高いサービスとして提供する。また、入会していない献血者には入会促進のツールとして活用し、更なる複数回献血の推進を図る。

2. 運用開始日

平成23年10月3日(月)予定



従来型



世界地図型

キャラクター
(けんけつちゃん)型

採血基準の見直しに伴う影響について

20110916

日本赤十字社血液事業本部

I. 採血基準の改正内容

「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行について」(平成 23 年 3 月 11 日付け薬食発 0311 第 1 号厚生労働省医薬食品局長通知)により、採血基準が以下のとおり改正された(施行時期 平成 23 年 4 月 1 日)。

1. 健康診断の方法の見直し

- ・健康診断の方法から血液比重検査を削る。

2. 全血採血基準の見直し

(1) 共通

- ・血液比重に係る部分を削る。

(2) 200mL 全血採血

- ・男性に限り、献血可能な者の血色素量の下限値を「12g/dL」から「12.5g/dL」に引き上げる。

(3) 400mL 全血採血

- ・男性に限り、献血可能な者の年齢の下限を「18 歳」から「17 歳」に引き下げる。
- ・男性に限り、献血可能な者の血色素量の下限値を「12.5g/dL」から「13g/dL」に引き上げる。

3. 血小板成分採血基準の見直し

- ・男性に限り、献血可能な者の年齢の上限を「54 歳」から「69 歳」に引き上げる(65 歳から 69 歳までの者については、60 歳から 64 歳までの間に献血の経験がある者に限る。)

II. 採血基準の改正に伴う献血状況

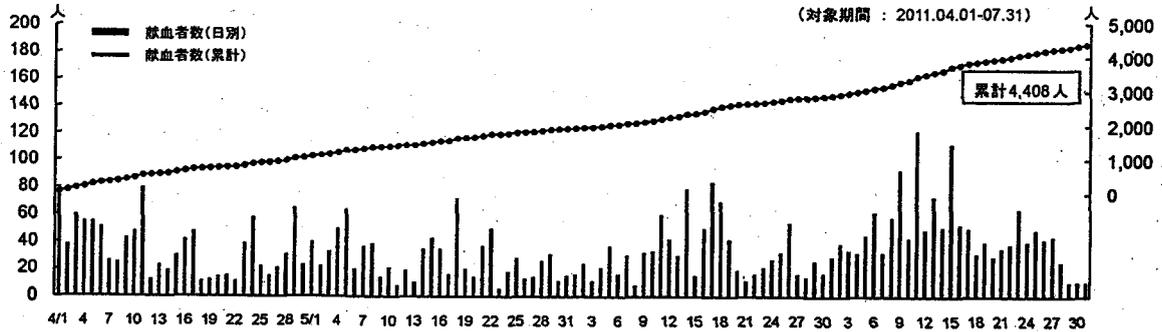
日本赤十字社では、平成23年4月1日から、改正された採血基準による献血受入を開始した。それに伴う献血の状況及び開始前後の広報展開について、以下のとおり概要を報告する。

なお献血状況の対象期間は、平成23年4月1日から平成23年7月31日までの4ヵ月間とした。

1. 400mL 献血者数(17歳男性)の推移

対象となる献血者数は4,408人であった。また、17歳男性全血献血者の合計は6,022人であり、400mL 献血者数の構成比は73.2%であった(グラフ1)。今後、同様の協力状況が継続された場合、年間で約13,000人になるものと推定される。

(グラフ1)



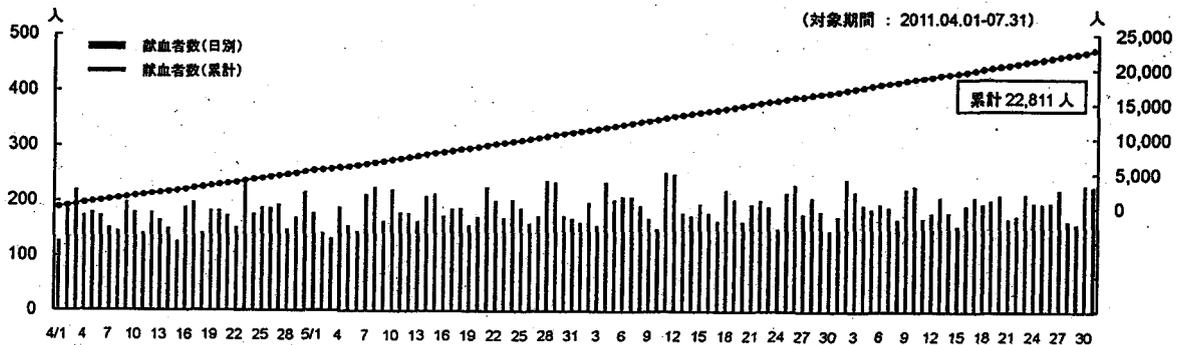
	200mL 献血	構成比	400mL 献血	構成比	計	構成比
平成22年度	4,604	100.0%	—	—	4,604	100.0%
平成23年度	1,614	26.8%	4,408	73.2%	6,022	100.0%

*4-7月(4ヵ月間)の比較

2. 血小板成分献血者数(55-69歳の男性)の推移

対象となる献血者数は22,811人であった。血小板成分献血者(男性)の合計は219,917人であり、55-69歳男性の血小板成分献血者数の構成比は10.4%であった(グラフ2)。今後、同様の協力状況が継続された場合、年間で約68,000人になるものと推定される。

(グラフ2)



	18-54歳	構成比	55-69歳	構成比	計	構成比
平成22年度	210,007	100.0%	—	—	210,007	100.0%
平成23年度	197,106	89.6%	22,811	10.4%	219,917	100.0%

*4-7月(2ヵ月間)の比較

3. 血色素量の下限値の引き上げにより献血できなかった方(男性)の推移

200mL 献血希望者 240 人については、血色素量の下限値の引き上げ(12.0g/dL → 12.5g/dL)により採血基準を満たしていないことから、献血ができなかった。

また、400mL 献血希望者 14,254 人については、血色素量の下限値の引き上げ(12.5g/dL → 13.0g/dL)により、12,922 人(献血希望者の90.7%)が献血できなかった状況である一方で、200mL 献血、血小板成分献血及び血漿成分献血での協力者は 1,332 人であった(献血希望者の9.3%)。

(単位:人)

血色素量 12.0-12.4	献血希望者	献血できなかった方	献血協力者
200mL 献血	240	240	—

*血色素量の下限値の引き上げにより 200mL 全血採血基準を満たさない群

(単位:人)

血色素量 12.5-12.9	献血希望者	献血できなかった方	400mL 献血以外での献血協力者			
			200mL 献血	血小板成分献血	血漿成分献血	計
400mL 献血	14,254	12,922	1,183	84	65	1,332

*血色素量の下限値の引き上げにより 400mL 全血採血基準を満たさない群

4. 広報展開

また、広報展開として、①テレビ CM の放映、②新聞 43 紙(全国紙 3 紙、各地域で購読率の高い地方紙 36 紙、スポーツ紙全国版 4 紙 計 3,700 万部)への掲載、③ラジオ番組での周知、④ポスターの作製(B2 判 5,000 部、B3 判 5,000 部)、掲出、及び⑤日本赤十字社 HP への関連情報の掲載並びに各献血会場でのデジタルサイネージ(映像配信機器)を用いた周知等を実施した(参考)。

(参考 1)

I テレビ CM 放映(別添 1 参照)

1. 番組提供(全国放送)

放送局名	番組名	放送日	放送曜日	放送時間
日本テレビ	Going! Sports&News	平成 23 年 3 月 5 日, 13 日, 19 日, 27 日	土, 日	23 時 55 分-24 時 35 分
TBS	激闘大家族 SP	平成 23 年 3 月 8 日	火	19 時 56 分-21 時 48 分
	東京下町5つ子ちゃん成長期 2011			
	世界進出バラエティー。メイドイン JAPAN	平成 23 年 3 月 22 日	火	19 時 00 分-20 時 54 分
	紳助社長のプロデュース大作戦 SP	平成 23 年 3 月 29 日	火	19 時 00 分-20 時 54 分
フジテレビ	LIVE2010 すぼると!(土曜日)	平成 23 年 3 月 5 日, 19 日	土	24 時 15 分-25 時 05 分

*上記番組中に 30 秒の CM を 1 回又は 2 回放映したこと。

2. スポット放映

地区	放送局名				
北海道	札幌テレビ	北海道放送	北海道文化放送	北海道テレビ	—
東北	青森放送	青森テレビ	青森朝日放送	テレビ岩手	IBC 岩手放送
	岩手めんこいテレビ	岩手朝日テレビ	岩手朝日テレビ	宮城テレビ	東北放送
	仙台放送	東日本放送	秋田放送	秋田テレビ	秋田朝日放送
	山形放送	テレビユー山形	さくらんぼテレビ	山形テレビ	福島中央テレビ
	テレビユー福島	福島テレビ	福島放送	—	—

地区	放送局名				
関東甲信越	日本テレビ	フジテレビジョン	テレビ新潟	新潟放送	新潟総合テレビ
	新潟テレビ 21	山梨放送	テレビ山梨	-	-
東海北陸	北日本放送	チューリップテレビ	富山テレビ	テレビ金沢	北陸放送
	石川テレビ	北陸朝日放送	福井放送	福井テレビ	テレビ信州
	信越放送	長野放送	長野朝日放送	静岡第一テレビ	静岡放送
	テレビ静岡	静岡朝日テレビ	中京テレビ	中部日本放送	東海テレビ
	メ〜テレ	-	-	-	-
近畿	讀賣テレビ	関西テレビ	-	-	-
中四国	日本海テレビ	山陰放送	山陰中央テレビ	西日本放送	山陽放送
	岡山放送	瀬戸内海放送	広島テレビ	中国放送	テレビ新広島
	広島ホームテレビ	山口放送	テレビ山口	山口朝日放送	四国放送
	南海放送	あいテレビ	テレビ愛媛	愛媛朝日テレビ	高知放送
	テレビ高知	高知さんさんテレビ	-	-	-
九州沖縄	福岡放送	RKB 毎日放送	テレビ西日本	九州朝日放送	サガテレビ
	長崎国際テレビ	長崎放送	テレビ長崎	長崎文化放送	熊本県民テレビ
	熊本放送	テレビ熊本	熊本朝日放送	テレビ大分	大分放送
	大分朝日放送	宮崎放送	テレビ宮崎	鹿児島読売テレビ	南日本放送
	鹿児島テレビ	鹿児島放送	琉球放送	沖縄テレビ	琉球朝日放送

*各放送局の空き時間帯に放映を依頼したこと(平成 23 年 3 月 18 日から 31 日までの間)。

II 新聞広告掲載(別添 2 参照)

1. 掲載紙

全国紙(読売新聞・朝日新聞・日本経済新聞)3 紙・地方主要紙 36 紙・全国版スポーツ新聞(スポーツ報知・日刊スポーツ・スポニチ・サンケイスポーツ)4 紙の合計 43 紙 合計 約 3,700 万部

2. 掲載規格

全 5 段モノクロ

3. 掲載日

平成 23 年 3 月 1 日から 31 日までの間 各紙 1 回

III ラジオ番組での告知

JFN38 局ネットにより毎週月曜日から金曜日の午前 6 時 30 分から 10 分間放送している「LOVE in Action」において、逐次、採血基準の一部改正に係る情報を提供したこと。

IV ポスター製作及び配布等

採血基準の一部改正に係るポスター(別添 3 参照)を 1 万部(B2 判 5,000 枚、B3 判 5,000 枚)、A4 判クリアファイル(別添 4 参照)を 40 万部(A4 判)、各々製作して各血液センターに配布するとともに、各献血ルームに整備してあるデジタルサイネージ(映像配信機器)においてもポスター情報を掲出したこと。

また、献血推進団体等に配布することを目的に、当該採血基準の一部改正に係るリーフレット(別添 5 参照)を制作し、より詳細な情報の周知を図ったこと。さらに、献血 Walker(一般国民向け献血推進小冊子)に関連記事を掲載したこと(別添 6 参照)。

別添1(テレビCM)

TVCF「石川週会話篇+採血基準変更告知」篇(15秒)



ラフ・イン・アクション

献血にご協力いただける年齢・条件が広がりました！詳しくはWEBへ

献血の回数や量・条件が広がりました！詳しくはWEBへ

ありがとうございます

別添2(新聞広告)

献血にご協力いただける皆様へ
平成23年4月1日から
年齢条件などの採血基準が一部改正になります。



【改正内容】

- 献血にご協力いただける方の年齢の拡大
(1) 男性に限り、400mL全量献血が可能な方の年齢の下限を「18歳」から「17歳」に引き下げます。
(2) 男性に限り、全量献血が可能な方の年齢の上限を「64歳」から「69歳」に引き上げます。
※献血者として登録する年齢は引き続き16歳以上となります。
- 血色素量(ヘモグロビン濃度)の下限値の引き上げ
(1) 男性に限り、200mL全量献血が可能な方の血色素量の下限値を「12g/dL」から「12.5g/dL」に引き上げます。
(2) 男性に限り、400mL全量献血が可能な方の血色素量の下限値を「12.5g/dL」から「13g/dL」に引き上げます。
※血色素量「ヘモグロビン濃度」の測定方法は引き続きHbA法となります。

詳しくは日本赤十字社のホームページへ www.jrc.or.jp

400mL・成分献血にご協力下さい

別添3(ポスター)

献血にご協力いただける皆様へ
平成23年4月1日から
年齢条件などの採血基準が一部改正になります。

【改正内容】

- 献血にご協力いただける方の年齢の拡大
(1) 男性に限り、400mL全量献血が可能な方の年齢の下限を「18歳」から「17歳」に引き下げます。
(2) 男性に限り、全量献血が可能な方の年齢の上限を「64歳」から「69歳」に引き上げます。
※献血者として登録する年齢は引き続き16歳以上となります。
- 血色素量(ヘモグロビン濃度)の下限値の引き上げ
(1) 男性に限り、200mL全量献血が可能な方の血色素量の下限値を「12g/dL」から「12.5g/dL」に引き上げます。
(2) 男性に限り、400mL全量献血が可能な方の血色素量の下限値を「12.5g/dL」から「13g/dL」に引き上げます。
※血色素量「ヘモグロビン濃度」の測定方法は引き続きHbA法となります。

項目	従来	改正後
年齢(男性)	18歳以上64歳以下	17歳以上69歳以下
年齢(女性)	16歳以上64歳以下	16歳以上69歳以下
血色素量(ヘモグロビン濃度)	12g/dL以上	12.5g/dL以上

詳しくは日本赤十字社のホームページへ
www.jrc.or.jp

日本赤十字社 電話 03-3463-1111



日本赤十字社

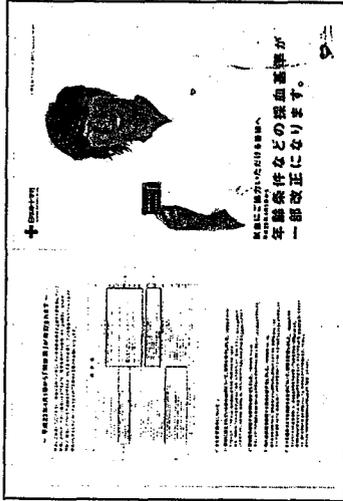
別添4(クリアファイル)



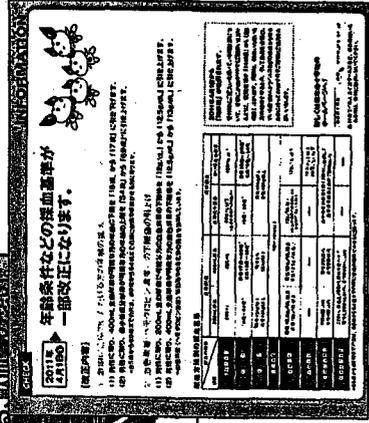
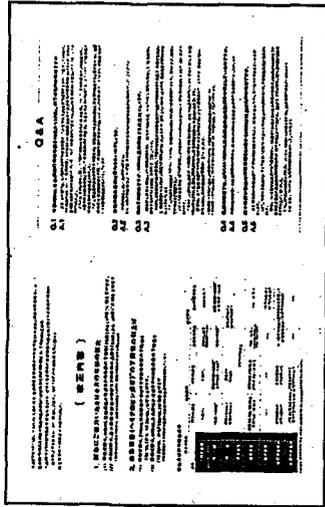
ほらもう一つの、知りたかった。石川達也

LOVE in Action

別添5(リーフレット)



別添6(献血 Walker)



(参考2)

1. 男性400mL献血年齢引き下げ(18歳→17歳)による影響
(平成23年4月~7月)

表1. 献血者数

献血者合計

	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
計	19,461	837,681	857,142	114,788	254,390	369,178	1,226,320

16~18歳

年齢	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
16	3,856		3,856	4,692		4,692	8,548
17	1,614	4,408	6,022	6,146		6,146	12,168
18	1,140	20,170	21,310	5,373	7,792	13,165	34,475
計	6,610	24,578	31,188	16,211	7,792	24,003	55,191

表2. VVR発生数

献血者合計

	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
計	225	5,666	5,891	775	3,017	3,792	9,683

16~18歳

年齢	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
16	39		39	54		54	93
17	16	88	104	62		62	166
18	29	529	558	89	297	386	944
計	84	617	701	205	297	502	1,203

表3. VVR発生率

献血者合計

	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
計	1.16%	0.68%	0.69%	0.68%	1.19%	1.03%	0.79%

16~18歳

年齢	男性			女性			計
	200	400	小計	200	400	小計	
16	1.01%		1.01%	1.15%		1.15%	1.09%
17	0.99%	2.00%	1.73%	1.01%		1.01%	1.36%
18	2.54%	2.62%	2.62%	1.66%	3.81%	2.93%	2.74%
計	1.27%	2.51%	2.25%	1.26%	3.81%	2.09%	2.18%

2. 男性血小板献血の年齢引き上げ(54歳→69歳)による影響

(平成23年4月～7月)

表1. 献血者数

献血者合計

	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
計	136,397	210,006	346,403	134,429	480,832

年齢	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
55	2,187	3,516	5,703	1,485	7,188
56	2,014	3,195	5,209	1,343	6,552
57	1,991	2,557	4,548	1,370	5,918
58	1,931	2,233	4,164	1,271	5,435
59	1,663	1,846	3,509	1,123	4,632
60	1,763	1,829	3,592	1,063	4,655
61	1,889	1,752	3,641	1,144	4,785
62	1,888	1,515	3,403	1,056	4,459
63	1,733	1,367	3,100	943	4,043
64	1,283	837	2,120	746	2,866
65	694	489	1,183	429	1,612
66	896	496	1,392	401	1,793
67	1,078	458	1,536	491	2,027
68	1,169	377	1,546	487	2,033
69	1,258	344	1,602	501	2,103
計	23,437	22,811	46,248	13,853	60,101

表2. VVR発生数

献血者合計

	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
計	303	739	1,042	1,484	2,526

年齢	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
55	5	7	12	10	22
56	4	12	16	13	29
57	4	13	17	12	29
58	2	11	13	12	25
59	2	3	5	15	20
60	1	1	2	12	14
61	3	3	6	10	16
62	6	4	10	11	21
63	3	6	9	12	21
64	1	2	3	8	11
65	1	2	3	2	5
66	1	0	1	5	6
67	1	2	3	0	3
68	1	1	2	5	7
69	1	1	2	6	8
総計	36	68	104	133	237

表3. VVR発生率

献血者合計

	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
計	0.22%	0.35%	0.30%	1.10%	0.53%

年齢	男性			女性	計
	PPP	PC	小計	PPP	
55	0.23%	0.20%	0.21%	0.67%	0.31%
56	0.20%	0.38%	0.31%	0.97%	0.44%
57	0.20%	0.51%	0.37%	0.88%	0.49%
58	0.10%	0.49%	0.31%	0.94%	0.46%
59	0.12%	0.16%	0.14%	1.34%	0.43%
60	0.06%	0.05%	0.06%	1.13%	0.30%
61	0.16%	0.17%	0.16%	0.87%	0.33%
62	0.32%	0.26%	0.29%	1.04%	0.47%
63	0.17%	0.44%	0.29%	1.27%	0.52%
64	0.08%	0.24%	0.14%	1.07%	0.38%
65	0.14%	0.41%	0.25%	0.47%	0.31%
66	0.11%	0.00%	0.07%	1.25%	0.33%
67	0.09%	0.44%	0.20%	0.00%	0.15%
68	0.09%	0.27%	0.13%	1.03%	0.34%
69	0.08%	0.29%	0.12%	1.20%	0.38%
計	0.15%	0.30%	0.22%	0.96%	0.39%

東日本大震災への対応



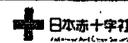
日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1

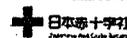
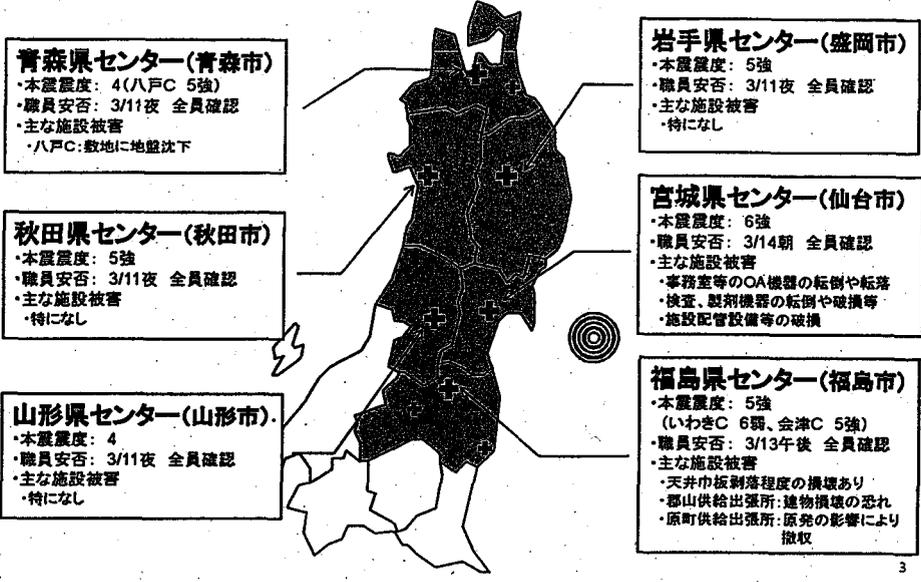


1. 血液センターの被災状況
2. 血液製剤の安定供給と献血者の安定的確保
3. 福島第一原子力発電所事故にかかる対応
4. 計画停電の影響
5. 身元不明遺体の特定にかかる協力

2



1. 血液センターの被災状況



ライフラインの復旧と各業務の再開日

	ライフラインの復旧			献血受入再開日		検査・製剤再開日	
	電気	ガス	水道	固定施設	移動採血	検査	製剤
青森C	3/12	—	—	3/13	3/14	宮城C再開まで 東京Cで実施	3/13
八戸C	3/12	—	—	3/14			
岩手C	3/12	—	—	4/20	4/18	4/18	4/18
宮城C	3/12	3/27	3/22	4/18	5/1 (受入可能な会場 から再開)	4/13	4/13
秋田C	3/12	—	—	3/13	3/14	宮城C再開まで 東京Cで実施	3/13
山形C	3/12	—	—	3/13	3/14	宮城C再開まで 埼玉Cで実施	宮城C再開まで 新潟Cで実施
福島C	—	—	3/18	4/18	5/1 (受入可能な会場 から再開)	4/18	4/18
会津C	—	—	—	4/25			
いわきC	—	3/14	4/8	4/26			

検査:東北各県の検査業務は宮城Cに集約
製剤:岩手C、山形Cの製剤業務は宮城Cに集約

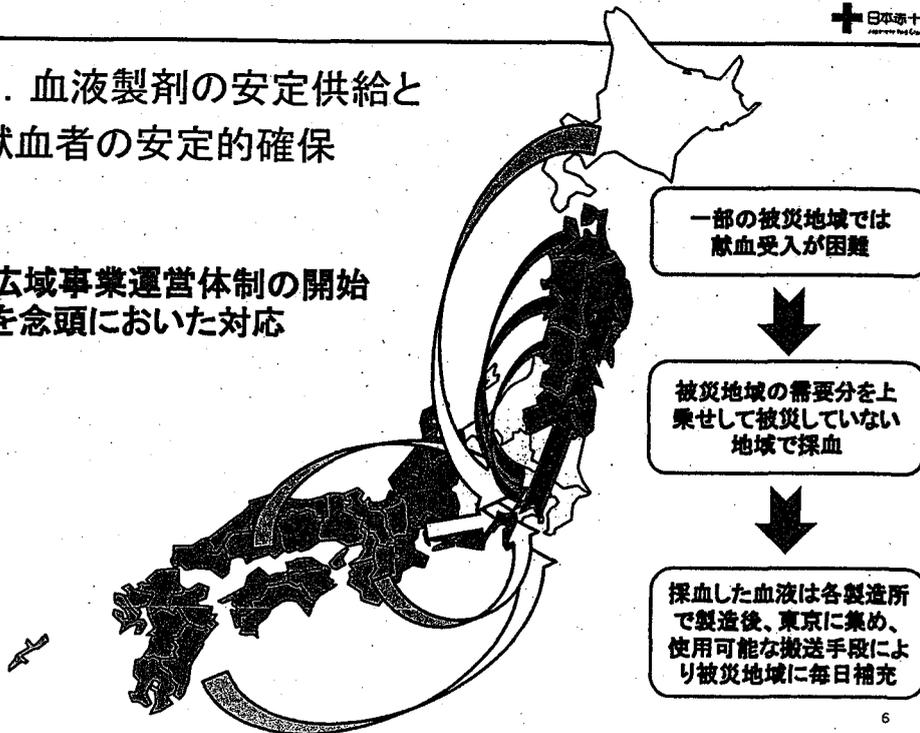
被災地域における安定供給への影響

- 医療機関と連絡がとれない(有線電話・携帯電話ともに不通)
 - 医療機関に直接訪問し血液製剤を供給(巡回供給)
- 燃料の不足(ガソリン、軽油)
 - 緊急車輛の燃料補給にも苦慮
 - 公共交通機関の不通、一般車輛の燃料補給が困難なことにより職員の通勤に支障(基幹センターである宮城県センター供給業務を中心として、全国の血液センターから緊急車輛8台、延べ100人の支援)
- 停電により自家発電装置のない供給施設等の血液製剤等は母体の血液センターへ搬送
- 被災地域での献血受入は困難

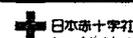
5

2. 血液製剤の安定供給と献血者の安定的確保

広域事業運営体制の開始を念頭においた対応



6



宮城ブロックの採血及び供給状況(3月～4月)

(速報値)

	3月				4月				
	献血者数 (人)	前年比 (%)	供給本数 (単位換算)	前年比 (%)	献血者数 (人)	前年比 (%)	供給本数 (単位換算)	前年比 (%)	
宮城ブロック	19,744	61.1	95,302.0	83.2	15,737	47.6	106,002.5	98.5	
(特に被害の大きい県)	岩手県	1,687	36.3	14,314	87.7	1,925	41.2	16,078	105.2
	宮城県	2,708	35.4	20,900	76.4	1,340	18.2	27,224.5	111.0
	福島県	2,611	34.7	19,959.5	70.9	759	9.2	21,187.5	84.9

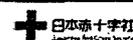
〔例: 血小板製剤〕

→ 宮城ブロックの翌日平均供給数の約9割を各ブロック(計画停電のため東京ブロックは除いた)が需給調整により支援体制を整備

月曜日平均供給数が205本であれば9割に当たる185本を需給調整

〔内訳〕 北海道ブロック(1割・18本)、愛知ブロック(2.5割・47本)、大阪ブロック(3割・55本)、岡山ブロック(2割・38本)、福岡ブロック(1.5割・27本)

7



震災後のブロック間 受払状況

(単位:換算)

ブロック	赤血球製剤				血小板製剤			
	受入		払出		受入		払出	
	3/12～3/31	4/1～4/30	3/12～3/31	4/1～4/30	3/12～3/31	4/1～4/30	3/12～3/31	4/1～4/30
北海道	0	20	491	2,375	20	0	2,500	4,015
宮城	12,285	26,651	0	0	31,500	38,325	0	0
東京	156	17,601	9,720	21,820	27,735	43,280	29,390	38,700
愛知	2	1	152	5,272	30	160	6,100	11,295
大阪	3	422	1,049	4,365	60	60	10,430	13,265
岡山	38	210	0	3,027	85	175	5,530	8,810
福岡	0	2	1,072	8,048	330	225	5,810	6,140
合計	12,484	44,907	12,484	44,907	59,760	82,225	59,760	82,225

全国的な支援体制により安定供給を確保

8



血液製剤(赤血球製剤)の在庫保有率の推移

適正在庫数(過去一年間の平日の平均1日需要量の3日分を目安)を100%としている

ブロック	3月11日	3月21日	3月31日	4月11日	献血者数対前年同月比※	
					400mL献血	血小板献血
北海道	154%	263%	194%	203%	107.0%	119.0%
宮城	175%	172%	157%	177%	61.7%	39.0%
東京	200%	245%	209%	180%	104.8%	98.5%
愛知	190%	283%	282%	229%	113.4%	113.4%
大阪	180%	262%	246%	192%	114.5%	108.4%
岡山	170%	236%	267%	195%	115.3%	108.3%
福岡	167%	371%	397%	200%	131.4%	119.9%
合計	183%	263%	249%	195%	109.5%	102.1%

※【参考】平成23年3月分における400mL献血者数及び血小板献血者数の対前年同月比(献血者速報値)

9



— 安定供給への対応 — — 一時期に偏ることのない継続的な献血へのお願い

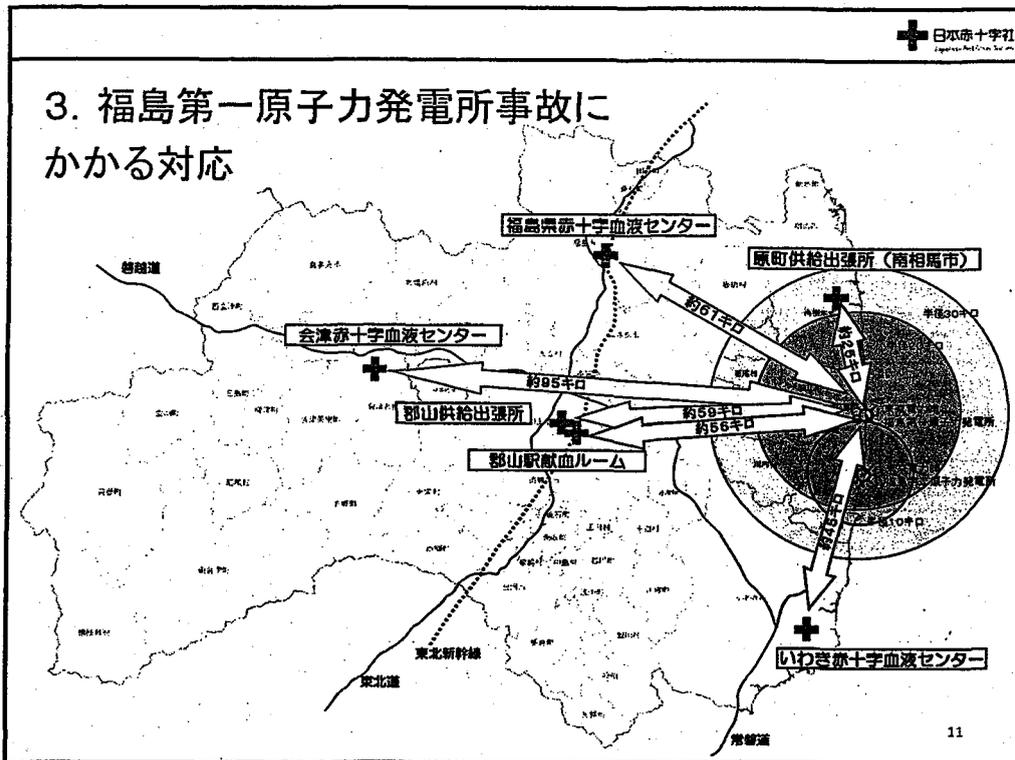
〔日赤ホームページに3月13日に掲載(一部を抜粋)〕

皆様からのご協力によりまして、現時点におきましては、医療機関からの需要に安定的に血液をお届けできております。

しかしながら、血液製剤は有効期限があることから、一時期に献血者が集中すると、期限切れが発生し、医療機関への安定供給に支障をきたす恐れがあります。

皆様からの善意の献血を無駄にすることなく最大限に被災地の医療に活用するため、一時期に偏ることのない継続的な献血が必要でありますので、何卒ご理解のうえ、今後とも献血へのご支援を賜りますようお願いいたします。

10



- + 日本赤十字社
Nippon Red Cross Society
- 南相馬市・原町供給出張所(第一原発から約25km)の業務休止

→ 半径20km圏内の地域住民に対する国からの避難指示を受け、3月13日に撤収し、在庫を福島センターに移管して福島センターからの供給に切替える
 - いわきセンター(第一原発から約45km)の貯留保管新鮮凍結血漿の移管

→ 非難区域が拡大する事態を想定し、移送に時間がかかる貯留保管新鮮凍結血漿(約6,500本)を3月18日に九州血液センターへ移管

現在も業務は継続中
 - 供給時における放射能対策

→ 線量計を配備し、30km圏内を走行する場合は携帯
- 12

4. 計画停電の影響

- 対象地域の献血ルームでは受付時間の変更(時間短縮)
- 検査・製剤業務の作業時間の延長(夜間対応等)

13

5. 身元不明遺体の特定にかかる協力

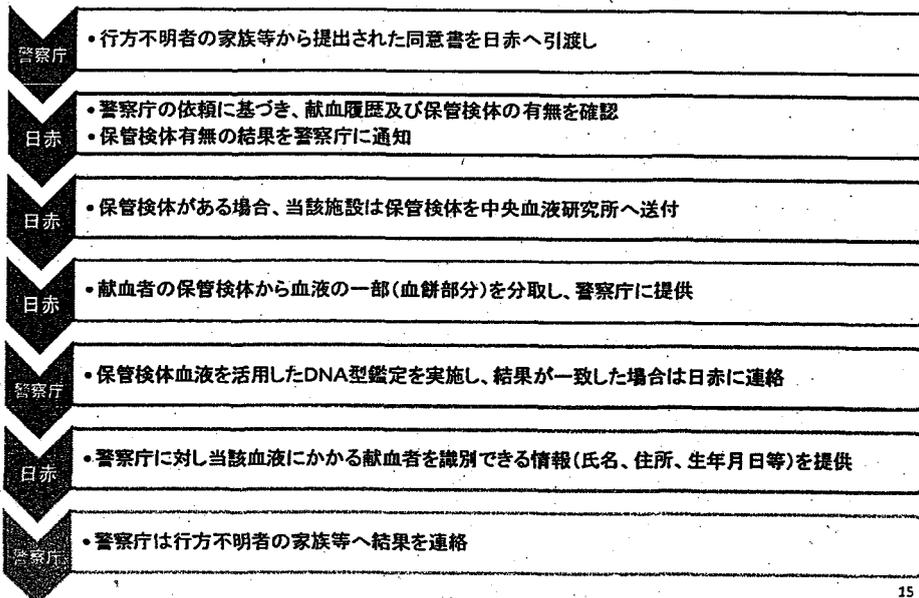
非常時における例外措置として協力

【条件】

- ① 東日本大震災の行方不明者であること
- ② 本人の家族、親族の要請によるものであること
- ③ 本人の特定のためのDNA鑑定のためにのみ使用すること
- ④ 使用後は血液を廃棄すること
- ⑤ 検体保管の目的に支障を及ぼすことがないこと
(提供する血液は微量であること)

14

全体的な流れ



15

(平成23年9月12日現在)

- ・同意書受領数 … 1,271
- ・献血者履歴有りの数 … 183
- ・血液提供数 … 122
- ・提供血液により身元が判明した数 … 30

16

献血推進に係る新たな中期目標について
～献血推進 2014～

平成 22 年 11 月 9 日

1. 背景及び目的

病気やけがで血液を必要とする方が我が国には数多くおられるが、これらの血液は、国民の善意による無償の献血により支えられている。我が国の献血者は昭和 60 年度には延べ約 876 万人を数えたが、その後減少の一途をたどり、平成 19 年度には約 496 万人まで低下した。その後、平成 17 年度から 5 ヶ年の目標を立て実施した「献血構造改革」の取組み等により、平成 21 年度には約 530 万人まで回復したものの、10 代の献血率は依然低下傾向が続いており、高齢化により血液の需要の増加が見込まれる将来の安定供給が危ぶまれる状況にある。

日本赤十字社が実施した血液需給将来推計シミュレーションでは、現在の献血率（献血可能人口の献血率 5.9%）のまま少子高齢社会が進展すると、需要がピークを迎える平成 39 年（2027 年）には、献血者約 101 万人分の血液が不足することが示された。

こうした状況を踏まえ、将来に亘り血液の安定供給を行える体制を確保するため、平成 26 年（2014 年）度までの達成目標を以下の通り設定し、献血の推進を一層強力に実施することとする。[献血推進 2014]

2. 平成 26 年（2014 年）度までの達成目標

項目	目標	H21 年度
若年層の献血者数の増加	10 代（注 1）の献血率を 6.4%まで増加させる。	6.0%
	20 代の献血率を 8.4%まで増加させる。	7.8%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を 50,000 社まで増加させる。	43,193 社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間 120 万人まで増加させる。	984,766 人

（注 1）10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳を指す。

3. 重点的な取組みについて

上記の目標を達成するため、以下に掲げる事項に重点的に取り組む。

① 献血の意義を明確に理解していただく。

献血の意義や、献血血液の医療現場での使用状況について、国民が広く理解しているとは言えない状況にあり、また、その理解を進めることが、献血意識を高めることにつながることを示されている。献血推進にあたっては、献血の意義を国民に十分理解していただくことに努めるとともに、受血者の顔が見える取組みを一層強化する。

② 安定供給につながる若年層への対策に力を入れる。

10 代、20 代の献血者は、今後長期にわたり我が国の輸血医療を支える重要な世代である。

i) 10 代への働きかけ

10 代は、多くの献血者が人生で初めて献血を経験する世代である。平成 23 年 4 月 1 日の採血基準の改定及び平成 21 年 7 月改訂高等学校学習指導要領解説保健体育編における「献血」に関する記載を踏まえ、10 代の方々に献血の意義をよく理解していただき、初めての献血を安心して行っていだける環境の整備を一層図る。さらに、200ml 献血のあり方について、医療機関における使用実態等を踏まえ、検討を進める。

ii) 20 代への働きかけ

20 代には、献血を経験したことがある方が多くいるが、その後リピータードナーにならず、献血行動からドロップアウトする方が多い世代である。献血を体験した方が、献血の意義を深く理解され、長期にわたりリピータードナーになっていただける取組みを強化する。

これらの取組みの実施にあたっては、若年層献血者が多い諸外国での取組みも参考にしつつ、行うものとする。

③ 献血することにより心の充足感が得られる環境を整える。

献血は相互扶助の精神に基づく尊い行為であり、献血者一人一人の心の充足感が、活動の大きな柱となっている。そのため、献血に協力いただけた方々が、心の充足感をより得られ、安心快適に献血を行っていただける環境を一層整える。

平成 26 年（2014 年）度までの達成目標の進捗状況

項目	目標	H21 年度	H22 年度
若年層の献血者数の増加	10 代（注 1）の献血率を 6.4%まで増加させる。	6.0%	6.1%
	20 代の献血率を 8.4%まで増加させる。	7.8%	7.7%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を 50,000 社まで増加させる。	43,193 社	45,343 社
複数回献血の増加	複数回献血者を年間 120 万人まで増加させる。	984,766 人	999,325 人

（注 1）10 代とは献血可能年齢である 16～19 歳を指す。

平成23年度の献血の推進に 関する計画

前文	1
第1節 平成23年度に献血により確保すべき血液の目標量	1
第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項	1
1 献血に関する普及啓発活動の実施	1
(1) 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進	
(2) 献血運動推進全国大会の開催等	
(3) 献血推進運動中央連絡協議会の開催	
(4) 献血推進協議会の活用	
(5) その他関係者による取組	
2 献血者が安心して献血できる環境の整備	5
第3節 その他献血の推進に関する重要事項	5
1 献血の推進に際し、考慮すべき事項	5
(1) 血液検査による健康管理サービスの充実	
(2) 献血者の利便性の向上	
(3) 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進	
(4) 採血基準の在り方の検討	
(5) まれな血液型の血液の確保	
2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応	6
3 災害時等における献血の確保等	6
4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価	6

平成23年3月23日

厚生労働省告示第64号

平成23年度の献血の推進に関する計画

前文

- 本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第1項の規定に基づき定める平成23年度の献血の推進に関する計画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（平成20年厚生労働省告示第326号）に基づくものである。

第1節 平成23年度に献血により確保すべき血液の目標量

- 平成23年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤の量は、全血製剤0.02万リットル、赤血球製剤5.4万リットル、血漿製剤2.7万リットル、血小板製剤1.7万リットルであり、それぞれ0.02万リットル、5.4万リットル、2.7万リットル、1.7万リットルが製造される見込みである。
- さらに、確保されるべき原料血漿の量の目標を勘案すると、平成23年度には、全血採血による1.45万リットル及び成分採血による6.2万リットル（血漿採血2.7万リットル及び血小板採血3.5万リットル）の計20.7万リットルの血液を献血により確保する必要がある。

第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

前年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成23年度の献血推進計画における具体的な措置を以下のように定める。

1 献血に関する普及啓発活動の実施

- 国は、都道府県、市町村（特別区を含む。以下同じ。）、採血事業者等の関係者の協力を得て、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の安定供給を確保し、その国内自給を推進するとともに、広く国民に対し、治療に必要な血液製剤の確保が相互扶助と博愛精神による自発的な献血によって支えられていることや、血液製剤の適正使用が求められていること等を含め、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝え、その理解と献血への協力を求めるため、教育及び啓発を行う。
- 都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、対象となる年齢層や地域の実情に応じた啓発、献血推進組織の育成等を行うことにより、献血への関心を高めることが必要である。
- 採血事業者は、国、都道府県、市町村等の関係者の協力を得て、献血者の安全性に配慮するとともに、継続して献血に協力できる環境の整備を行うことが重要である。

このため、国、都道府県、市町村等の関係者と協力して効果的なキャンペーンを実施すること等により、献血や血液製剤に関する一層の理解と献血への協力を呼びかけることが求められる。

- 国、都道府県、市町村、採血事業者及び医療関係者は、国民に対し、病氣や怪我のために輸血を受けた患者や、その家族の声を伝えること等により、血液製剤がこれが必要とする患者への医療に欠くことのできない有限で貴重なものであることを含め、献血や血液製剤についての普及啓発を実施し、又はこれに協力することが必要である。また、少子高齢化の進行による血液製剤を必要とする患者の増加や献血可能人口の減少、血液製剤の利用実態等について正確な情報を伝え、献血者等の意見を踏まえつつ、これらの情報提供や普及啓発の手法等の改善に努めることが必要である。さらに、血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、平素から様々な広報手段を用いて、国民に周知徹底する必要がある。
- 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、平成22年1月27日に実施された英国滞在歴による献血制限の見直し及び平成23年4月1日に施行される採血基準の改正について、国民に対して十分に広報を行い、献血への協力を求める必要がある。
- これらを踏まえ、以下に掲げる献血推進のための施策を実施する。

① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため、幼少期も含めた若年層、企業・団体、複数回献血者に対して、普及啓発の対象を明確にした効果的な活動や重点的な献血者募集を実施し、以下の取組を行う。

<若年層を対象とした対策>

- 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得るとともに、機能的な連携を図ることにより、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進及び献血体験の促進に組織的に取り組む。また、若年層への啓発には、若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、同世代からの働きかけや、献血についての広告に国が作成した献血推進キャラクターを活用する等、効果的な取組が必要である。特に10代層への啓発には、採血基準の改正により、男性に限り400ミリリットル全血採血が17歳から可能となること等について情報を伝え、献血者の協力を得る。さらに、子が幼少期にある親子に対し、血液の大切さや助け合いの心について、親子向けの雑誌等の広報手段や血液センター等を活用して啓発を行うとともに、親から子へ献血や血液製剤の意義を伝えることが重要であることから、地域の特性に応じて採血所に託児体制を確保する等、親子が献血に触れ合う機会を設ける。
- 国は、高校生を対象とした献血や血液製剤について解説した教材や中学生を対象とした血液への理解を促すポスターを作成し、都道府県、市町村及び採血事業者と協力して、これらの教材等を活用しながら、献血や血液製剤に関する理解を

深めるための普及啓発を行う。

- 都道府県及び市町村は、地域の実情に応じて、若年層の献血への関心を高めるため、学校等において、ボランティア活動推進の観点を踏まえつつ献血や血液製剤についての情報提供を行うとともに、献血推進活動を行うボランティア組織との有機的な連携を確保する。
- 採血事業者は、その人材や施設を活用し、若年層へ献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する「献血セミナー」や血液センター等での体験学習を積極的にを行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図る。その推進に当たっては、国と連携するとともに、都道府県、市町村及び献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得る。
- 採血事業者は、国及び都道府県の協力を得て、学生献血ボランティアとの更なる連携を図り、大学等における献血の推進を促すとともに、将来、医療従事者になるうとする者に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行う。

<50～60歳代を対象とした対策>

- 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、年齢別人口に占める献血者の率が低い傾向にある50～60歳代の層に対し、血液製剤の利用実態や献血可能年齢等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、献血者の増加を図る。また、血小板成分採血について、採血基準の改正により、男性に限り69歳まで(65歳から69歳までの者については、60歳から64歳までの間に献血の経験がある者に限る。)可能となることについて情報を伝え、献血者の確保を図る。

<企業等における献血の推進対策>

- 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、献血に協賛する企業や団体を募り、その社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促す。また、血液センター等における献血推進活動の展開に際し、地域の実情に即した方法で企業等との連携強化を図り、企業等における献血の推進を図るための呼びかけを行う。

<複数回献血者対策>

- 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、複数回献血者の協力が十分に得られるよう、平素から血液センターに登録された献血者に対し、機動的かつ効率的に呼びかけを行う体制を構築する。また、献血に継続的に協力が得られている複数回献血者の組織化及びサービスの向上を図り、その増加に取り組むとともに、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう取り組む。

<献血推進キャンペーン等の実施>

- 国は、献血量を確保しやすくするとともに、感染症等のリスクを低減させる等の利点がある400ミリリットル全血採血並びに成分採血の推進及び普及のため、都道府県及び採血事業者とともに、7月に「愛の血液助け合い運動」を、1月及び2月に「はたちの献血」キャンペーンを実施するほか、血液の供給状況に応じて献血推進キャンペーン活動を緊急的に実施する。また、様々な広報手段を用いて献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかけるとともに、献血場所を確保するため、関係者に必要な協力を求める。
- 都道府県、市町村及び採血事業者においても、これらの献血推進活動を実施することが重要である。また、市町村においては、地域における催物の機会等を活用する等、積極的に取り組むことが望ましい。

② 献血運動推進全国大会の開催等

- 国は、都道府県及び採血事業者とともに、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の国内自給を推進し、広く国民に献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を求めるため、7月に献血運動推進全国大会を開催するとともに、その広報に努める。また、国及び都道府県は、献血運動の推進に関し積極的に協力し、模範となる実績を示した団体又は個人に対し表彰を行う。

③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催

- 国は、都道府県、市町村、採血事業者、献血推進活動を行うボランティア組織、患者団体等の代表者の参加を得て、効果的な献血推進のための方策や献血を推進する上での課題等について協議を行うため、献血推進運動中央連絡協議会を開催する。

④ 献血推進協議会の活用

- 都道府県は、献血や血液製剤に関する住民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、採血事業者、医療関係者、商工会議所、教育機関、報道機関等から幅広く参加者を募って、献血推進協議会を設置し、定期的開催することが求められる。市町村においても、同様の協議会を設置することが望ましい。
- 都道府県及び市町村は、献血推進協議会を活用し、採血事業者及び血液事業に関わる民間組織等と連携して、都道府県献血推進計画の策定のほか、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成等を行うことが望ましい。

⑤ その他関係者による取組

- 官公庁、企業、医療関係団体等は、その構成員に対し、ボランティア活動である献血に対し積極的に協力を呼びかけるとともに、献血のための休暇取得を容易にするよう配慮する等、進んで献血しやすい環境作りを推進することが望ましい。

2 献血者が安心して献血できる環境の整備

- 採血事業者は、献血の受入れに当たっては献血者に不快の念を与えないよう、丁寧な処遇をすることに特に留意し、献血者の要望を把握するとともに、採血後の休憩スペースを十分に確保する等、献血受入体制の改善に努める。また、献血者の個人情報保護するとともに、国の適切な関与の下で献血による健康被害に対する補償のための措置を実施する等、献血者が安心して献血できる環境整備を行う。
- 採血事業者は、特に初回献血者が抱えている不安等を払拭するため、採血の手順や採血後の過ごし方等について、映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行い、献血者の安全確保を図る。
- 採血事業者は、採血所における地域の特性に合わせたイメージ作りや移動採血車の外観の見直し等、なお一層のイメージアップを図り、献血者の増加を図る。
- 国及び都道府県は、採血事業者によるこれらの取組を支援することが重要である。

第3節 その他献血の推進に関する重要事項

1 献血の推進に際し、考慮すべき事項

① 血液検査による健康管理サービスの充実

- 採血事業者は、献血制度の健全な発展を図るため、採血に際して献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認してその結果を通知する。また、低色素により献血ができなかった献血申込者に対して、栄養士による健康相談を実施し、献血者の増加を図る。
- 国は、採血事業者によるこれらの取組を支援する。また、献血者の健康管理に資する検査の充実が献血の推進に有効であることから、本人の同意の上、検査結果を健康診査、人間ドック、職域検査等で活用するとともに、地域における保健指導にも用いることができるよう、周知又は必要な指導を行う。
- 都道府県及び市町村は、これらの取組に協力する。

② 献血者の利便性の向上

- 採血事業者は、安全性に配慮しつつ、効率的に採血を行うため、立地条件等を考慮した採血所の設置、地域の実情に応じた移動採血車による計画的採血等、献血者の利便性及び安全で安心な献血に配慮した献血受入体制の整備及び充実を図る。
- 都道府県及び市町村は、採血事業者と十分協議して移動採血車による採血等の日程を設定し、そのための公共施設の提供等、採血事業者の献血の受入れに協力することが重要である。

③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進

- 国は、「輸血医療の安全性確保のための総合対策」に基づき、採血事業者と連携し、献血者に対する健康管理サービスの充実等による健康な献血者の確保、献血者の本人確認の徹底等の検査目的の献血の防止のための措置を講ずる等、善意の献血者の協力を得て、血液製剤の安全性を向上するための対策を推進する。

④ 採血基準の在り方の検討

- 国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血の推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しの検討を行う。

⑤ まれな血液型の血液の確保

- 採血事業者は、まれな血液型を持つ患者に対する血液製剤の供給を確保するため、まれな血液型を持つ者に対し、その意向を踏まえ、登録を依頼する。
- 国は、まれな血液型の血液の供給状況について調査する。

⑥ 200ミリリットル全血採血の在り方の検討

- 国は、200ミリリットル全血採血の在り方について、医療機関における使用実態等を踏まえ、検討を行う。

2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

- 国、都道府県及び採血事業者は、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、その供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、国及び採血事業者が策定した対応マニュアルに基づき、早急に所要の対策を講ずることが重要である。

3 災害時等における献血の確保等

- 国、都道府県及び市町村は、災害時等において献血が確保されるよう、採血事業者と連携して必要とされる献血量を把握した上で、様々な広報手段を用いて、需要に見合った広域的な献血の確保を行うとともに、製造販売業者等の関係者と連携し、献血により得られた血液が円滑に現場に供給されるよう措置を講ずることが必要である。また、採血事業者は、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、国、都道府県及び市町村と連携して対応できるよう備えることにより、災害時における献血の受入れに協力する。

4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価

- 国、都道府県及び市町村は、献血推進のための施策の短期的又は長期的な効果及び進捗状況並びに採血事業者による献血の受入れの実績を確認し、その評価を次年度の献血推進計画等の作成に当たり参考とする。また、必要に応じ、献血推進のための施策を見直すことが必要である。
- 国は、献血推進運動中央連絡協議会等の機会を活用し、献血の推進及び受入れに関し関係者の協力を求める必要性について献血推進活動を行うボランティア組織と認識を共有し、必要な措置を講ずる。
- 採血事業者は、献血の受入れに関する実績、体制等の評価を行い、献血の推進に活用する。

韓国における献血の現状について

1. 学校における単位と献血の現状

(1) 高等学校

日本と同じように、献血の実施前に必要に応じて保護者の同意を得て献血を実施している。保護者は副作用を気にしているためである。また、祖父母も孫の献血に否定的な方が多く、韓国赤十字社はシニア向けに献血の安全性等の情報提供を積極的に実施している。

単位との関係については、2010年に文科省が大学入試時の評価になるボランティア活動に献血ボランティアを加えることを公式発表した。これは、一回の献血で4時間分のボランティアとするもの。

この制度により高校生は大学入試のために献血をする。

(2) 大学・短大

多くの大学、短大において献血ボランティアを単位として認めている。しかしながら、法的には認められておらず、あくまでも学校側の裁量により決めている。

韓国赤十字社は、この制度について未導入の学校に積極的に導入を働きかけており、地域によっては、行政もインセンティブとして導入してもらえるよう働きかけている。

2. 学校における単位と献血の現状の問題点

インセンティブがあるために、問診に正しく答えない学生がいるという問題が起こっている。安全な血液製剤の確保のために献血はあくまでも善意のものということを訴えている。

3. 若年層に対するインセンティブ

献血に対するインセンティブとして映画やミュージカルへの招待をしている。

若年層献血者(10代)の献血継続状況分析について

20110916

日本赤十字社血液事業本部

1. 方法

(1)対象献血者およびデータ件数

初回献血年齢	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	計
男性	32,512	28,192	40,654	26,855	18,564	14,103	13,319	174,199
女性	39,581	31,080	33,909	24,305	16,080	11,715	9,421	166,091

*平成12年度に初回献血を経験している献血者群

(2)フォローアップ期間

・10年(各年ごとに献血経験のない群を差し引く)

2. 結果

(1)初回献血の年齢・性別で見ると、18歳男性が最も多く、16歳女性、18歳女性と続く。

その後の10年間では16歳で始めて献血した女性の群が毎年度最も多い。(参考1および2)

(2)10代で献血経験のある群について、2年目の献血再来率は男性33.3%、女性39.5%。

一方、20代になってから初めて献血を経験した群では、男性23.9%、女性26.6%となっている。

各年齢の3年目以降については、その格差が経年的に見られなくなっている。(参考3および4)

(3)10代の中でも、特に16歳の献血者群における2年目の再来率をみると、男性43.6%、女性49.6%、17歳の同じ群については男性33.2%、女性38.4%となっており、他の年齢に比較して優位に献血への意識が高い結果となった。(参考3および4)

(2) 外部要因

■ 学校側(養護教員等)の理解

・学校方針の変更(人事異動・高校の統廃合等)により献血の受入れを拒否される場合がある。中でも養護教員の献血への理解が得られない場合が多い。

*献血未実施校から献血実施校に異動した場合、献血の受入れに理解をいただけない場合が少なくない。

*近年、ライオンズクラブの方々からも高校献血の推進に協力いただいているが、献血の安全性、特に 400mL 献血についての理解が得られにくいことから、献血の実施に至るケースは少ない。一方で、養護教員からの紹介により、これまで献血を実施していなかった高校(文化祭)での実施が可能となったケースもある。

■ 授業のカリキュラム上等の問題

・授業のカリキュラムが過密のために授業時間中の献血実施が困難である。また、献血の実施日や時間の制約があることから、学校との調整が難しくなっている(平日の限られた時間帯、土日・祝日、季節等々)。

・週休2日制のため土曜日の授業が平日に移行しており、放課後の献血ができなくなった(以前は多数の高校で実施)。

■ 採血副作用発生による安全性確保への懸念

・VVR 発生時の安全性の確保や責任問題(保護者の同意)等により、献血協力が積極的にならなくなってきた。

・養護教員や学校保護者会等から、成長期にある生徒からの採血は望ましくないとの意見があり、なかなか理解が得られない。

■ 行政の考え方

・行政側が高校生の献血に対して積極的ではなく、結果的に高校献血が減少してきている。

■ その他

・事前に献血希望者を募っているが、最近は生徒自身の献血への関心の薄れから、献血協力者の減少が目立つ。また、放課後に実施している学校においても、同様の傾向が見られる。

2. 高校での集団献血を推進することにより予想される課題(解決するための方策等)

(1) 内部的課題

■ 献血量確保上の問題

・医療機関からの 400mL 献血由来製剤の必要量への対応(200mL 献血由来製剤の需要と供給のバランス)。

*献血バス一稼働当りの献血量の減少。

*200mL 献血由来製剤の在庫量が医療機関からの需要量を超えた場合の期限切れ減損の懸念。

・本年 4 月より 17 歳男性の 400mL 献血が可能となったことも踏まえ、献血者の安全性と安全な輸血用血液の安定的な確保の必要性を丁寧に説明し、十分な理解を得るために、学校側との円滑な情報交換を行うことが重要である。

・集団献血実施だけの推進でなく、献血も含めた血液事業全体の情報を伝えていく事業を積極的に展開する必要がある(生徒だけでなく、特に若い教員へも理解を求める)。

■ 献血を実施するうえでの問題

・学校側の要望(献血実施の時期や時間等)に対する血液センター側の実施体制。

(2) 外部的課題

■ 学校側(養護教員等)の理解

・国公立を含めた校長会や養護教員等の集う場所などで、献血の重要性を取り上げてもらう体制の構築。

・献血をはじめとしたボランティア教育の授業への導入等、生徒への献血の重要性を知る機会を設けるなどの教育方針が重要である。

・安心や安全を含めて、養護教員や保護者等の献血への理解が得られる環境作りが必要である(重篤な VVR 発生時の責任の所在等)。

*保護者の同意書がなければ献血へ参加できない高校が多い。

*高校献血の実施が強制化という意味(献血は自由意志)。

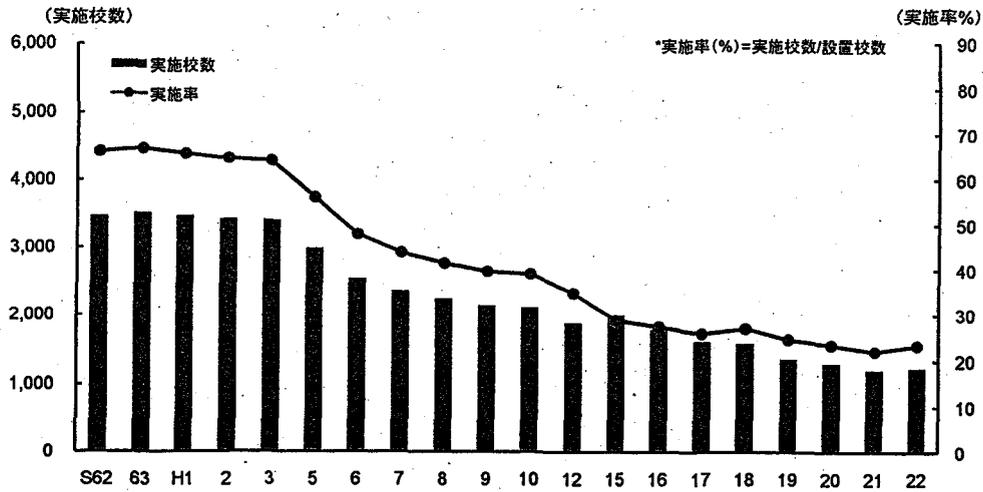
■ 行政の理解

・献血を実施していない学校関係者の理解を得るためには、献血推進を担う行政との円滑な連携を図りつつ、高校献血に積極的に関わってもらえる体制を構築する必要がある。

・厚生労働省から文部科学省への働きかけ、また文部科学省から各都道府県教育委員会への働きかけが必要である。

(参考 1)

高校献血の実施状況(年度別)



*昭和60年、61年度および平成4年、11年、13年、14年度は、厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告しているため調査未実施

(参考 2)

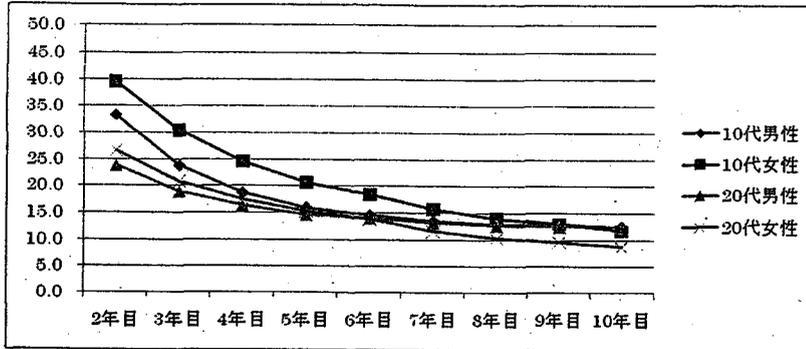
高校献血実施への主な取組み

(平成22年度)

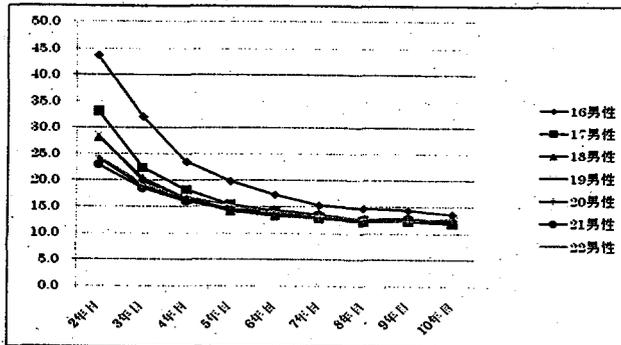
No.	血液センター名	取組みの概要
1	茨城	・JRC(青少年赤十字)加盟校での事前広報を行った(1校44名増加)。 ・献血セミナー実施後、献血の実施(1校23名増加)。 ・渉外職員による学校への働きかけによる献血受付時間の見直し(半日から終日実施へ)を行った(1校56名増加)。
2	山梨	・これまで3年生を対象として実施してきた学校が、22年度より新たに2年生も対象としていただいた(4校250名増加)。
3	静岡	・21年度には400mL献血を推進したが、承諾いただけず14校の減。22年度に再度、学校担当者へ申し入れ、献血協力の理解が得られた。また、献血休止中の学校も再開し、合わせて前年度より12校増加の90校から協力を得る。
4	和歌山	・県の献血推進担当者やライオンズクラブからの働きかけにより、22年度にはこれまでの年間2回の献血実施校1校に加え、新規の献血実施校が2校。
5	愛媛	・若年層献血を推進するにあたり、渉外職員が各高校の校長先生や教職員(献血担当者)を訪問し、献血へのご理解とご協力を得ることができた(対前年度より14校増加)。
6	宮崎	・若年層献血推進も含めた広報活動の強化を行っている(CMやお天気予報フィラー)。 ・渉外職員が県内各地の高校(献血担当者)を訪問し、若年層の献血推進に対する理解と協力を求めた。 ・献血実施時には、学校側(クラス担任)より積極的な呼びかけを行っていただいた。 ・口蹄疫の発生により、献血への関心が高まり、各学校から献血に協力したい旨の依頼があり、実施した(3校増加)。

(参考4)

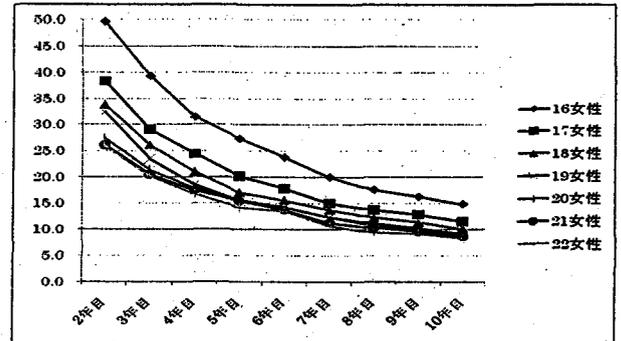
年代別・性別 (%)



男性 (%)



女性 (%)



高校献血減少の要因分析

20110916

日本赤十字社血液事業本部

1. 高校での集団献血実施状況の変化(参考 1)

(1) 内部要因

- 400mL 献血由来製剤の需要増加に伴う高校献血の抑制
 - ・医療機関からの 400mL 献血由来製剤の需要増加に伴い、また血液在庫の有効期間を考慮した 200mL 献血の抑制。
 - ・200mL 献血の抑制が学校側に伝わり、以前に比べると担当教諭との連携が薄れてきている(情報の伝達不足)。
 - ・大学の方が 400mL 献血の協力が得られ、また献血バス 1 稼働当りの献血量が多いことから、高校献血を抑制している。
- 高校行事(文化祭等)における献血の実施体制
 - ・400mL 献血可能者を対象に実施しているため、一部の生徒しか対象にならず全体的な取り組みが行えないことから実施に至らない。
 - ・学校側や実行委員会等からの要望はあるものの、実際には生徒の献血協力時間が取れず、来場者(保護者等)主体の献血となり、協力者も十分に確保できないことから実施に至らない。
 - ・開催時期が複数校で同一日の場合(秋季、土・日曜日等)が少なくなく、献血を実施するうえで、一律の対応が困難な場合がある。
- 採血副作用発生による安全性確保への懸念
 - ・採血副作用が発生してから、献血を実施しなくなった高校もある。

(能動的な取組み)

・学校へ出向いての献血セミナーの展開	・当該セミナー実施後、集団献血の実施に結び付けていきたい。 ・授業のカリキュラム(奉仕、総合的な学習)の導入をきっかけにボランティア活動への積極的参加を促す。
・400mL 献血への理解	・学校側からの要請に基づき調整を行っているが、献血の実施については原則 400mL 献血への理解を頂いている。 ・400mL 献血の推進もあり、3 年生を対象に卒業献血を実施している。 ・本年 4 月の採血基準の一部改正(17 歳男性の 400mL 献血)を踏まえて、各高校へアプローチしている。
・安全性確保への配慮	・10 名/時間の献血申込受付という条件について、事前に経緯等を説明し、理解していただくよう推進した。下校時間の遅れや副作用等への対応を考慮していることから、学校側からは高評である(行政からの推進も要因)。
・行政との連携	・県の献血推進計画で“将来に向けた普及・啓蒙促進”のために高校献血を強く推奨しており、県・市町村・血液センターの 3 者で定期的に学校訪問している。

(4)男女別の状況を見ると、各年齢において女性の再来率が高くなっており、特に上記(3)で述べたように、16歳女性の献血者群では2年目の再来率が49.6%、17歳の同じ群では38.4%となっており、継続的な献血協力に繋がっている結果となった。(参考3および4)

3. 結論

(1)上記2より、10代で初回献血経験のある群の2年目以降の再来率が優位に高いことから、高校生の時(学校献血含む)に献血経験することが、その後の継続的な献血に繋がっているものと考えられる。

(2)また、10代の男女別では、明らかに女性の2年目以降の再来率が高いにもかかわらず、10年間の長期的傾向を見ると、優位な格差が見られなくなってくることから、200mL献血しかできない女性群が400mL献血推進の中で、献血抑制されてきた可能性も否定できないものと思われる。

(3)上記より、10代(高校生)での献血に触れる機会(献血を含む)やきっかけを与えることが、その後の献血行動に有効に繋がるものとする。

(参考1)

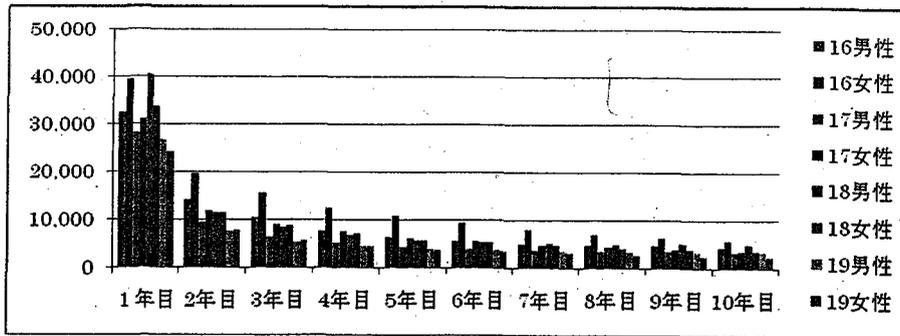
○平成12年度に初めて献血協力をした群のその後10年間の献血協力状況(実献血者数)

(人)

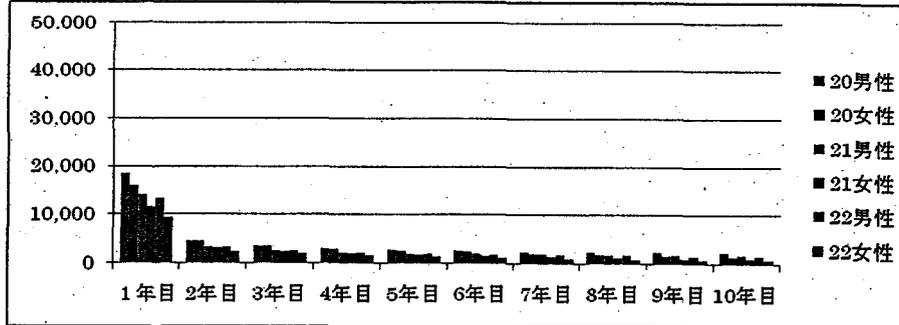
初回献血 年齢	性別	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
16歳	男性	32,512	14,189	10,432	7,637	6,449	5,618	4,962	4,781	4,658	4,420
	女性	39,581	19,637	15,573	12,449	10,808	9,389	7,905	6,940	6,406	5,841
17歳	男性	28,192	9,354	6,301	5,134	4,358	3,982	3,711	3,521	3,459	3,340
	女性	31,080	11,935	9,028	7,584	6,256	5,551	4,658	4,251	3,976	3,574
18歳	男性	40,654	11,472	8,316	6,718	5,728	5,384	5,166	4,927	5,059	4,893
	女性	33,909	11,495	8,853	7,105	5,789	5,275	4,644	4,155	3,844	3,439
19歳	男性	26,855	7,687	5,343	4,453	3,893	3,647	3,457	3,306	3,376	3,316
	女性	24,305	7,898	5,686	4,518	3,747	3,472	2,992	2,698	2,476	2,213
20歳	男性	18,564	4,480	3,505	3,001	2,653	2,516	2,433	2,343	2,306	2,298
	女性	16,080	4,413	3,432	2,875	2,516	2,281	1,969	1,738	1,592	1,434
21歳	男性	14,103	3,233	2,609	2,260	2,027	2,026	1,896	1,785	1,796	1,720
	女性	11,715	3,052	2,396	2,038	1,808	1,606	1,322	1,203	1,123	1,022
22歳	男性	13,319	3,260	2,566	2,242	2,034	1,869	1,763	1,707	1,643	1,694
	女性	9,421	2,439	1,894	1,574	1,329	1,261	1,004	886	865	776

(参考2)

10代(16~19歳) (人)



20代(20~22歳) (人)



4

(参考3)

○平成12年度に初めて献血協力をした群のその後10年間の献血協力状況(実献血者数に対する再来率)

(%)

初回献血年齢	性別	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
16歳	男性	100.0	43.6	32.1	23.5	19.8	17.3	15.3	14.7	14.3	13.6
	女性	100.0	49.6	39.3	31.5	27.3	23.7	20.0	17.5	16.2	14.8
17歳	男性	100.0	33.2	22.4	18.2	15.5	14.1	13.2	12.5	12.3	11.8
	女性	100.0	38.4	29.0	24.4	20.1	17.9	15.0	13.7	12.8	11.5
18歳	男性	100.0	28.2	20.5	16.5	14.1	13.2	12.7	12.1	12.4	12.0
	女性	100.0	33.9	26.1	21.0	17.1	15.6	13.7	12.3	11.3	10.1
19歳	男性	100.0	28.6	19.9	16.6	14.5	13.6	12.9	12.3	12.6	12.3
	女性	100.0	32.5	23.4	18.6	15.4	14.3	12.3	11.1	10.2	9.1
20歳	男性	100.0	24.1	18.9	16.2	14.3	13.6	13.1	12.6	12.4	12.4
	女性	100.0	27.4	21.3	17.9	15.6	14.2	12.2	10.8	9.9	8.9
21歳	男性	100.0	22.9	18.5	16.0	14.4	14.4	13.4	12.7	12.7	12.2
	女性	100.0	26.1	20.5	17.4	15.4	13.7	11.3	10.3	9.6	8.7
22歳	男性	100.0	24.5	19.3	16.8	15.3	14.0	13.2	12.8	12.3	12.7
	女性	100.0	25.9	20.1	16.7	14.1	13.4	10.7	9.4	9.2	8.2
初回献血年代	性別	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
10代(16~19歳)	男性	100.0	33.3	23.7	18.7	15.9	14.5	13.5	12.9	12.9	12.5
	女性	100.0	39.5	30.4	24.6	20.6	18.4	15.7	14.0	13.0	11.7
20代(20~22歳)	男性	100.0	23.9	18.9	16.3	14.6	13.9	13.2	12.7	12.5	12.4
	女性	100.0	26.6	20.7	17.4	15.2	13.8	11.5	10.3	9.6	8.7

5

1-78. 過去1年間(2010年1月~2010年12月)に200ml(1単位)の赤血球製剤を使用しましたか

番号	項目	0床		1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	131	47.64%	1941	71.31%	375	86.61%	258	95.91%	2705	73.13%
2	いいえ	144	52.36%	781	28.69%	58	13.39%	11	4.09%	994	26.87%
回答施設合計		275		2722		433		269		3699	

1-79. 過去1年間(2010年1月~2010年12月)200ml(1単位)の赤血球製剤の使用実績

200ml(1単位)赤血球製剤の使用実績							
項目	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差	0床
							1~299床
200ml(1単位)赤血球製剤/袋		117	1	62	7.80	913	9.85
		1770	1	1933	53.33	94391	116.40
		341	1	2354	118.31	40343	212.62
		231	1	2882	276.61	63898	426.70
全体	2459	1	2882	81.15	199545	194.01	

1-80. 過去1年間(2010年1月~2010年12月)で200ml(1単位)の赤血球製剤を使用した目的は 複数回答

番号	項目	0床		1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	小児科	0	0.00%	32	1.74%	73	19.95%	166	65.35%	271	10.50%
2	新生児	0	0.00%	22	1.19%	53	14.48%	150	59.06%	225	8.71%
3	高齢・低体重者	24	20.17%	848	46.01%	141	38.52%	120	47.24%	1133	43.88%
4	成人の外科	1	0.84%	424	23.01%	86	23.50%	55	21.65%	566	21.92%
5	成人の血液内科	13	10.92%	179	9.71%	64	17.49%	71	27.95%	327	12.66%
6	その他の科の成人	65	54.62%	626	33.97%	140	38.25%	72	28.35%	903	34.97%
7	その他	28	23.53%	537	29.14%	136	37.16%	71	27.95%	772	29.90%
回答施設合計		113		1843		366		254		2532	

「その他」場合、その理由を50文字以内で記入して下さい

別紙 設問1-80詳細.xlsを参照

【2010年輸血業務・血液製剤年間使用量に関する総合的調査】

1-81. 過去1年間(2010年1月~2010年12月)で200ml(1単位)の赤血球製剤を発注したにもかかわらず400ml(2単位)の赤血球製剤が納品されたことがありますか

番号	項目	0床		1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	1	0.78%	100	5.25%	16	4.36%	29	11.46%	146	5.50%
2	いいえ	128	99.22%	1805	94.75%	351	95.64%	224	88.54%	2508	94.50%
回答施設合計		129		1905		367		253		2654	

1-82. 過去1年間(2010年1月~2010年12月)で400ml(2単位)の赤血球製剤を発注しにもかかわらず200ml(1単位)の赤血球製剤が納品されたことがありますか

番号	項目	0床		1~299床		300~499床		500床以上		全体	
		回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
1	はい	34	26.98%	945	49.82%	211	57.18%	135	53.57%	1325	50.11%
2	いいえ	92	73.02%	952	50.18%	158	42.82%	117	46.43%	1319	49.89%
回答施設合計		126		1897		369		252		2644	

1-83. 200ml(1単位)の赤血球製剤の必要性や利便性についてご意見がございましたら、以下に記入してください。

別紙 設問1-83詳細.xlsを参照

上段:発注、納品本数(実本数)
下段:全体における2単位の割合

センター名	発注		納品		400率差
	1単位	2単位	1単位	2単位	
北海道	1478	6355	2066	6061	-6.5%
青森	400	1205	664	1073	-13.3%
岩手	175	597	287	541	-12.0%
宮城	425	1682	685	1552	-10.5%
秋田	157	1077	685	813	-33.0%
山形	203	539	343	469	-14.9%
福島	479	1718	1017	1449	-19.4%
宮城ブロック	1839	6818	3681	5897	-17.2%
茨城	564	1612	773	1506	-8.0%
栃木	269	710	291	699	-1.9%
群馬	568	1421	942	1234	-14.7%
埼玉	1470	3485	2292	3831	-7.8%
千葉	610	4123	2048	3405	-24.6%
東京	1829	11096	3682	8807	-13.2%
神奈川	358	5787	494	5727	-2.1%
新潟	283	2080	691	1901	-14.7%
山梨	43	127	57	120	-5.9%
東京ブロック	5994	30441	11269	28224	-12.1%
富山	93	728	317	614	-22.7%
石川	228	926	432	819	-14.9%
福井	74	464	273	596	-17.7%
長野	189	1446	393	1344	-11.1%
岐阜	122	1206	506	1042	-23.5%
静岡	624	1971	1034	1766	-12.9%
愛知	623	5204	1543	4744	-13.8%
三重	30	1321	30	1321	0.0%
愛知ブロック	1981	13264	4528	12246	-14.0%

センター名	発注		納品		400率差
	1単位	2単位	1単位	2単位	
滋賀	117	655	201	757	-5.8%
京都	131	2088	122	2086	0.4%
大阪	1385	6416	1394	6412	-0.1%
兵庫	370	2065	656	3397	-1.0%
奈良	168	714	295	1005	-3.7%
和歌山	101	992	275	905	-14.1%
大阪ブロック	2272	12930	2943	14562	-1.9%
鳥取	27	50	144	374	7.3%
島根	186	469	188	450	-0.9%
岡山	232	1684	238	1681	-0.3%
広島	462	1977	492	1962	-1.1%
山口	140	1328	470	1163	-19.2%
徳島	142	502	160	482	-2.9%
香川	127	824	224	774	-9.1%
愛媛	35	1367	35	1367	0.0%
高知	25	733	310	704	-5.0%
岡山ブロック	1605	6934	2281	6957	-4.8%
福岡	42	3957	42	3876	0.0%
佐賀	8	481	8	481	0.0%
長崎	87	1465	271	1357	-11.0%
熊本	94	1667	108	1660	-0.8%
大分	123	897	163	877	-3.6%
宮崎	23	1076	49	1063	-2.3%
鹿児島	162	1937	404	1818	-10.5%
沖縄	20	1134	20	1134	0.0%
福岡ブロック	559	12,614	1,065	12,264	-3.7%
全国計	15,728	91,356	27,613	88,211	-9.3%

※調査期間:平成18年10月12日~平成18年10月25日(夜間時間除く)
※発注については、単位指定のないものは計上しない。
※供給数については、単位指定のない発注に対する供給を含んでいる場合もある。

赤血球製剤における1単位・2単位の発注及び供給比率について

センター名	1u発注		2u発注		1u発注		2u発注		(F)発注時400ml率	必要に対する供給率		平成22年度供給本数		400ml率発注と供給の差	
	1u	2u	1u	2u	1u	2u	1u	2u		1u	2u	1u	2u	(F)400ml率	(F)2
北海道	998	982	8	6613	312	6457	89.9%	98.4%	97.6%	33,547	187,044	84.8%	2.1%		
青森	155	159	0	1439	122	1374	90.3%	100.0%	98.7%	6,385	32,418	79.5%	10.8%		
岩手	172	172	0	1,262	222	1,181	88.0%	100.0%	91.2%	9,076	27,970	75.9%	12.5%		
宮城	318	312	2	1,915	220	1,903	83.6%	98.7%	94.2%	13,892	44,909	76.4%	9.4%		
秋田	99	97	1	1,147	182	1,056	92.1%	98.0%	92.9%	6,379	24,731	74.7%	12.2%		
山形	69	69	0	691	184	599	90.9%	100.0%	86.7%	6,269	24,823	78.6%	11.3%		
福島	197	187	5	2,139	358	1,960	91.6%	94.9%	91.8%	15,338	52,151	77.3%	14.3%		
宮城ブロック	1,008	992	8	8,587	1,268	7,953	88.5%	98.4%	92.6%	61,323	206,702	77.1%	12.4%		
茨城	309	295	7	1,950	142	1,879	86.3%	95.5%	96.4%	17,149	56,748	76.8%	9.5%		
栃木	277	266	3	1,245	29	1,221	81.8%	98.0%	98.1%	16,271	38,740	71.7%	10.1%		
群馬	211	221	0	1,998	189	1,872	89.8%	100.0%	95.7%	12,066	46,708	78.7%	11.2%		
埼玉	784	784	0	4,273	138	4,204	84.5%	100.0%	98.8%	43,252	124,828	74.3%	10.2%		
千葉	214	214	0	2,489	0	2,488	92.1%	100.0%	100.0%	33,193	123,077	79.4%	12.2%		
東京	942	941	1	11,222	328	11,099	92.3%	99.9%	98.5%	62,881	333,578	84.1%	8.1%		
神奈川	185	185	0	6,987	66	6,854	97.3%	100.0%	99.9%	6,289	187,229	96.8%	0.5%		
新潟	169	164	7	1,748	202	1,647	91.3%	88.3%	94.2%	10,087	49,530	82.1%	8.2%		
山梨	34	34	0	189	2	188	83.3%	100.0%	99.4%	4,186	18,062	81.2%	2.1%		
山梨ブロック	106	104	1	1,709	28	1,695	94.2%	98.1%	99.2%	3,259	22,358	87.3%	6.9%		
東京ブロック	3,238	3,206	13	33,351	1,101	32,797	91.2%	99.1%	98.3%	208,240	1,005,952	82.9%	8.3%		
富山	98	94	1	782	24	750	88.8%	97.9%	98.4%	4,957	29,599	84.3%	4.5%		
石川	85	86	0	944	110	839	91.7%	100.0%	94.2%	3,724	21,855	88.8%	2.8%		
福井	23	23	0	728	58	671	96.3%	100.0%	96.0%	3,504	43,071	88.1%	6.8%		
長野	63	63	0	842	8	838	93.0%	100.0%	99.5%	6,528	43,564	83.6%	9.4%		
岐阜	232	232	0	3,141	102	3,090	93.1%	100.0%	98.4%	8,787	60,586	90.2%	2.9%		
静岡	868	866	0	6,217	144	6,145	87.8%	100.0%	98.8%	24,297	152,451	86.3%	1.5%		
愛知	1	1	0	1,134	0	1,134	99.9%	100.0%	100.0%	110	33,390	99.7%	0.2%		
愛知ブロック	1,367	1,365	1	13,766	446	13,543	91.0%	99.9%	98.4%	65,185	401,322	87.9%	3.1%		
滋賀	76	72	2	906	12	900	92.3%	94.7%	99.3%	3,909	27,882	88.8%	3.4%		
京都	37	31	6	2,445	7	2,429	96.6%	83.3%	93.5%	1,447	72,454	98.0%	7.8%		
大阪	390	386	2	8,604	12	8,598	96.7%	99.0%	98.9%	17,708	246,294	93.3%	2.4%		
兵庫	164	164	0	3,238	4	3,234	95.2%	100.0%	99.9%	10,100	129,252	92.8%	2.4%		
奈良	72	72	0	958	18	947	93.0%	100.0%	99.1%	4,137	33,965	89.1%	3.9%		
和歌山	54	50	2	1,001	59	973	94.9%	92.6%	97.2%	4,778	28,938	85.8%	9.1%		
大阪ブロック	793	775	12	17,148	109	17,081	96.6%	97.7%	99.6%	41,675	538,823	92.8%	2.8%		
鳥取	8	8	0	55	0	55	87.3%	100.0%	100.0%	779	16,022	95.4%	-8.1%		
島根	4	4	0	521	0	521	99.2%	100.0%	100.0%	86	14,115	99.4%	-0.2%		
岡山	173	173	0	1,986	134	1,959	91.1%	100.0%	96.2%	8,519	51,763	85.9%	3.2%		
広島	65	63	1	2,237	20	2,227	95.3%	97.6%	98.5%	4,223	71,907	94.9%	1.9%		
山口	74	69	4	1,469	18	1,480	95.2%	91.5%	99.4%	2,082	41,352	95.2%	0.0%		
徳島	8	8	0	815	0	815	99.0%	100.0%	100.0%	218	20,878	99.0%	0.1%		
香川	9	9	0	1,094	6	1,091	99.2%	100.0%	99.7%	476	26,488	98.2%	0.9%		
愛媛	17	17	0	1,388	0	1,388	98.8%	100.0%	100.0%	212	40,373	99.5%	-0.7%		
高知	69	66	1	758	128	694	91.7%	95.7%	91.6%	5,691	20,789	78.5%	13.1%		
岡山ブロック	447	436	8	10,103	306	9,950	93.6%	97.5%	98.5%	22,286	303,683	93.2%	2.6%		
福岡	53	48	4	4,489	0	4,489	98.8%	90.6%	100.0%	1,306	138,487	99.1%	-0.2%		
佐賀	0	0	0	739	0	739	100.0%	-	100.0%	57	18,698	99.3%	0.3%		
長崎	4	4	0	659	2	658	99.4%	100.0%	99.8%	1,731	40,078	95.9%	0.5%		
熊本	49	49	0	2,027	0	2,027	97.6%	100.0%	100.0%	852	53,811	98.4%	-0.8%		
大分	49	49	0	1,182	0	1,182	98.0%	100.0%	100.0%	1,570	31,757	95.3%	0.7%		
宮崎	5	5	0	1,116	0	1,116	99.6%	100.0%	100.0%	560	31,000	98.2%	1.3%		
鹿児島	52	48	3	2,136	8	2,132	97.6%	92.3%	99.8%	1,826	47,075	96.3%	1.4%		
沖縄	25	14	11	576	0	576	95.8%	98.0%	100.0%	1,194	36,586	96.8%	-1.0%		
福岡ブロック	237	217	18	12,924	10	12,919	98.2%	97.6%	100.0%	9,066	397,493	97.8%	0.4%		

・発注数及び納品数については、平成22年8月10日から8月24日までの2週間における日中のデータで、夜間分は含まれていないこと。
・発注数及び納品数には、規格を指定しない合計単位数での発注数は含まれていないこと。
・R(-)の発注及び納品は含まれていないこと。
・発注発注における規格変更の主な理由については、①AB型の未照射血など、在庫が少なかった場合、1単位×2本の発注に対し、2単位×1本の供給した②凍血日の新しい製剤で、未照射血の在庫が無かったため、2単位で供給した③元々の発注が2単位変更であった、などが挙げられる。
・院内在庫とすることから凍血日の新しい製剤を発注したが、在庫として保有しなかったため、その日はキャンセルするも、翌日改めて発注するケースなどあり、発注数と納品数がお互いに異なるケースがあること。
・1単位製剤の有効利用の観点から、2単位発注分の中には、1単位×2本の供給をお願いする場合があります。

都道府県別高校献血実施状況(昭和62年度~平成22年度)

(No.1)

施設名	昭和62年度			昭和63年度			平成元年度			平成2年度			平成3年度		
	設置数	実施数	実施率	設置数	実施数	実施率	設置数	実施数	実施率	設置数	実施数	実施率	設置数	実施数	実施率
北海道	336	148	44.0%	333	146	43.8%	334	144	43.1%	336	132	39.3%	336	128	38.1%
青森	81	71	87.7%	82	75	91.5%	83	78	94.0%	86	80	93.0%	86	82	95.3%
岩手	96	92	95.8%	97	93	95.9%	97	94	96.9%	97	94	96.9%	97	95	97.9%
宮城	105	73	69.5%	105	77	73.3%	104	67	64.4%	104	74	71.2%	105	75	71.4%
秋田	68	68	100.0%	66	66	100.0%	66	66	100.0%	66	66	100.0%	66	66	100.0%
山形	70	65	92.9%	70	69	98.6%	70	69	98.6%	70	69	98.6%	70	67	95.7%
福島	104	98	94.2%	105	94	89.5%	107	98	91.6%	107	98	91.6%	113	90	79.6%
茨城	130	97	74.6%	130	103	79.2%	130	105	80.8%	131	108	82.4%	131	108	82.4%
栃木	83	80	96.4%	81	80	98.8%	81	81	100.0%	81	81	100.0%	81	81	100.0%
群馬	86	84	97.7%	86	84	97.7%	88	84	95.5%	88	86	97.7%	88	86	97.7%
埼玉	206	138	67.0%	207	144	69.6%	207	145	70.0%	208	150	72.1%	208	153	73.6%
千葉	204	170	83.3%	206	173	84.4%	207	169	81.6%	208	166	79.8%	207	159	76.8%
東京	444	65	14.6%	438	72	16.4%	434	70	16.1%	432	69	16.0%	434	72	16.6%
神奈川	255	71	27.8%	256	63	24.6%	254	63	24.8%	264	56	21.2%	266	56	21.1%
新潟	119	67	56.3%	119	72	60.5%	119	76	63.9%	119	74	62.2%	119	72	60.5%
富山	55	50	90.9%	55	51	92.7%	55	49	89.1%	55	50	90.9%	55	48	87.3%
石川	60	56	93.3%	60	56	93.3%	61	53	86.9%	61	57	93.4%	60	58	96.7%
福井	36	23	63.9%	36	31	86.1%	36	31	86.1%	36	31	86.1%	36	33	91.7%
山梨	46	46	100.0%	46	45	97.8%	46	46	100.0%	46	46	100.0%	46	46	100.0%
長野	106	91	85.8%	106	88	83.0%	106	80	75.5%	106	80	75.5%	106	76	71.7%
岐阜	92	90	97.8%	92	85	92.4%	109	86	78.9%	97	76	78.4%	96	75	78.1%
静岡	146	143	97.9%	146	141	96.6%	146	142	97.3%	146	143	97.9%	146	144	98.6%
愛知	224	119	53.1%	226	140	61.9%	226	149	65.9%	226	149	65.9%	225	163	72.4%
三重	77	50	64.9%	77	45	58.4%	77	35	45.5%	77	27	35.1%	77	26	33.8%
滋賀	51	48	94.1%	51	46	90.2%	52	45	86.5%	52	43	82.7%	52	40	76.9%
京都	94	33	35.1%	94	31	33.0%	94	26	27.7%	95	25	26.3%	95	24	25.3%
大阪	273	64	23.4%	278	67	24.1%	278	68	24.5%	278	63	22.7%	279	66	23.7%
兵庫	198	152	76.8%	198	154	77.8%	199	153	76.9%	199	151	75.9%	198	155	78.3%
奈良	61	56	91.8%	61	55	90.2%	62	57	91.9%	61	57	93.4%	62	58	93.5%
和歌山	42	39	92.9%	45	42	93.3%	44	36	81.8%	61	37	60.7%	61	35	57.4%
鳥取	33	33	100.0%	34	34	100.0%	34	34	100.0%	35	29	82.9%	35	33	94.3%
島根	50	47	94.0%	51	46	90.2%	51	46	90.2%	51	49	96.1%	52	48	92.3%
岡山	93	63	67.7%	93	68	73.1%	93	61	65.6%	93	56	60.2%	93	54	58.1%
広島	136	74	54.4%	136	76	55.9%	136	74	54.4%	136	70	51.5%	136	65	47.8%
山口	92	89	96.7%	91	90	98.9%	91	91	100.0%	91	89	97.8%	91	89	97.8%
徳島	42	42	100.0%	42	42	100.0%	42	42	100.0%	42	42	100.0%	42	42	100.0%
香川	42	28	66.7%	42	26	61.9%	43	30	69.8%	43	30	69.8%	43	31	72.1%
愛媛	67	64	95.5%	67	60	89.6%	66	62	93.9%	66	63	95.5%	67	65	97.0%
高知	51	4	7.8%	52	2	3.8%	52	2	3.8%	51	4	7.8%	53	3	5.7%
福岡	179	120	67.0%	183	113	61.7%	183	85	46.4%	184	78	42.4%	184	72	39.1%
佐賀	44	39	88.6%	47	43	91.5%	46	39	84.8%	46	39	84.8%	46	41	89.1%
長崎	85	85	100.0%	85	82	96.5%	84	82	97.6%	84	81	96.4%	84	77	91.7%
熊本	81	75	92.6%	82	75	91.5%	83	79	95.2%	83	79	95.2%	83	78	94.0%
大分	73	73	100.0%	75	73	97.3%	76	73	96.1%	75	75	100.0%	75	74	98.7%
宮崎	58	53	91.4%	58	54	93.1%	58	57	98.3%	58	58	100.0%	58	56	96.6%
鹿児島	97	89	91.8%	101	93	92.1%	101	94	93.1%	101	91	90.1%	101	94	93.1%
沖縄	62	45	72.6%	62	54	87.1%	63	52	82.5%	63	56	88.9%	63	46	73.0%
合計	5,232	3,470	66.3%	5,252	3,519	67.0%	5,274	3,468	65.8%	5,295	3,427	64.7%	5,307	3,405	64.2%

*昭和60年、61年度および平成4年、11年、13年、14年度は調査未実施(厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告しているため)

都道府県別高校献血実施状況(昭和62年度~平成22年度)

(No.2)

施設名	平成5年度			平成6年度			平成7年度			平成8年度			平成9年度		
	設置数	実施数	実施率	設置数	実施数	実施率	設置数	実施数	実施率	設置数	実施数	実施率	設置数	実施数	実施率
北海道	335	98	29.3%	336	80	23.8%	334	83	24.9%	334	82	24.6%	336	80	23.8%
青森	86	80	93.0%	86	79	91.9%	86	66	76.7%	86	68	79.1%	86	56	65.1%
岩手	97	92	94.8%	97	94	96.9%	97	93	95.9%	97	94	96.9%	97	87	89.7%
宮城	105	70	66.7%	105	66	62.9%	113	64	56.6%	113	64	56.6%	107	68	63.6%
秋田	64	64	100.0%	64	64	100.0%	64	64	100.0%	64	62	96.9%	65	61	93.8%
山形	70	66	94.3%	70	65	92.9%	72	67	93.1%	72	62	86.1%	72	63	87.5%
福島	117	79	67.5%	117	74	63.2%	118	77	65.3%	118	73	61.9%	113	71	62.8%
茨城	132	103	78.0%	126	98	77.8%	131	94	71.8%	131	85	64.9%	131	48	36.6%
栃木	81	81	100.0%	81	80	98.8%	81	78	96.3%	81	79	97.5%	81	80	98.8%
群馬	88	85	96.6%	88	70	79.5%	89	70	77.6%	85	64	75.3%	87	68	78.2%
埼玉	209	151	72.2%	209	148	70.8%	209	103	49.3%	209	96	45.9%	209	92	44.0%
千葉	201	146	72.6%	202	107	53.0%	202	96	47.5%	204	83	40.7%	202	87	43.1%
東京	434	46	10.6%	399	20	5.0%	456	20	4.4%	456	25	5.5%	455	26	5.7%
神奈川	256	48	18.8%	255	36	14.1%	256	28	10.9%	256	17	6.6%	259	18	6.9%
新潟	122	52	42.6%	122	30	24.6%	127	47	37.0%	120	39	32.5%	120	35	29.2%
富山	55	43	78.2%	55	38	69.1%	55	36	65.5%	56	30	53.6%	59	30	50.8%
石川	66	29	43.9%	66	14	21.2%	66	17	25.8%	66	34	51.5%	66	12	18.2%
福井	36	21	58.3%	36	20	55.6%	36	20	55.6%	36	14	38.9%	37	16	43.2%
山梨	47	45	95.7%	47	46	97.9%	47	46	97.9%	47	46	97.9%	48	46	95.8%
長野	106	76	71.7%	106	75	70.8%	106	70	66.0%	88	64	72.7%	107	57	53.3%
岐阜	95	72	75.8%	95	61	64.2%	95	67	70.5%	95	51	53.7%	93	45	48.4%
静岡	148	146	98.6%	158	146	92.4%	148	143	96.6%	148	141	95.3%	148	137	92.6%
愛知	232	151	65.1%	238	99	41.6%	238	55	23.1%	238	61	25.6%	238	60	25.2%
三重	79	23	29.1%	79	14	17.7%	75	16	21.3%	75	13	17.3%	76	14	18.4%
滋賀	52	22	42.3%	52	24	46.2%	52	19	36.5%	52	21	40.4%	53	19	35.8%
京都	95	7	7.4%	96	1	1.0%	96	1	1.0%	96	1	1.0%	97	2	2.1%
大阪	280	51	18.2%	278	39	14.0%	284	34	12.0%	284	30	10.6%	284	36	12.7%
兵庫	199	137	68.8%	201	102	50.7%	202	109	54.0%	202	107	53.0%	203	100	49.3%
奈良	62	53	85.5%	62	56	90.3%	62	41	66.1%	62	27	43.5%	65	25	38.5%
和歌山	60	30	50.0%	61	22	36.1%	61	22	36.1%	61	18	29.5%	64	17	26.6%
鳥取	35	28	80.0%	34	30	88.2%	35	28							

都道府県別高校献血実施状況(昭和62年度~平成22年度)

(No.3)

施設名	平成10年度				平成12年度				平成15年度				平成16年度				平成17年度			
	設置数	実施数	献血数	実施率																
北海道	334	72	4,875	21.6%	334	60	4,220	18.0%	355	60	4,279	16.9%	344	52	4,091	15.1%	342	46	3,493	13.5%
青森	86	55	3,291	64.0%	91	54	2,772	59.3%	88	58	3,113	65.9%	92	55	2,585	59.8%	90	52	2,635	57.8%
岩手	97	89	4,014	91.8%	97	93	3,210	95.9%	98	90	2,515	91.8%	94	83	2,163	88.3%	93	86	2,464	92.5%
宮城	107	70	4,021	65.4%	113	70	3,932	61.9%	177	95	5,978	53.7%	112	72	2,950	64.3%	105	69	2,968	65.7%
秋田	65	62	5,619	95.4%	68	62	5,323	91.2%	63	60	4,067	95.2%	63	60	3,418	95.2%	63	60	3,491	95.2%
山形	71	61	4,315	85.9%	71	65	4,988	91.5%	72	71	4,290	98.6%	69	66	4,449	95.7%	69	65	4,290	94.2%
福島	111	62	5,006	55.9%	111	59	4,387	53.2%	143	81	4,895	56.6%	129	55	3,353	42.6%	134	66	2,944	49.3%
茨城	132	83	7,374	62.9%	132	78	6,695	59.1%	133	79	4,785	59.4%	125	79	4,549	63.2%	134	74	4,281	55.2%
栃木	81	80	10,585	98.8%	82	80	13,949	97.6%	87	84	9,469	96.6%	82	80	8,324	97.6%	82	79	8,314	96.3%
群馬	87	66	6,048	75.9%	86	63	6,143	73.3%	156	86	6,296	55.1%	146	72	5,521	49.3%	146	72	5,320	49.3%
埼玉	209	90	10,778	43.1%	211	89	8,837	42.2%	211	78	8,360	37.0%	180	86	8,810	47.8%	209	79	7,771	37.8%
千葉	203	86	7,634	42.4%	203	80	6,577	39.4%	249	108	9,146	43.4%	230	74	5,253	32.2%	204	70	5,412	34.3%
東京	456	26	3,001	5.7%	451	21	2,275	4.7%	904	56	5,802	6.2%	853	43	4,064	5.0%	907	59	5,593	6.5%
神奈川	262	14	2,458	5.3%	262	11	2,109	4.2%	225	11	1,718	4.9%	216	10	1,628	4.6%	244	10	1,611	4.1%
新潟	120	37	2,971	30.8%	120	19	1,290	15.8%	119	13	844	10.9%	124	7	388	5.6%	124	3	149	2.4%
富山	59	35	2,991	59.3%	59	26	2,388	44.1%	61	20	1,919	32.8%	61	18	1,857	29.5%	60	19	1,589	31.7%
石川	66	11	1,425	16.7%	65	13	1,636	20.0%	60	9	1,191	15.0%	69	12	1,479	17.4%	67	11	1,598	16.4%
福井	37	20	1,510	54.1%	37	27	2,283	73.0%	65	27	2,092	41.5%	45	14	1,059	31.1%	44	11	926	25.0%
山梨	48	47	6,301	97.9%	46	44	5,598	95.7%	44	42	2,718	95.5%	45	42	2,749	93.3%	47	42	2,729	89.4%
長野	107	54	2,504	50.5%	106	37	1,730	34.9%	110	18	846	16.4%	108	13	694	12.0%	108	13	708	12.0%
岐阜	93	45	3,148	48.4%	91	41	2,606	45.1%	94	35	1,848	37.2%	91	34	1,605	37.4%	91	31	1,577	34.1%
静岡	148	136	12,572	91.9%	146	132	10,886	90.4%	148	127	8,605	85.8%	151	124	8,219	82.1%	150	122	7,331	81.3%
愛知	238	58	5,026	24.4%	197	6	492	3.0%	242	9	794	3.7%	229	8	649	3.5%	262	18	1,017	6.9%
三重	78	14	1,138	17.9%	79	21	1,221	26.6%	111	3	106	2.7%	88	2	113	2.3%	80	1	20	1.3%
滋賀	53	10	743	18.9%	53	7	587	13.2%	54	7	518	13.0%	54	7	412	13.0%	63	7	405	11.1%
京都	103	2	206	1.9%	104	3	165	2.9%	107	8	740	7.5%	123	5	498	4.1%	121	2	203	1.7%
大阪	284	32	3,266	11.3%	284	26	2,682	9.2%	528	60	5,788	11.4%	525	66	5,682	12.6%	335	30	2,286	9.0%
兵庫	203	87	7,699	42.9%	223	67	4,454	30.0%	256	43	2,607	16.8%	235	22	1,317	9.4%	226	26	1,135	11.1%
奈良	64	23	1,809	35.9%	62	28	2,510	45.2%	64	29	2,749	45.3%	65	26	4,541	40.0%	59	22	1,788	37.3%
和歌山	64	18	976	28.1%	64	17	830	26.6%	70	24	1,148	34.3%	70	32	1,425	45.7%	70	38	1,596	54.3%
鳥取	35	30	2,073	85.7%	34	29	1,371	85.3%	35	27	1,223	77.1%	35	22	1,148	62.9%	31	20	931	64.5%
島根	51	46	2,662	90.2%	50	46	2,320	92.0%	48	41	2,032	85.4%	51	41	1,615	80.4%	52	41	1,763	78.8%
岡山	108	42	2,117	38.9%	113	38	1,958	33.6%	109	34	1,592	31.2%	101	23	1,142	22.8%	101	11	701	10.9%
広島	143	25	2,536	17.5%	143	21	1,981	14.7%	281	36	3,499	12.8%	238	37	3,822	15.5%	237	28	2,320	11.8%
山口	91	32	1,535	35.2%	92	21	887	22.8%	91	12	350	13.2%	92	9	238	9.8%	92	10	278	10.9%
徳島	43	42	2,299	97.7%	43	39	1,700	90.7%	50	46	1,776	92.0%	61	43	1,512	70.5%	45	36	1,360	80.0%
香川	47	23	1,934	48.9%	45	26	1,594	57.8%	47	28	1,706	59.6%	47	28	1,641	59.6%	47	20	1,065	42.6%
愛媛	73	55	3,724	75.3%	74	39	1,986	52.7%	109	36	1,995	33.0%	99	28	1,694	28.3%	99	12	545	12.1%
高知	54	4	412	7.4%	50	3	376	6.0%	83	26	2,098	31.3%	56	5	467	8.9%	57	4	543	7.0%
福岡	180	5	391	2.8%	182	8	570	4.4%	301	36	2,568	12.0%	301	60	4,876	19.9%	188	18	1,594	9.6%
佐賀	46	20	1,650	43.5%	46	3	101	6.5%	48	5	262	10.4%	48	3	218	6.3%	48	3	218	6.3%
長崎	86	53	2,661	61.6%	85	43	1,772	50.6%	127	39	1,757	30.7%	110	35	1,617	31.8%	110	32	1,186	29.1%
熊本	83	73	8,744	88.0%	97	57	6,060	58.8%	160	37	2,696	23.1%	130	38	2,023	29.2%	86	21	1,291	24.4%
大分	75	21	1,760	28.0%	75	6	317	8.0%	77	7	480	9.1%	70	5	284	7.1%	71	6	390	8.5%
宮崎	59	38	4,645	64.4%	59	42	3,504	71.2%	103	34	1,600	33.0%	79	29	1,546	36.7%	79	11	408	13.9%
鹿児島	104	42	4,301	40.4%	104	44	3,723	42.3%	114	46	3,532	40.4%	113	45	3,418	39.8%	106	43	2,544	40.6%
沖縄	65	17	742	26.2%	67	16	720	23.9%	66	19	704	28.8%	67	16	756	23.9%	67	19	869	28.4%
合計	5,409	2,113	177,490	39.1%	5,407	1,880	147,625	34.8%	6,943	2,000	139,096	28.8%	6,516	1,786	121,862	27.4%	6,245	1,617	103,660	25.9%

*昭和60年, 61年度および平成4年, 11年, 13年, 14年度は調査未実施(厚生労働省を通じて全日本教職員組合業務課教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告しているため)

都道府県別高校献血実施状況(昭和62年度~平成22年度)

(No.4)

施設名	平成18年度				平成19年度				平成20年度				平成21年度				平成22年度			
	設置数	実施数	献血数	実施率	設置数	実施数	献血数	実施率	設置数	実施数	献血数	実施率	設置数	実施数	献血数	実施率	設置数	実施数	献血数	実施率
北海道	331	45	3,154	13.6%	331	44	2,728	13.3%	320	47	3,057	14.7%	372	41	2,652	11.0%	369	40	2,671	10.8%
青森	98	59	2,755	60.2%	98	45	1,541	51.1%	88	45	1,695	51.1%	86	42	1,160	48.8%	85	41	1,445	48.2%
岩手	92	86	2,301	93.5%	92	80	1,596	87.0%	87	77	1,924	88.5%	84	67	1,803	79.8%	80	78	1,620	97.5%
宮城	107	71	2,593	66.4%	112	63	2,098	56.3%	103	60	1,389	58.3%	107	57	1,325	53.3%	107	55	1,395	51.4%
秋田	63	60	3,147	95.2%	67	58	2,652	86.6%	67	55	2,205	82.1%	67	55	2,059	82.1%	67	54	1,820	80.6%
山形	69	63	3,517	91.3%	69	63	2,715	91.3%	69	58	2,776	84.1%	70	55	2,601	78.6%	69	55	2,508	79.7%
福島	128	57	2,341	44.5%	107	46	1,648	43.0%	107	45	1,613	42.1%	107	42	1,395	39.3%	107	38	1,410	35.5%
茨城	132	76	3,969	57.6%	132	75	3,999	56.8%	131	69	3,315	52.7%	134	64	3,177	47.8%	127	63	3,581	49.6%
栃木	84	79	7,240	94.0%	81	74	6,718	91.4%	79	74	6,798	93.7%	75	67	6,132	89.3%	78	75	6,905	96.2%
群馬	161	100	7,747	62.1%	87	57	3,507	65.5%	87	58	3,340	66.7%	86	54	3,026	62.8%	86	60	3,980	69.8%
埼玉	209	86	7,592	41.1%	204	117	7,307	57.4%	204	116	7,569	56.9%	203	112	6,985	55.2%	200	100	6,639	50.0%
千葉	204	67	4,717	32.8%	189	66	4,424	34.9%	189	58	4,163	30.7%	194	57	4,139	29.4%	194	57	4,409	29.4%
東京	451	19	1,599	4.2%	450	16	1,251	3.5%	683	42	3,561	6.1%	441	17	1,073	3.9%	445	17	1,277	3.8%
神奈川	247	10	1,318	4.0%	247	9	1,243	3.6%	245	8	1,131	3.3%	353	9	916	2.5%	261	8	950	3.1%
新潟	116	4	178	3.4%	112	7	379	6.3%	108	3	128	2.8%	112	5	195	4.5%	111	3	175	2.7%
富山	60	17	1,405	28.3%	61	16	1,324	26.2%	67	16	1,181	23.9%	60	15	1,018	25.0%	60	13	820	21.7%
石川	64	15	1,370	23.4%	64	9	944	14.1%	62	6	460	9.7%	56	3	157	5.4%	56	4	226	7.1%
福井	44	10	704	22.7%	44	10</														

資料8-1

若年層献血意識調査結果の概要

I 調査の概況

1 調査の目的

近年、献血者数は減少傾向にあり、特に若年層の献血離れは深刻なものとなっていることから、献血推進の枠組みについての見直しが求められているところである。

そのため、若年層の献血に対する意識調査を実施し、平成17年度に行った同様の調査の結果との比較を行うことにより、若年層の献血に対する意識等に変化があるかどうかを検証し、検証結果を今後の若年層に対する献血推進のあり方の検討に資する。

2 調査の内容

- (1) 若年層の献血への関心度や献血へのイメージを把握する。
- (2) 若年層の献血に関する認知度を把握する。
- (3) 若年層が献血を行った時期やきっかけを把握する。
- (4) (1)～(3)について平成17年度の調査結果との比較を行う。

3 調査の概要

(1) 調査方法 : 委託先調査会社が保有している一般消費者パネルに対して、インターネットを通じて質問(調査票)を送付し、回答を収集する。

(2) 調査対象 : 全国の16～29歳の献血経験者及び献血未経験者
 ※献血経験者 : 過去に1度でも献血の経験がある者
 ※献血未経験者 : 今まで1度も献血の経験がない者(採血前の検査で基準を満たさなため献血できなかった者を含む)

(3) 対象者数 : 回収数 10,000名(地域別内訳は下表のとおり)

	合計	経験者	未経験者
合計	10,000	5,000	5,000
北海道	420	210	210
東北	710	355	355
関東甲信越	3,650	1,825	1,825
東海北陸	1,560	780	780
近畿	1,632	816	816
中国・四国	862	431	431
九州・沖縄	1,166	583	583

(4) 調査期間 : 平成20年9月5日(金)～9月7日(日)

II 調査結果の概要

1 献血未経験者

■ 対象者特性 (回答者5,000人)

- ①【居住地】は、「関東甲信越」が36.5%を占めており、以下、「近畿」(16.3%)「東海北陸」(15.6%)、「九州・沖縄」(11.7%)、「中国・四国」(8.6%)、「東北」(7.1%)、「北海道」(4.2%)の順。全体構成は17年度調査と概ね変わらない。
- ②【性別】は、「男性」51.1%、「女性」48.9%とほぼ半々。17年度調査に比べて男性回答者が大幅に増えている(33.8%→51.1%)。
- ③【年齢】については、16～17歳(9.7%)、18～19歳(15.4%)、20～24歳(35.5%)、25～29歳(39.4%)であった。17年度調査に比べて10代の回答者が増加している(「16～17歳」(5.5%→9.7%)、「18～19歳」(6.1%→15.4%)。
- ④【職業】では、最も多かったのは「会社員」(30.9%)で、以下、「大学生・専門学校生」(29.7%)、「その他」(14.1%)、「高校生」(12.5%)、「専業主婦」(8.5%)、「自営業」(2.7%)、「公務員」(1.7%)の順。17年度調査と比べると、特に「大学生・専門学校生」(18.6%→29.7%)の増加、「専業主婦」(17.1%→8.5%)の減少が目立つ。
- ⑤【医療関係への関与の有無】については、「携わっている」と回答した人は6.4%で、17年度調査(6.0%)とほぼ同様だった。

■ 献血に関する認知・関心度

Q1 献血についての認知程度

- ・「よく知っている」は12.6%。「ある程度知っている」(80.3%)まで含めると、認知率は92.9%にのぼる。
- ・高校生の認知率(計87.9%)が他層に比べてやや低い。
- ・性別・地域別による認知率の違いはそれほどみられない。
- ・17年度調査に比べて全体での認知率は73.8%→92.9%へ大幅に上昇。

Q2 献血の種類認知(新規質問)

- ・献血には全血献血と成分献血といった種類があるということを「知っている」人は38.6%。残りの6割以上の人は未だ認知していない。
- ・職業別では、公務員の認知率が半数を超えており他層に比べて高い。一方、高校生の7割強が「知らない」としており最も認知率が低い。
- ・性別では、男性(34.3%)に比べて女性の認知率(43.0%)が高い。
- ・地域別では、東北の認知率(49.0%)が最も高い。

Q3 献血できる場所の認知(新規質問)

- ・献血できる場所の認知状況について、「よく知っている」は24.5%。「ある程度知っている」(63.2%)まで含めると、認知率は87.7%にのぼる。
- ・職業別では、専業主婦の認知率(93.6%)が最も高い。一方で、高校生(82.1%)、自営業(81.3%)は他層よりもやや低い。
- ・性別では、女性の認知率(91.8%)、うち「よく知っている」28.0%が男性(83.8%)、うち「よく知っている」21.1%よりも高い。
- ・東北のほぼ3人に1人(32.4%)が「よく知っている」と回答し、他地域より高い。

Q14 献血ルームのイメージ

- ・ 全体の半数弱(47.4%)が「ふつう」の印象を持ち、「暗い」イメージ(15.4%)が「明るい」イメージ(12.7%)を上回っている。一方で、ほぼ4人に1人(25.4%)が「わからない」としている。
- ・ 性別では、男性(9.1%)に比べて女性(16.5%)の方が「明るい」イメージを持つ割合がやや高い。
- ・ 地域別では、「明るい」イメージは北海道で最も高い(18.1%)
- ・ 17年度調査と比較すると、前回「わからない」の回答肢がないため、一概には比較できないが、全体では「明るい」「ふつう」「暗い」のいずれも減少し、特に「ふつう」の落ち込み(61.2%→47.4%)が顕著。

Q4 献血への関心度

- ・ 全体では、関心あり層の45.8%(うち非常に関心がある:5.2%)に対して、関心なし層が54.2%(うち全く関心がない:8.6%)と、「無関心派」がやや上回る。
- ・ 職業別では、他層に比べて専業主婦で関心あり層の割合が高い(53.4%)。
- ・ 性別では、男性よりも女性の関心度が高く、関心あり層の割合は女性54.6%、男性37.5%。
- ・ 地域別では、九州・沖縄の関心度が他地域よりやや高い(関心あり層53.5%、うち非常に関心がある7.9%)。
- ・ 17年度調査との比較でみると、全体で関心あり層が52.2%→45.8%に低下。

Q5 献血が病気の治療に役立っていることの認知 (新規質問)

- ・ 献血がさまざまな病気の治療に役立っていることは、ほぼ半数の48.0%が認知している。
- ・ 認知率は、職業別・性別・地域別のいずれでみても、各層でそれほど違いはみられない。

Q6 若年層の献血協力者の減少傾向認知 (新規質問)

- ・ 近年、献血に協力してくれる10代・20代の若年層が大幅に減少していることを「知っている」という人は全体で37.3%。
- ・ 職業別にみると、公務員の認知率(52.9%)が他層に比べて高い。なお、大学・専門学校生の認知率は40.2%、高校生の認知率は33.7%にとどまる。
- ・ 認知率は男女間で差はなく、地域別でも大きな違いはみられない。

■ 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

Q7 献血に関する広報接触媒体

- ・ 接触したことがある広報媒体で最も多いのは「街頭での呼びかけ」(60.6%)。以下、「テレビ」(50.4%)、「献血バス」(49.8%)、「献血ルーム前の看板・表示」(48.5%)と続き、ここまですべてが主要な媒体。
- ・ 職業別にみると、「街頭での呼びかけ」は大学生・専門学校生と専業主婦でやや高い。また、専業主婦は「献血バス」「献血ルーム前の看板・表示」も高く、現場での接触が目立つ。一方、高校生は総じて接触率が低い(「街頭での呼びかけ」42.0%、「献血バス」36.3%、「献血ルーム前の看板・表示」(36.6%)等)。
- ・ 地域別では、「テレビ」は東北で高く、関東甲信越で低い。また、「街頭での呼びかけ」「献血ルーム前の看板・表示」は、献血ルームが多い関東甲信越、近畿で高い。
- ・ 17年度調査と比較すると、総じて広報媒体への接触率が低下している(主要な媒体で10ポイント程度減少)。
- ・ 高校生・自営業では「見たこと(聞いたこと)がない」が1割弱まで増加している。

Q8 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体

- ・ 「テレビ」が圧倒的に高い(84.7%)。次いで「インターネット」(46.8%)が続き、以下、「新聞」(23.7%)、「ポスター」(22.7%)、「雑誌」(22.7%)、「携帯電話」(22.2%)。
- ・ 職業別にみると、高校生では他層より「インターネット」(40.9%)がやや低く、「携帯電話」(28.0%)がやや高い。専業主婦・公務員で、「自治体の広報誌」を挙げる割合が他層よりも8~10ポイント高い。専業主婦は「新聞」(30.0%)「雑誌」(29.8%)も他層よりやや高い。
- ・ 性別では「雑誌」を挙げる人が男性(17.6%)よりも女性(27.9%)に多い。
- ・ 17年度調査と比較すると、「インターネット」「携帯電話」を効果的とする割合が高くなっている(インターネット41.9%→46.8%、携帯電話13.4%→22.2%)。

Q9 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知

- ・ 未経験者全体での認知率は7.2%。
- ・ 属性別でみると、高校生、大学生・専門学校生の認知率が1割強と他層よりもやや高い。また男性(4.8%)よりも女性(9.7%)の認知率が上回っている。地域別では東北で他地域に比べやや高い(12.7%)。
- ・ 17年度調査と比較すると、認知率は3.0%→7.2%へと4ポイントアップした。
- ・ 属性別では、今回比較的認知率が高かった高校生、大学生・専門学校生、専業主婦において6~7ポイントの認知率アップがみられた。

Q10 献血キャンペーン認知

- ・ 献血キャンペーンを「知っている」と回答した人は14.7%。
- ・ 職業別では他層に比べて公務員の認知率(20.0%)がやや高い。性別では男性(11.6%)よりも女性(17.8%)が高く、地域別では東北(20.3%)がやや高い。
- ・ 17年度調査と比較すると、認知率は25.9%→14.7%へと相当低下している。
- ・ 属性別にみても、各層ともおしなべて認知率が相当低下している。

Q11 「HOP STEP JUMP」を配布された記憶

- ・ 高校3年生を対象に、「HOP STEP JUMP」という普及啓発資料が配布されていることを認知している人は9.6%。授業で使用した記憶がある人は2.2%にとどまっている。
- ・ 職業別にみると、高校生(15.0%)や大学生・専門学校生(10.30%)といった、より若い世代の認知率がやや高い。それでも認知率は10%台にとどまる。
- ・ 17年度調査と比較すると、認知率は7.1%→9.6%へと若干上昇している。

■ 感染症・血液製剤について

Q12 献血では感染症に感染しないことの認知

- ・ 献血でエイズ、肝炎といった感染症に感染しないことを認知している人は59.1%
- ・ 属性別による違いはさほどみられない。
- ・ 17年度調査と比較すると、認知率はほぼ横ばい(60.9%→59.1%)。
- ・ 職業別では、公務員の認知率が目立って低下している。

Q13 血液製剤の海外血液依存の認知

- ・ 血液製剤は未だ海外の血液に依存しているということを認知している人は14.5%
- ・ 職業別にみると、公務員の認知率が他層に比べてやや高い(21.2%)。性別・地域別による差はあまりみられない。
- ・ 17年度調査と比較すると、認知率は22.6%→14.5%へ、8ポイント低下。

■ 献血をしたことがない理由

Q15 献血したことがない理由(大きい順に3つ選択)

○ 1位に挙がった理由

- 最も多かったのは「針を刺すのが痛くて嫌だから」(15.3%)。以下、「健康上出来ないと思ったから」(8.5%)、「なんとなく不安だから」(8.2%)、「近くに献血する場所や機会がなかったから」(7.8%)、「献血を申し込んだが、基準に適合せず断られた」(7.7%)が上位5。
- 職業別にみると、専業主婦で「献血を申し込んだが、基準に適合せず断られた」が他層よりもやや高い(全体7.7%、専業主婦15.4%)。一方、高校生は「健康上出来ないと思ったから」がやや低い(全体8.5%、高校生2.4%)。
- 17年度調査と比較すると、全体では「献血を申し込んだが、基準に適合せず断られた」(11.6%→7.7%)と「健康上出来ないと思ったから」(11.9%→8.5%)がやや減少している。
- 地域別では、北海道で「針を刺すのが痛くて嫌だから」(10.5%→18.6%)と「献血する意志がない」(5.0%→10.5%)が前回よりも増加している。

○ 1位～3位累計

- 1位～3位の累計でみると、「針を刺すのが痛くていやだから」(31.2%)と「なんとなく不安だから」(30.8%)が拮抗し、主な理由となっている。以下、「時間がかかりそうだから」(21.6%)、「恐怖心」(21.1%)、「近くに献血する場所や機会がなかったから」(19.9%)と続く。
- 職業別にみると、高校生で「近くに献血する場所や機会がなかったから」がやや高い(全体19.9%、高校生25.9%)。公務員は他層に比べて「時間がかかりそうだから」(全体21.6%、公務員27.1%)と「忙しくて献血する時間がなかった」(全体14.7%、公務員21.2%)がやや高い。また、専業主婦では、1位の理由と同様に「献血を申し込んだが基準に適合せず断られた」(全体9.7%、専業主婦16.8%)が他層よりもやや高い。
- 17年度調査と比較すると、全体では大きな変化はみられない。その中で「健康上出来ないと思ったから」が5ポイント低下した(22.8%→17.7%)。
- 職業別では、公務員で「時間がかかりそうだから」(13.5%→27.1%)「忙しくて献血する時間がなかった」(14.4%→21.2%)が上昇している。
- 高校生では、「どこで献血ができるかわからない」(15.1%→9.7%)は前回高かったが今回は他層並に低下し、「献血を申し込んだが、基準に適合せず断られた」(10.1%→4.8%)は前回他層並だったが、今回半減した。

■ 献血するきっかけとなり得る要因

Q16 献血するきっかけとなり得る要因(大きい順に3つ選択)

○ 1位に挙がった要因

- 最も多かったのは「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」(12.1%)であった。献血をしたことがない理由でも「針を刺すのが痛くて嫌だから」が1位であったことから、「針を刺すときの痛み」が献血への大きなネックとなっていることがうかがえる。
- 以下、「家族や友人などから勧められた」(11.4%)、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」(8.6%)、「近くに献血する場所ができた(献血ルーム)」(7.1%)の順で続く。
- 17年度調査と比較すると、全体では「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」を挙げる割合が約9ポイント減少したのが目立つ。一方、「献血は絶対しない」を挙げる割合が増加している(12.5%→18.0%)。これは属性別にみても、各層共通である。

○ 1位～3位累計

- 1位～3位累計でみると、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」が最も高く27.4%。「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」が25.7%で差のない2位。以下、「献血の重要性が明確になった」「家族や友人などから勧められた」(各20.8%)、「献血が自分の健康管理に役に立つようになった」(20.1%)、「近くに献血する場所ができた(献血ルーム)」(18.7%)の順で続く。
- 17年度調査と比較すると、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」「献血が自分の健康管理に役に立つようになった」が6ポイント減少しているが、それ以外はそれほど違いはみられない。

■ 家族・友人の献血状況

Q17 家族が献血している姿を見たことがあるか(新規質問)

- 家族が献血している姿を見たことが「ある」という人は10.6%。
- 職業別では、「ある」の割合は高校生(15.5%)、専業主婦(15.4%)でやや高く、性別では男性(7.4%)よりも女性(13.9%)の方が高い。

Q18 友人に献血している人がいるか(新規質問)

- 「友だちに献血をしている人はいますか」と質問したところ、「いる」は33.4%、「いない」が34.1%、「わからない」が32.5%と大きく3分された。
- 「いる」の割合が高いのは公務員(48.2%)、大学生・専門学校生(40.3%)。
- 高校生のほぼ半数(48.4%)が「いない」としており、他層と比べ目立って高い。
- 性別では、女性の「いる」(38.7%)が男性を10ポイント上回っている。
- 地域別では、北海道(41.4%)、東北(39.7%)が他地域よりもやや高い。

■ 献血に関する資料評価

(献血に関する資料の閲読後に、献血に関する意識の変化を質問。)

Q19-1 献血の必要性への理解が良くなったか

- 「はい」は34.0%で、「どちらかというとはい」(57.8%)まで含めると91.7%にのぼる。否定的な意見は8.3%にとどまった。
- 職業別では、肯定的な評価は特に専業主婦で高い(95.3%)。「はい」(43.7%)で他層との差が大きい。一方、自営業で好意的な評価はやや低い(86.6%)。
- 17年度調査と比較すると、全体では肯定的な意見が87.7%→91.7%へと高くなっている。

Q19-2 献血に協力する意識の有無

- 閲読後に「今は献血に協力する気持ち」が「ある」と回答した人は16.4%、「どちらかというところある」(48.8%)まで含めると65.2%。ほぼ3人に2人が協力の意向を示している。
- 17年度調査と比較すると、全体のポジティブ評価に変化はみられない(65.0%→65.2%)。

Q19-3 今後実際に献血に行くか

- 「はい」は6.1%。「どちらかというとはい」(41.3%)まで含めた前向きな意向はほぼ半数の47.4%。
- 前向きな意向が最も高いのは高校生(52.2%、うち「はい」は8.8%)。自営業は41.8%(うち「はい」は2.2%)とやや低い。
- 平成17年度調査との比較では、全体の前向きな意向は49.5%→47.4%。(自営業で13ポイントの低下)

2 献血経験者

■ 対象者特性 (回答者5,000人)

- ①【居住地】は、「関東甲信越」が36.5%を占めており、以下、「近畿」(16.3%)「東海北陸」(15.6%)、「九州・沖縄」(11.7%)、「中国・四国」(8.6%)、「東北」(7.1%)、「北海道」(4.2%)の順。全体構成は17年度調査と概ね変わらない。
- ②【性別】は、「男性」51.1%、「女性」48.9%とほぼ半々。17年度調査との比較では、男性回答者が大幅に増えている(34.1%→51.1%)。
- ③【年齢】は、16～17歳(2.5%)、18～19歳(8.7%)、20～24歳(48.7%)、25～29歳(40.0%)であった。20代が88.7%を占めるが、17年度調査に比べて10代の回答者が増加している(「16～17歳」(0.9%→2.5%)、「18～19歳」(2.9%→8.7%)。
- ④【職業】では、最も多かったのは「会社員」(43.0%)で、以下、「大学生・専門学校生」(29.1%)、「その他」(9.1%)、「専業主婦」(9.0%)、「公務員」(4.1%)、「高校生」(3.6%)、「自営業」(2.1%)の順。17年度調査と比較すると、「大学生・専門学校生」(13.0%→29.1%)が大幅増、「専業主婦」(21.3%→9.0%)の減少が目立つ。
- ⑤【医療関係への関与の有無】については、「携わっている」と回答した人は11.0%で、17年度調査(10.0%)とほぼ同様だった。

■ 献血に関する認知状況

Q1 献血が病気の治療に役立っていることの認知 (新規質問)

- ・ 献血がさまざまな病気の治療に役立っていることは、献血経験者のほぼ3人に2人(65.9%)が認知している。
- ・ 職業別にみると、公務員の認知率(75.8%)が高く、専業主婦(58.7%)がやや低い。また、男女間で認知率に差はみられない。

Q2 若年層の献血協力者の減少傾向認知 (新規質問)

- ・ 近年、献血に協力してくれる10代・20代の若年層が大幅に減少していることを「知っている」という人は全体で55.3%。
- ・ 職業別にみると、公務員の認知率(60.4%)が他層に比べてやや高いが他はあまり変わらない。
- ・ 認知率は男女間で差はなく、地域別では、東北(62.8%)と中国・四国(61.5%)の認知率がやや高い。

■ 献血の広報・キャンペーンへの認知接触状況

Q3 献血に関する広報接触媒体

- ・ 接触したことのある広報媒体をみると、「街頭での呼びかけ」(68.0%)、「献血ルーム前の看板・表示」(65.5%)がともに2/3程度を占めており双璧。以下、「献血バス」(57.6%)、「テレビ」(55.4%)で、以上が主要な媒体。
- ・ 職業別にみると、「街頭での呼びかけ」「献血ルーム前の看板・表示」「献血バス」といった現場での接触は専業主婦で高い(順に74.3%、71.0%、63.4%)。逆に、高校生(順に49.2%、51.4%、39.8%)ではこうした現場での接触率が低い。

- ・ 地域別では、「街頭での呼びかけ」は北海道(56.2%)、中国・四国(59.6%)でやや低い。一方、関東甲信越は他地域に比べて「テレビ」(46.6%)がやや低い。
- ・ 17年度調査と比較すると、新規回答肢を除くと、各媒体との接触率は総じて低下している。特に「ポスターの掲示」が20ポイント近く下がったのが目立つ。

Q4 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体

- ・ 「テレビ」が圧倒的に高い(83.6%)。次いで「インターネット」(48.3%)が続き、以下、「ポスター」(26.7%)、「雑誌」(26.3%)、「新聞」(25.8%)、「携帯電話」(25.6%)、「自治体の広報誌」(13.4%)、「FM放送」(11.9%)、「その他のラジオ放送」(7.6%)と続く。
- ・ 職業別にみると、各層とも「テレビ」「インターネット」中心は変わらない。その中で高校生では他層より「インターネット」(37.0%)がやや低い。また、「ポスター」は自営業(32.1%)と専業主婦(31.9%)でやや高く、他に、自営業で「FM放送」(17.9%)、専業主婦で「雑誌」(31.5%)、公務員で「自治体の広報誌」がやや高い。
- ・ 性別では、「雑誌」を挙げる人は男性(20.1%)よりも女性(32.8%)に多い。
- ・ 地域別では、他地域に比べて東北で「自治体の広報誌」(20.6%)がやや高い。
- ・ 17年度調査と比較すると、「テレビ」(△3.9%)「新聞」(△4.6%)がやや減少。一方で「インターネット」と「携帯電話」を挙げる割合が高くなっている(インターネット43.9%→48.3%、携帯電話14.9%→25.6%)。

Q5 献血キャラクター「けんけつちゃん」認知

- ・ 経験者全体での認知率は23.8%。ほぼ4人に1人が認知。
- ・ 職業別でみると、高校生の認知率(34.8%)が特に高く、大学生・専門学校生(31.8%)、公務員(29.5%)がこれに続く。一方、専業主婦の認知率が12.7%と他層よりも低い。
- ・ 性別では女性の認知率(28.8%)が男性(18.9%)よりも高く、地域別では東北(31.0%)が最も高い。
- ・ 17年度調査と比較すると、認知率は7.0%→23.8%へと大幅に上昇した。
- ・ 属性別でも、各層共通して認知率が上昇。特に大学生・専門学校生(8.1%→31.8%)と女性(7.2%→28.8%)で上昇が顕著。

Q6 献血キャンペーン認知

- ・ 献血キャンペーンを「知っている」と回答した人は36.5%。
- ・ 職業別では他層に比べて公務員の認知率(44.9%)がやや高い。性別では男性(30.9%)より女性(42.3%)が高く、地域別では東北(43.7%)でやや高く、北海道(27.1%)で最も低い。
- ・ 17年度調査と比較すると、認知率は46.4%→36.5%へと相当低下している。
- ・ 属性別にみても、各層ともおしなべて認知率が相当低下している。

Q7 「HOP STEP JUMP」を配布された記憶

- ・ 高校3年生を対象に、「HOP STEP JUMP」という普及啓発資料が配布されていることを認知している人は14.7%。授業で使用した記憶がある人は5.7%にとどまっている。
- ・ 職業別にみると、高校生の認知率は31.5%で、大学生・専門学校生は20.9%と、より若い世代の認知率が他層より高い。
- ・ 17年度調査と比較すると、認知率は10.6%→14.7%へと若干上昇している。

■ 感染症・血液製剤について

Q8 献血では感染症に感染しないことの認知

- ・献血でエイズ、肝炎といった感染症に感染しないことは、献血経験者のほぼ8割(78.4%)が認知している。
- ・17年度調査と比較すると、認知率はほぼ横ばい(79.9%→78.4%)。
- ・職業別では、公務員(88.2%→81.6%)、自営業(83.9%→74.5%)の認知率がやや低下している。地域別では、北海道でやや低下(84.5%→79.0%)。

Q9 血液製剤の海外血液依存の認知

- ・血液製剤は未だ海外の血液に依存しているということを認知している人は25.3%と、献血経験者の4人に1人の割合。
- ・職業別にみると、高校生の認知率(32.0%)が最も高く、唯一30%超。性別・地域別による差はあまりみられない。
- ・17年度調査と比較すると、認知率は30.8%→25.3%へ、約6ポイント低下。

■ 献血ルームのイメージ

(献血ルームに対するイメージについて、4つの項目で質問)

Q10-1 ルームの雰囲気について

- ・「明るい」が34.7%を占め、「暗い」の7.7%を大きく上回っている。ただし、全体的には「ふつう」の評価が51.7%を占める。
- ・職業別でみると、「明るい」と評価するのは公務員(42.0%)で最も高く、高校生(29.3%)は他層よりも低い。
- ・性別では、「明るい」と評価する割合は男性(29.9%)よりも女性(39.7%)が高い。
- ・17年度調査と比較すると、前回「わからない」の回答肢がなかったため、一概に比較できないが、「明るい」と評価する割合は42.1%→34.7%と低下している。低下が顕著なのは大学生・専門学校生(51.1%→37.8%)及び高校生(39.1%→29.3%)。

Q10-2 ルームの広さについて

- ・「広い」の20.4%に対して、「狭い」が24.5%と、狭いイメージの方が若干上回っている。ただし、全体的には「ふつう」と評価する人が48.1%を占めている。
- ・職業別でみると、「広い」と評価するのは公務員(26.6%)で最も高い。一方、自営業で「狭い」とする割合(32.1%)が他層より高く、「広い」(21.7%)を10ポイント上回っている。
- ・性別では、男性で「狭い」のスコア(27.7%)が「広い」(17.6%)を10ポイント上回り、女性に比べて「狭い」が高い(女性は「広い」23.3%、「狭い」21.1%)。
- ・17年度調査と比較すると、前回「わからない」の回答肢がなかったため、一概には比較できないが、全体では「広い」「狭い」とも概ね変動はない。

Q10-3 職員の対応について

- ・「良い」がほぼ半数の47.2%を占めている。また、「ふつう」も44.0%で、職員に対する評価は概ね良好。「悪い」とする人は少ない(3.3%)。
- ・職業別では、特に高校生で「良い」と評価する割合が最も高い(53.0%)。
- ・17年度調査と比較すると、前回「わからない」の回答肢がなかったため、一概には比較できないが、全体では「良い」が37.8%→47.2%に上昇。「ふつう」が57.5%→44.0%に低下している。

Q10-4 記念品や軽い飲食物について

- ・「良い」40.9%に対し、「悪い」は9.9%となっており、好意的な評価が大きく上回る。「ふつう」は44.4%。
- ・性別では、女性の「良い」(44.3%)が男性の「良い」(37.6%)を上回る。
- ・地域別では北海道で「良い」とする割合(49.0%)目立って高い。
- ・17年度調査と比較すると、前回「わからない」の回答肢がなかったため、一概には比較できないが、全体では「良い」が36.7%→40.9%と若干上昇。一方で「ふつう」が51.5%→44.3%に減少。「悪い」は11.8%→9.9%と若干減少した。
- ・地域別では、北海道・中国・四国で「良い」が10ポイント近く上昇。

■ 初めての献血について

Q12 初めて献血した年齢

- ・「18~19歳」(33.4%)と「20~24歳」(32.3%)が拮抗。次いで「16~17歳」(28.6%)。10代での初回献血経験者が全体の6割強を占めている。
- ・職業別では、当然のことながら高校生では「16~17歳」が87.3%を占め主流。大学生・専門学校生では「18~19歳」が40.4%で最も多い。一方、会社員、公務員では「16~17歳」が他層よりも低く(会社員23.0%、公務員22.2%)、「20~24歳」が最も多くなる(会社員37.2%、公務員38.6%)。
- ・女性の初献血年齢が男性に比べて総じて若い。特に「16~17歳」では女性32.2%、男性25.2%と7ポイント上回っている。
- ・地域別では、東北の「16~17歳」の割合(38.0%)が他地域よりやや高い。
- ・17年度調査と比較すると、「16~17歳」が34.6%→28.6%と6ポイント減少している。一方で「18~19歳」(30.6%→33.4%)及び「20~24歳」(27.9%→32.3%)は若干の増加傾向。

Q13 初めて献血した場所

- ・初めて献血した場所は、「献血ルーム」(32.8%)が最も多い。以下、「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」(21.2%)、「学校・職場以外の献血バス」(21.0%)が同程度、「高校」(18.0%)の順で続く。
- ・職業別で見ると、高校生は「高校(での集団献血)」が38.1%と最も多い。それ以外は「献血ルーム」中心となっている。また、自営業、専業主婦は他層に比べ「学校・職場以外の献血バス」も比較的多い(自営業26.4%、専業主婦26.1%)。一方、大学生・専門学校生は「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」(30.0%)と「献血ルーム」(32.4%)がほぼ同程度。
- ・性別では、女性の「献血ルーム」利用率(40.9%)が男性(25.1%)を大きく上回っている。
- ・地域別では、近畿で「学校・職場以外の献血バス」(29.0%)が他地域に比べてやや高くなっている。
- ・17年度調査との比較では、「献血バス」の割合が大きく減少しているが、前回、「大学キャンパス又は専門学校・各種学校」(多くは献血バスによると思われる)の回答肢がなかったため、一概には比較できない。
- ・高校生では、17年度調査と比べ、「高校(での集団献血)」を挙げる割合が16.1%→38.1%と大幅に増加し、「献血ルーム」を挙げる割合が48.3%→31.5%に減少している。ただ、17年度調査では、この年代の客体数が非常に少なかった(高校生は1.7%)ため、一概に比較できない。また、今回においても高校生は3.6%と構成要素として少ないことから、献血経験者全体では「高校(での集団献血)」は22.6%→18.0%に減少している(「高校」から「献血ルーム」へのシフトは、特に専業主婦と女性で顕著)。

Q14 初めての献血の種類

- 「200 mL 献血」が51.6%と過半数を占めている。「400 mL 献血」は28.9%、「成分献血」は5.7%、「覚えていない」が13.8%。
- 職業別でみると、高校生の69.6%が「200 mL 献血」、専業主婦も67.0%が「200 mL 献血」で中心となっている。一方、「400 mL 献血」は公務員で43.5%と最も高い。
- 性別では、男性は「200 mL 献血」(39.5%)と「400 mL 献血」(39.6%)が同程度。女性では「200 mL 献血」の割合(64.2%)が「400 mL 献血」(17.8%)を圧倒している。
- 17年度調査と比較すると、「200 mL 献血」が62.3%→51.6%と11ポイントの減少、「400 mL 献血」が18.9%→28.9%と10ポイントの増加。
- 高校生を除く各層で「200 mL 献血」が減少し、「400 mL 献血」が増加した。高校生はほぼ前回並みの結果。

Q15 初めての献血で400 mL 献血することへの不安意識 (新規質問)

- 6割弱(57.2%)の人は「特に不安は感じない」としている。一方で、「不安」と回答した人は26.4%だった。
- 職業別でみると、「特に不安は感じない」は公務員が多い(67.6%)。一方、専業主婦では、「特に不安は感じない」(43.3%)と「不安」(39.1%)が拮抗している。なお、高校生でも56.4%は「特に不安は感じない」としているが、他層に比べ「わからない」が多い(全体16.4%、高校生23.8%)。
- 性別では、女性の方が「不安」意識が高い(男性19.9%、女性33.2%)。

■ 献血回数について

Q16-1 過去1年間の200 mL 献血回数

- 献血経験者のうち、過去1年間で200 mL 献血をした経験のある人は46.1%。
- 献血した回数では、「1回」が27.4%で最も多く、「2回」が10.8%、「3回」が3.7%、「4回以上」が4.3%で続く。
- 2回以上の複数回献血者は全体の2割弱(18.8%)となっている。
- 職業別でみると、過去1年間の200 mL 献血経験者の割合が最も高いのは高校生で82.3%と圧倒的。その大半(75%)は「1回」である。大学生・専門学校生がこれに続き(50.2%)、そのうち63%は「1回」である。一方、公務員の200 mL 献血経験者は33.8%で他層に比べ低い。
- 性別では、女性の200 mL 献血経験者(52.2%)が男性(40.3%)を上回る。
- 地域別では、九州・沖縄の200 mL 献血経験者(35.7%)が他地域より低い。
- 17年度調査と比較すると、全体では200 mL 献血経験率が40.5%→46.1%とやや増加している。ただ、高校生については前回に比べて約9ポイントの減となっている(90.8%→82.3%)。

Q16-2 過去1年間の400 mL 献血回数

- 献血経験者のうち、過去1年間で400 mL 献血をした経験のある人は37.7%。
- 献血した回数では、「1回」が22.1%で最も多く、「2回」が8.3%、「3回以上」が7.4%で続く。
- 2回以上の複数回献血者は全体の15.7%であり、200 mL 献血(18.8%)に比べ若干低い。
- 職業別でみると、200 mL 献血が圧倒的に多い高校生では400 mL 献血経験者の割合は14.9%と低く、専業主婦も17.4%と他層に比べ低い。一方、大学生・専門学校生(44.1%)と公務員(45.9%)は高く、特に公務員では2回以上の複数回献血者が25.2%(2回:9.7%、3回以上:15.5%)と高い。

- 性別では、男性の400 mL 献血経験者(47.9%)が女性(27.0%)を上回る。
- 地域別では、九州・沖縄の400 mL 献血経験者(43.7%)が他地域より高い。
- 17年度調査と比較すると、全体では400 mL 献血経験率が26.4%→37.7%へと11ポイント増加。「3回以上」も3.4%→7.4%に増加している。
- 職業別では、特に会社員と公務員で「3回以上」が増えているのが目立つ(会社員:3.7%→9.0%、公務員:5.9%→15.5%)。

Q16-3 過去1年間の成分献血回数

- 献血経験者のうち、過去1年間で成分献血をした経験のある人は22.1%。
- 献血した回数では、「1回」が11.0%で最も多い。
- 2回以上の複数回献血者は全体の11.1%であり、「1回」と同程度。
- 職業別でみると、探血基準(18歳～)によりそもそも対象者が少ない高校生の成分献血経験率が6.1%と極端に少なく、専業主婦も16.3%と他層に比べ低い。一方、公務員の成分献血経験率は29.0%と他層に比べて高く、4回以上の複数回献血者も10.6%と高い。
- 性別による差はほとんどみられない。
- 地域別では、他地域に比べ北海道の成分献血経験率が13.8%と特に低い。
- 17年度調査と比較すると、全体では成分献血経験率が18.8%→22.1%へと若干の増加。回数では「1回」が前回に比べ増加(7.7%→11.1%)している。
- 職業別では、特に会社員と公務員で「3回以上」が増えているのが目立つ(会社員:3.7%→9.0%、公務員:5.9%→15.5%)。

Q17 今までの合計献血回数

- 今までの通算献血回数をみると、「1回」が最も多く、33.7%と3人に1人の割合。残りの66.3%の人が複数回献血者であり、この中では「3～5回」(26.2%)が最も多く、次いで「2回」(18.7%)、「6～10回」(10.8%)、「11～20回」(6.2%)、「21～30回」(2.0%)、「それ以上」(2.4%)と続く。
- 全体では「2回以下」と「3回以上」がほぼ半数ずつとなっている。
- 職業別にみると、高校生は(当然のことながら)献血回数が他層に比べて低く、「1回」が63.0%を占める。一方、会社員、公務員及び自営業で「3回以上」の割合がやや高い(会社員:54.0%、公務員:59.4%、自営業:55.7%、全体47.6%)
- 17年度調査と比較すると、全体では複数回献血者が71.8%→66.3%へと減少している(各層共通)。

★関連質問とのクロス集計 ①「初めて献血した場所」(Q13)

初めて献血した場所	今までの合計献血回数						
	1回	2回	3-5回	6-10回	11-20回	21-30回	それ以上
高校	30.6%	21.5%	27.6%	10.4%	6.8%	1.6%	1.6%
大学キャンパス又は専門学校・各種学校	36.1%	20.9%	28.6%	7.9%	3.9%	1.4%	1.2%
職場	36.7%	22.5%	27.9%	9.2%	1.4%	0.4%	1.3%

- 「初めて献血した場所」ごとに通算献血回数をみると、大学や職場に比べて「高校で初めて献血した」層ほど、通算献血回数が多い傾向がみられる(6回以上で大きな差が現れる)。
- より若いうちに献血を経験すると、その後の献血回数が増える傾向が強いとも考えられる。

★関連質問とのクロス集計 ②「家族の献血の有無」(Q20:後述)

家族が献血している姿を見たことがあるか	今までの合計献血回数						
	1回	2回	3-5回	6-10回	11-20回	21-30回	それ以上
ある	24.2%	16.0%	28.4%	13.7%	10.3%	3.5%	4.0%
ない	35.9%	19.1%	25.8%	10.3%	5.3%	1.7%	1.9%
覚えていない	40.2%	22.8%	23.6%	7.1%	2.6%	1.3%	2.4%

- 「家族が献血している姿を見たことがあるかどうか」と通算献血回数との関係を見ると、「見たことがある」と回答した層ほど、通算献血回数が多いことが明らか(3回以上で差が現れ、献血回数が多いほど差が広がる傾向)。
- 「家族の献血現場を見たことがあるかどうか」とその後の献血行動との相関は高いことがうかがえる。

■ 献血するきっかけ

Q18 初めての献血のきっかけ(大きい順に3つ選択)

○ 1位に挙がったきっかけ

- 最も多かったのは「自分の血液が役に立って欲しいから」が37.5%で突出傾向。以下、「なんとなく」(10.7%)、「輸血用の血液が不足していると聞いたから」(9.1%)、「家族や友人などに勧められたから」(7.2%)、「大学キャンパスに献血バス出張献血が来たから」(6.6%)などが続く。
- 職業別にみると、各層とも「自分の血液が役に立って欲しいから」が主要なきっかけとなっているが、特に、高校生(44.8%)、自営業(42.5%)、専業主婦(42.9%)でその意識が高い。
- 平成17年度調査と比較すると、回答肢が多少入れ替わったため一概には比較できないが、「自分の血液が役に立って欲しいから」が最も大きなきっかけであることに変わりはなく、そのスコアは33.7%→37.5%と増加している。また、「なんとなく」は14.4%→10.7%に減少しており、特に高校生(23.0%→11.6%)、自営業(13.3%→7.5%)、専業主婦(12.7%→7.5%)で顕著に減少。

○ 1位～3位累計

- 1位～3位の累計でも、「自分の血液が役に立って欲しいから」が圧倒的に高く、61.0%となっている。以下、「輸血用の血液が不足していると聞いたから」(39.1%)、「お菓子やジュースがもらえるから」(31.2%)、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」(29.5%)、「なんとなく」(29.1%)の順。
- 職業別にみると、各層とも「自分の血液が役に立って欲しいから」が主要なきっかけとなっているが、特に、高校生(62.4%)、自営業(65.1%)、専業主婦(69.4%)で顕著。
- 新規回答肢の「献血は愛に根ざしたものだから」(15回答肢中11位:全体7.7%)は高校生(14.4%)、自営業(15.1%)で目立って高かった。
- 17年度調査と比較すると、回答肢が多少入れ替わったため一概には比較できないが、「自分の血液が役に立って欲しいから」が最も大きなきっかけであることに変わりはなく、そのスコアは58.3%→61.0%と増加している。
- 職業別では、「自分の血液が役に立って欲しいから」は、高校生(49.4%→62.4%)、自営業(55.2%→65.1%)、専業主婦(61.3%→69.4%)が目立って増加。
- 他に、「将来自分や家族等が輸血を受けることがあるかもしれないから協力した」(10.8%→16.4%)、「覚えていない」(4.4%→12.1%)が増加し、「なんとなく」(34.5%→29.1%)が減少した(高校生の減少が顕著:43.7%→27.6%)。

Q19 現在献血するきっかけ(大きい順に3つ選択)

○ 1位に挙がったきっかけ

- 初めての献血のきっかけと同様、「自分の血液が役に立って欲しいから」が45.3%と圧倒的に高い。以下、「輸血用の血液が不足していると聞いたから」(11.7%)、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」(10.7%)と続く。
- 17年度調査と比較すると、全体ではあまり変化はなく、「自分の血液が役に立って欲しいから」(前回43.9%→今回45.3%)が他を大きくリードしているという傾向も変わらない。
- 職業別では、「自分の血液が役に立って欲しいから」は、初めての献血のきっかけと同様に、高校生(37.9%→48.6%)、自営業(46.9%→53.8%)、専業主婦(46.6%→54.7%)の増加が目立つ。
なお、高校生で「なんとなく」の減少が目立つ(23.0%→13.8%)。
- 地域別では、北海道で「自分の血液が役に立って欲しいから」の減少が特に顕著(50.0%→37.1%)。

○ 1位～3位累計

- 1位～3位の累計で見ると、「自分の血液が役に立って欲しいから」が70.4%と圧倒的に高く、最大要因となっている。以下、「輸血用の血液が不足していると聞いたから」(53.2%)、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」(40.3%)、「お菓子やジュースがもらえるから」(36.8%)、「なんとなく」(32.5%)の順で続く。
- 職業別にみると、各層とも「自分の血液が役に立って欲しいから」が主要なきっかけとなっているが、特に、自営業(75.5%)、専業主婦(76.1%)で高い。
また、高校生では「お菓子やジュースがもらえるから」(44.8%)が他層に比べてやや高い。
- 新規回答肢の「献血は愛に根ざしたものだから」(11回答肢中8位:全体9.6%)は高校生(16.6%)、自営業(17.0%)で目立って高かった。
- 17年度調査と比較すると、全体では「輸血用の血液が不足していると聞いたから」(47.6%→53.2%)「将来自分や家族等が輸血を受けることがあるかもしれないから協力した」(15.9%→27.3%)がやや増加した(各層共通)。
- 職業別では、「自分の血液が役に立って欲しいから」は、高校生(54.0%→71.8%)、自営業(65.7%→75.5%)で目立って増加。一方、会社員、公務員では「なんとなく」がやや増加している(会社員28.5%→34.2%、公務員22.2%→29.0%)。

Q22 高校での集団献血がその後の献血への動機付けとなるか

- 高校での集団献血がその後の献血の動機付けに有効かどうかについて、「非常に有効」と評価した人が36.4%を占める。また、「どちらかといえば有効」(48.2%)と合わせたポジティブ評価は84.6%にのぼる。
- 職業別にみると、ポジティブ評価(有効計)は専業主婦が92.6%と最も高い。一方、自営業は78.3%と他層に比べやや低いが、「非常に有効」に限ると専業主婦とともに最も高い(ともに41.5%)。
- 17年度調査と比較すると、全体ではポジティブ評価(有効計)が65.9%→84.6%と大幅に上昇した(「非常に有効」:20.4%→36.4%)。また、各層ともにポジティブ評価が上昇している。
- 高校での献血は、その後の献血への動機付けになるとの意識は高くなっていることがうかがえる。

★関連質問とのクロス集計「初めて献血した場所」(Q13)

(初めて献血した場所)	非常に有効	どちらかといえは有効	あまり関係ない	全く関係ない	有効(計)	関係ない(計)
高校	44.9%	43.7%	8.9%	2.5%	88.6%	11.4%
大学キャンパス又は専門学校等	35.8%	49.8%	11.2%	3.2%	85.6%	14.4%
職場	41.7%	42.5%	12.9%	2.9%	84.2%	15.8%
献血バス(上記以外)	32.4%	52.4%	11.5%	3.7%	84.8%	15.2%
献血ルーム(血液センター)	35.0%	47.5%	13.7%	3.8%	82.6%	17.4%
覚えていない	20.6%	50.5%	12.1%	16.8%	71.0%	29.0%
計	36.4%	48.2%	11.7%	3.7%	84.6%	15.4%

- 「高校での集団献血がその後の献血への動機付けとなるか」について、「初めて献血した場所」ごとに関連づけて集計をしたところ、高校や大学などで初めて献血したという層ほど、「より有効」とする傾向がみられた。
- 特に、高校で初めて献血した層で「非常に有効」が高い割合。

■ 家族・友人の献血状況

Q20 家族が献血している姿を見たことがあるか (新規質問)

- 家族が献血している姿を見たことが「ある」という人は21.8%。
→ 献血未経験者(10.6%)と比べると約2倍(各層ほぼ共通)。
- 職業別にみると、専業主婦で「ある」が32.4%と他層に比べ高い。
- 性別では、「ある」は男性(16.8%)に比べ女性(27.0%)が10ポイント上回る。

Q21 友人に献血をしている人がいるか (新規質問)

- 献血経験者の6割(59.7%)が、友達に献血をしている人が「いる。」と回答。
→ 献血未経験者(33.4%)と比べると、ほぼ2倍。特に高校生で大きな差が生じている(高校生・献血未経験者:12.1%、同・献血経験者:56.9%)。
- 職業別にみると、「いる」の割合が特に高いのは大学生・専門学校生(66.3%)と公務員(69.6%)。一方、自営業(47.2%)、専業主婦(54.5%)ではやや低い。
- 性別では、「いる」の割合は男性(56.0%)に比べて女性(63.5%)が約8ポイント上回っている。
- 地域別では、東北で「いる」が69.9%と他地域よりも多い。

■ 献血に関する資料評価

(献血に関する資料の閲覧後に、献血に関する意識の変化を質問。)

Q23-1 献血の必要性への理解が良くなったか

- 「はい」は32.7%で、「どちらかというとはい」(59.4%)まで含めると92.1%にのぼる。否定的な意見は7.9%にとどまった。
- 職業別では、肯定的な評価は特に専業主婦で高い(95.3%)。「はい」(38.2%)で他層との差がやや大きい。
- 17年度調査と比較すると、全体では肯定的な意見が87.9%→92.1%へと高くなっている。

Q23-2 献血に協力する意識の高まり

- 閲覧後に「献血に協力する気持ちは高まりましたか」との問いに「はい」と回答した人は31.3%。「どちらかというとはい」(56.6%)を含めたポジティブ評価ではほぼ

9割(87.9%)の人に協力意識の高まりがみられた。

- 職業別にみると、専業主婦でポジティブ評価が特に高い(93.8%)。なお、「はい」に限ると高校生(36.5%)も専業主婦(37.1%)と遜色なく他層より高い。
- 17年度調査と比較すると、全体のポジティブ評価は85.3%→87.9%と微増。「はい」については、各層共通で相対的に増加(全体:19.3%→31.3%)。

Q23-3 献血回数を増やすか

- 「はい」は28.5%。「どちらかというとはい」(54.4%)を含めたポジティブな意向は83.0%。資料閲覧後にかなりの人が回数増加を喚起されている。
- 職業別でポジティブ評価が最も高いのは専業主婦(90.2%)。なお、「はい」に限ると、高校生(35.4%)は専業主婦をも凌いでおり、両層が他層よりも高い。
- 平成17年度調査との比較では、全体のポジティブ評価は82.5%→83.0%とほぼ変わらず。

■ 献血についての要望・知りたいこと

Q11 献血について何か要望又は知りたいことがあるか

- 最も多かったのは、「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」で40.5%。以下、「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」(38.5%)、「献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい」(37.5%)、「献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい」(35.4%)などが僅差で続いており、突出したものは無いものの要望は多岐にわたっている。
- 職業別では、専業主婦の「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」(専業主婦:42.0%、全体:29.2%)が他層に比べて目立って高い。
- 性別では、総じて男性より女性の要望が目立つ。特に「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」(男性33.8%、女性43.4%)、「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」(男性25.4%、女性33.1%)でその差が大きい。
- 17年度調査と比較すると、全体的に大きな動きはみられないが、「献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい」がやや減少(42.0%→35.4%)。「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」は高校生で増加(28.7%→35.4%)、「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」は自営業(21.7%→30.2%)、専業主婦(31.0%→38.2%)で増加、「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」は会社員(22.3%→28.1%)及び専業主婦(30.6%→42.0)で増加した。

調査結果のうち特に目立った回答など

献血未経験者	献血経験者
● 献血についての認知程度 未経験者のQ1(P10)	
☆17年度調査に比べて全体での認知率は73.8% →92.9%へ大幅に上昇	
● 献血の種類の認知(新規) 未経験者のQ2(P12)	
☆6割以上の人は未だ認知していない	
● 献血への関心度 未経験者のQ4(P18)	
☆関心なし層が54.2%と、無関心派がやや上回る ☆17年度調査と比べると、関心あり層が52.2% →45.8%に低下	
● 献血に関する広報接触媒体 未経験者のQ7(P24) 経験者のQ3(P66)	
☆最も多いのは「街頭での呼びかけ」(60.6%) ☆高校生は総じて接触率が低い ☆高校生・自営業では「接触したことがない」が1割弱まで増加	☆「街頭での呼びかけ」「献血ルーム前の看板・表示」がともに2/3を占める ☆街頭・献血現場での接触は専業主婦で高く、高校生で低い
● 献血キャンペーンに効果的だと思う媒体 未経験者のQ8(P26) 経験者のQ4(P68)	
☆テレビが圧倒的に高い(84.7%)	☆テレビが圧倒的に高い(83.6%)
● 献血したことがない理由 未経験者のQ15(P38)	
☆「針を刺すのが痛くていやだから」が最も多い。	
● 献血するきっかけとなり得る要因 未経験者のQ16(P42)	
☆「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された」が最も多い	
● 初めての献血の種類 経験者のQ14(P92)	
☆200mL献血が51.6%と過半数を占めている ☆高校生の69.6%が200mL献血 ☆17年度調査と比較すると、200mL献血は11ポイント減少(62.3%→51.6%)し、400mL献血は10ポイント増加(18.9%→28.9%)	
● 初めての献血で400mL献血することへの不安意識(新規) 経験者のQ15(P94)	
☆6割弱の人は「特に不安は感じない」としている。一方、「不安」と回答した人は26.4% ☆高校生でも56.4%は「特に不安は感じない」としているが、他層に比べると「わからない」が多い(全体16.4%、高校生23.8%) ☆女性の方が不安意識が高い(男性19.9%、女性33.2%)	
● 今までの合計献血回数 経験者のQ17(P102)	
☆66.3%の人が複数回献血者 ☆全体では「2回以下」と「3回以上」がほぼ半数ずつ	

献血未経験者	献血経験者
● クロス集計(「初めて献血した場所」と「今までの合計献血回数」) P101	
☆大学や職場に比べて「高校で初めて献血した」層ほど通算献血回数が多い傾向がみられる ☆より若いうちに献血を経験すると、その後の献血回数が増える傾向が強いとも考えられる	
● クロス集計(「家族が献血している姿を見たことがあるか」と「今までの合計献血回数」) P101	
☆「見たことがある」と回答した層ほど通算献血回数が多いことが明らか ☆「家族の献血現場を見たことがあるかどうか」とその後の献血行動との相関は高いことがうかがえる	
● 初めての献血のきっかけ 経験者のQ18(P104)	
☆「自分の血液が役に立ってほしいから」が圧倒的に多い(特に高校生、自営業、専業主婦で顕著) ☆新規回答肢の「献血は愛に根ざしたものだから」(15回答肢中11位:累計)は高校生、自営業で目立って高かった。	
● 現在献血するきっかけ 経験者のQ19(P108)	
☆初めての献血のきっかけと同様「自分の血液が役に立ってほしいから」が圧倒的に多い ☆新規回答肢の「献血は愛に根ざしたものだから」(11回答肢中8位:累計)は高校生、自営業で目立って高かった。	
● 高校での集団献血がその後の献血への動機付けとなるか 経験者のQ22(P112)	
☆「非常に有効」が36.4%、「どちらかといえば有効」(48.2%)と合わせたポジティブ評価は84.6%にのぼる ☆17年度調査との比較ではポジティブ評価が65.9%→84.6%と大幅に上昇(「非常に有効」は20.4%→36.4%) ☆高校での献血は、その後の献血への動機付けになるとの意識は高くなっていることがうかがえる	
● クロス集計(「高校での集団献血がその後の献血への動機付けとなるか」と「初めて献血した場所」) P111	
☆高校や大学などで初めて献血したという層ほど「より有効」とする傾向がみられた ☆特に高校で初めて献血した層で「非常に有効」が高い割合	
● 家族が献血している姿を見たことがあるか(新規) 未経験者のQ17(P46) 経験者のQ20(P114)	
☆「見たことがある」は10.6%	☆「見たことがある」は21.8% → 献血未経験者の約2倍

献血未経験者	献血経験者
① 友人に献血をしている人がいるか（新規）	未経験者のQ18(P48) 経験者のQ21(P116)
☆「いる」「いない」「わからない」がほぼ同程度で3分された	☆6割が「いる」と回答 → 献血未経験者の約2倍(高校生では未経験者12.1%、経験者56.9%と差が大きい)
② (資料閱讀後)今後実際に献血に行くか	未経験者のQ19-3(P54)
☆「はい」(6.1%)、「どちらかというとはい」(41.3%)と前向きな意向がほぼ半数 ☆前向きな意向が最も高いのは高校生(52.2%、うち「はい」は8.8%)	
③ (資料閱讀後)献血回数を増やすか	経験者のQ23-3(P122)
	☆「はい」(28.5%)、「どちらかというとはい」(54.4%)と前向きな意向が83.0% ☆資料閱讀後にかなりの人が回数の増加を喚起されている。 ☆「はい」に限ると高校生が35.4%と最も高い
④ 献血についての要望・知りたいこと	経験者のQ11(P124)
	☆専業主婦の「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」が他層に比べ目立って高い(専業主婦42.0%、全体29.2%)

1 調査の目的

献血者数については、これまで減少傾向が引き続いてきたところであるが、平成20年以降、増加に転じ、これまでの献血者確保対策に一定の効果がみられているところである。

しかしながら、10～20歳代の若年層の献血者数に目を転じてみると、同年代の人口減少の割合を上回る割合で減少し続け、依然として若年層の献血離れは深刻なものであり、将来の輸血医療に支障が生じることが懸念されていることから、若年層に対しての普及、啓発をこれまで以上に重点的・効率的に行う必要性が生じている。

そのため、若年層の献血に対する意識調査を実施し、平成17年度と平成20年度に行った同様の調査結果との比較を行うことにより、若年層の献血に対する意識等に变化があるかどうかを検証し、検証結果を今後の若年層に対する献血推進のあり方の検討に資することを目的とする。

2 業務の範囲及び内容

(1) 調査の範囲

- ・ 全国の若年層（16～29歳男女）の献血への関心度や献血へのイメージを把握する。
- ・ 若年層の献血に関する認知度を把握する。
- ・ 若年層が献血を行った時期やきっかけを把握する。

(2) 調査方法

- ・ 調査票「献血未経験者用」及び「献血経験者用」（別添1）参考：平成20年度若年層意識調査票）を使用し、インターネット上で調査を行うこと。（平成23年度若年層意識調査票は9月中旬に落札業者へ提供）
- ・ 設問数は「献血未経験者」及び「献血経験者」で各30問程度。
- ・ 基本調査項目の6問（回答者の居住地・年齢・性別等）は除く。

(3) 集計・分析方法

- ・ 得られたデータは、集計表やグラフ等を使用して調査結果を分析し、報告書と概要レポートを作成すること。（平成20年度調査報告書（別添2）及び概要（別添3）と同等のものを作成すること）。
- ・ 平成17年度及び20年度に行った若年層献血意識調査と同じ設問については、結果の比較を行うこと。
- ・ 平成20年度の調査結果報告書において、関連づけて集計している設問については、平成23年度も同様の扱いとする。

3 調査対象

- ・ 全国の若年層（16～29歳）
- ・ 年齢及び男女に偏りがないように留意すること。
- ・ 東日本大震災の被災地における調査については、当省医薬食品局血液対策課の指示に従うこと。

(内訳)

- 若年層（16～29歳）献血未経験者、献血経験者それぞれ5,000名。
- 全国を以下の7ブロックに分け、各ブロックの若年層人口（16～29歳）の全国に占める割合（請負業者が最新の割合を調査）に応じブロックごとに名数数を決定。（各ブロックにおける献血未経験者、献血経験者の名数数は同数とする。）
- ブロック①：北海道
- ブロック②：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- ブロック③：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨
- ブロック④：富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
- ブロック⑤：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- ブロック⑥：鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
- ブロック⑦：福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

4 調査期間

平成23年9月下旬

5 成果物

- ・ 報告書、概要レポート 各30部
 - ・ 調査結果データ、報告書の電子媒体（納入形態はCD又はDVD）
- 納入場所：厚生労働省医薬食品局血液対策課
納入期限：平成23年10月17日（月）

6 特記事項

- (1) 本業務に係る詳細については、この仕様書に定めるもの他、当省担当者の指示に従うこと。
- (2) 本業務遂行によって知り得た情報等については、厚生労働省の許可なく開示等してはならない。
- (3) 請負業者に対しては、平成17年度及び20年度調査報告書（電子媒体）を別途提供する。

7 問い合わせ先

本業務に関して、不明な点が生じた場合には、下記担当まで照会すること。

厚生労働省医薬食品局血液対策課 担当： 伯野、馬場
電話 03-5253-1111（内線2904、2905）

＜基本調査項目＞

- 基1 現在お住まいの地域は、以下のうちどちらになりますか。
1. 北海道
 2. 東北
 3. 関東甲信越
 4. 東海北陸
 5. 近畿
 6. 中国・四国
 7. 九州・沖縄

基2 現在おいくつですか。

1. 15歳以下 →対象外
2. 16～17歳
3. 18～19歳
4. 20～24歳
5. 25～29歳
6. 30歳以上 →対象外

基3 あなたはの性別を教えてください。

1. 男性
2. 女性

基4 現在のご職業を教えてください。

1. 高校生
2. 大学生・専門学校生
3. 会社員
4. 公務員
5. 自営業
6. 専業主婦
7. その他（ ）

基5 あなたは卒業及び職業で、医療関係に携わっていますか。

1. はい
2. いいえ

基6 あなたは、今までに「献血」をされたことがありますか。

1. ある → 献血経験者用調査票へ
2. ない → 献血未経験者用調査票へ



若年層献血意識調査

献血未経験者用

- 問1 献血について知っていますか。
1. よく知っている 2. ある程度知っている 3. まったく知らない
- 問2 献血の種類(※)を知っていますか。
1. 知っている 2. 知らない
※ 献血の種類には、すべての血液の成分を採血する全血献血(200mLまたは400mL)と、必要な血液の成分だけを採血する成分献血(血漿成分献血または血小板成分献血)があります。
- 問3 献血がどこでできるか知っていますか。(※)
1. 知っている 2. ある程度知っている 3. 知らない
※ 献血は、①献血ルーム ②献血バス ③血液センター ④会社や団体での出張献血
ですることができます。
- 問4 献血について関心がありますか。
1. 非常に関心がある 2. 関心がある 3. 特に関心がない 4. 全く関心がない
- 問5 献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。
1. 知っている 2. 知らない
- 問6 献血された輸血用血液製剤の有効期間は短く、絶えず献血が必要なこと知っていますか。
1. 知っている 2. 知らない
※ 血液製剤の有効期間は一番短い血小板製剤で採血後4日間、赤血球製剤は21日間です。
- 問7 献血された輸血用血液製剤の使い道は、交通事故などの大量出血時よりもがんなどの病気の治療に使われることが圧倒的に多いことを知っていますか。
1. 知っている 2. 知らない
※ 約8割が病気(うちがんの治療3割)に使われ、交通事故などによる輸血は約1割程度。
- 問8 輸血の医療を受けられた多くの患者さんは、献血をしてくれた方に感謝(献血してくれてありがとう)の気持ちを持っています。そのような声を目や耳にしたことはありますか。
1. ある 2. ない 3. おぼえていない
- 問9 献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っています(※)。知っていましたか。
1. 知っている 2. 知らない
※ 最近5年間で、20代の献血者数は140万人から108万人(23%減)に、10代の献血者数は48万人から29万人(40%減)も減少しています。
- 問10 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと(聞いたこと)がありますか(複数回答可)。
1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞
5. 街頭での呼びかけ 6. 献血ルーム前の看板・表示 7. チラシの配布
8. ポスターの掲示 9. 献血関係のイベント 10. 自治体の広報誌 11. 雑誌等
12. インターネット 13. 献血バス
14. その他()
15. 何かで見た(聞いた)が、何の媒体か覚えていない
16. 見たこと(聞いたこと)がない
- 問11 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか(複数回答可)。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞 5. 雑誌
6. 自治体の広報誌 7. インターネット 8. 携帯電話 9. ポスター
10. その他()

- 問12 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。
1. 知っている 2. 知らない
- 問13 献血に関するキャンペーンを知っていますか。
(毎年7月:愛の血液助け合い運動 毎年1~2月:「はたちの献血」キャンペーン)
1. 知っている 2. 知らない
- 問14 平成2年から、全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資料「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。
1. 保健体育の授業で使用した 2. 他の授業で使用した 3. 配布されただけ
4. 知らない
※ 参考(平成23年版 高校生副読本「HOP STEP JUMP」→
http://www.mhlw.go.jp/new_info/kobetu/iyaku/kenketsugo/23/index.htmlをご覧ください)
- 問15 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。
1. 知っている 2. 知らない
- 問16 血液製剤(※)は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。
1. 知っている 2. 知らない
※ 重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ58%台である。
- 問17 献血ルームのイメージを教えてください。
1. 明るい 2. ふつう 3. 暗い 4. わからない
- 問18 献血したことがないのはどのような理由からですか。
理由の大きい順に3つまで、その番号をお選びください。
1. 献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた
2. 献血している所に入りづらかったから
3. 呼び込みが強引で嫌だったから
4. 献血場所が遠いので面倒だから
5. 近くに献血する場所や機会がなかったから
6. どこで献血ができるか分からない
7. 時間がかかりそうだから
8. 忙しくて献血する時間がなかったから
9. 自分が献血しなくても誰かがやると思ったから
10. 自分の血液が役に立たないと思ったから
11. 血液が無駄にされていると聞いたから
12. 針を刺すのが痛くて嫌だから
13. なんとなく不安だから
14. 健康上出来ないと思ったから
15. 病気がうつると思ったから
16. 献血すると言ったら、友人や家族からとめられた
17. 血を採られるという感じが嫌だ
18. 恐怖心
19. 職員の状態が悪いので献血したくない
20. 献血する意志がない

21. 海外渡航歴等による献血制限で献血したくてもできない
22. 薬を服用しているので献血ができない
23. その他
24. わからない

1 番目 2 番目 3 番目

23. その他を選んだ場合の具体的な理由

問 19 あなたが献血するきっかけとなり得る項目を選択してください。
 きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。
 なお、13、14 番を選択した方は、具体例を教えてください。

1. 家族や友人などから勧められた
2. 献血しているところが入りやすい雰囲気になった
3. 近くに献血する場所ができた (献血ルーム)
4. 近くに献血する場所ができた (献血バスまたは出張献血)
5. キャンペーンやイベント等により献血が身近に感じられるようになった
6. 好きなタレントがキャンペーンに起用されていた
7. 献血の重要性が明確になった
8. 血液が無駄になってないことが分かった
9. 針が細くなった
10. 針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された (麻酔など)
11. 献血で病気がうつることはない我知道了
12. 献血ルームの受付時間が長くなった
13. 献血したときの処遇品 (記念品) が良くなった
14. 献血ルームのサービスが良くなった
15. 献血が自分の健康管理の役に立つようになった
16. 職員の態度が良くなった
17. 海外渡航歴等の献血制限が解除された
18. 献血が健康にほとんど害がないということが分かった
19. 献血できる場所が分かった
20. 献血は絶対しない

1 番目 2 番目 3 番目

13. 献血したときの処遇品 (記念品) が良くなったを選んだ場合の具体例

14. 献血ルームのサービスが良くなったを選んだ場合の具体例

20. 献血は絶対しないを選んだ場合の理由

問 20 仮にあなたが初めて献血する場合、200mLではなく400mLの献血に抵抗を感じますか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問 21 ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

1. ある 2. ない 3. おぼえていない

問 22 あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

1. いる 2. いない 3. わからない

問 23 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

画像呈示 (資料)

問 23-1 献血の必要性への理解は良くなりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問 23-2 今は献血に協力する気持ちはありますか。

1. ある 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. ない

問 23-3 今後、実際に献血に行きますか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問 24 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。
 今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願いします。

プロフィールはこちら → <http://www.mhfw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/li.html>



献血にご協力を
若い皆さんの熱い友情を

血液を必要とする人すべてが輸血を受けられるように。
献血したことのある方もない方も、あらためてご協力をお願いします。
血液を必要としている人はあなたのすぐそばにいるかもしれません。

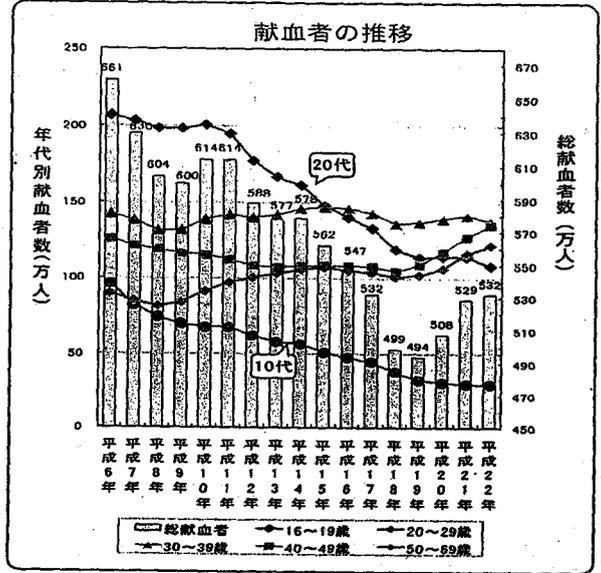
献血はどこでできるの？

献血は、献血ルームや献血バスで行うことができます。
全国の血液センターや献血ルームは、日本赤十字社ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)に掲載しています。

献血はなぜ必要なの？

血液は様々な働きをしており、生命を維持するために不可欠のものです。そこで事故などで大量に血液が失われた人や、病気で正常な血液を造ることができなくなってしまった人には、血液を補充（輸血）することが必要になります。
しかし、医療技術の発達した現在でも、血液と全く同じ作用をもつものを人工的に作ることはできません。医療に必要な血液は私たち自身が提供するほかに確保する方法がありません。
献血は、病気やけがで血液を必要としている人のために、見返りを求めず血液を提供することです。健康な人のボランティアによって、多くの人の命が救われているのです。

若年層の献血者が減少しています



現代の医療に欠くことのできない血液。
その血液の確保が徐々に難しくなっています。

原因の一つは、若年者数自体が少子社会の影響で減少しているほか、若年人口に占める献血者の割合も減少しています。

別の原因として、血液の安全対策の強化も挙げられます。
血液にはウイルスなど病気の原因となるものが潜んでいる可能性があり、献血の前の問診でいくつかの条件に当てはまる方については、献血をご遠慮いただいています。
感染症についての新たな事実が明らかになるにつれ、献血をご遠慮いただかなくてはならない人が増えてきているのです。

このままでは輸血を必要とする方々に血液が届けられないという危機的な状況となる可能性もあります。

献血はひとりひとりの思いやりによって支えられているシステム。皆さんのご協力をお願いします。

厚生労働省

お問い合わせ：
厚生労働省医薬食品局血液対策課献血推進係（電話 03-3595-2395）

若年層献血意識調査

献血経験者用

問1 献血は、患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問2 献血された輸血用血液製剤の有効期間は短く、絶えず献血が必要なこと知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※…血液製剤の有効期間は一番短い血小板製剤で採血後4日間、赤血球製剤は21日間です。

問3 献血された輸血用血液製剤の使い道は、交通事故などの大量出血時よりもがんなどの病気の治療に使われることが圧倒的に多いことを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※…約8割が病気（うちがんの治療3割）に使われ、交通事故などによる輸血は約1割程度。

問4 輸血の医療を受けられた多くの患者さんは、献血をしてくれた方に感謝（献血してくれてありがとう）の気持ちを持っています。そのような声を目や耳にしたことはありますか。

1. ある 2. ない 3. おぼえていない

問5 献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っています(※)。知っていましたか。

1. 知っている 2. 知らない

※ 最近5年間で、20代の献血者数は140万人から108万人(23%減)に、10代の献血者数は48万人から29万人(40%減)も減少しています。

問6 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと(聞いたこと)がありますか(複数回答可)。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞
5. 街頭での呼びかけ 6. 献血ルーム前の看板・表示 7. チラシの配布
8. ポスターの掲示 9. 献血関係のイベント 10. 自治体の広報誌 11. 雑誌等
12. インターネット 13. 献血バス
14. その他 ()
15. 何かで見た(聞いた)が、何の媒体か覚えていない
16. 見たこと(聞いたこと)がない

問7 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか(複数回答可)。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞 5. 雑誌
6. 自治体の広報誌 7. インターネット 8. 携帯電話 9. ポスター
10. その他 ()

問8 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問9 献血に関するキャンペーンを知っていますか。

(毎年7月:愛の血液助け合い運動 毎年1~2月:「はたちの献血」キャンペーン)

1. 知っている 2. 知らない

問10 平成2年から、全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資料「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

1. 保健体育の授業で使用した 2. 他の授業で使用した 3. 配布されただけ
4. 知らない

※参考(平成23年版 高校生副読本「HOP STEP JUMP」→

http://www.mhlw.go.jp/new_info/kobetu/iyaku/kenketsugo/23/index.html をご覧ください

問11 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問12 血液製剤(※)は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※…重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ58%台である。

問13 献血ルームのイメージを教えてください。

- | | | | | |
|------------------|--------|--------|-------|----------|
| 1. ルームの雰囲気 | 1. 明るい | 2. ふつう | 3. 暗い | 4. わからない |
| 2. ルームの広さについて | 1. 広い | 2. ふつう | 3. 狭い | 4. わからない |
| 3. 職員の対応について | 1. 良い | 2. ふつう | 3. 悪い | 4. わからない |
| 4. 記念品や軽い飲食物について | 1. 良い | 2. ふつう | 3. 悪い | 4. わからない |

問14 献血について何か要望又は知りたいことがありますか。(複数回答可)

1. 献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい
2. 献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい
3. 献血で昼休み、夜間などの受付時間を延長してほしい
4. 職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい
5. 献血された血液がどのように使われるのか知りたい
6. 献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい
7. 進学や就職時に献血の経験を考慮してほしい
8. 学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい
9. その他 ()
10. 特にない

問15 初めて献血をしたのはいつですか。

1. 16~17歳 2. 18~19歳 3. 20~24歳 4. 25歳~29歳

問16 初めて献血した場所はどこですか。

1. 高校 2. 大学キャンパス又は専門学校・各種学校
3. 職場 4. 献血バス(1~3以外)
5. 献血ルーム(血液センター) 6. 覚えていない

問17 初めての献血の種類は何ですか。

1. 200mL献血 2. 400mL献血 3. 成分献血 4. 覚えていない

問18 初めての献血で400mL献血をすることをどう思いますか。

1. 特に不安は感じない 2. 不安 3. わからない

2. 不安を選んだ場合の理由

問19 過去1年間に何回献血しましたか。

- (1) 200mL献血
1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回 7. 6回以上
(2) 400mL献血
1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回以上
(3) 成分献血
1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回 7. 6回 8. 7回以上

問 20 今までの献血回数は合計で何回ですか。

1. 1回 2. 2回 3. 3～5回 4. 6～10回 5. 11～20回
6. 21～30回 7. それ以上

問 21 初めての献血のきっかけになったのは、次のうちどれですか。

きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 自分の血液が役に立ってほしいから
2. 献血は愛に根ざしたものだから
3. 輸血用の血液が不足していると聞いたから
4. 自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
5. 将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力した
6. 過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
7. お菓子やジュースがもらえるから
8. ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
9. 図書券がもらえたから
10. なんとなく
11. 輸血を受けるときに役立てたいから
12. 家族や友人などに勧められたから
13. 高校に献血バス・出張献血が来たから
14. 大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから
15. 覚えていない

1 番目 2 番目 3 番目

問 22 現在献血するきっかけになっているのは、次のうちどれですか。

きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 自分の血液が役に立ってほしいから
2. 献血は愛に根ざしたものだから
3. 輸血用の血液が不足していると聞いたから
4. 自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
5. 将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力したい
6. 過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
7. お菓子やジュースがもらえるから
8. 輸血を受けるときに役立てたいから
9. テレビやDVDを観ることができるから
10. ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
11. なんとなく

1 番目 2 番目 3 番目

問 23 ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

1. ある 2. ない 3. おぼえていない

問 24 あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

1. いる 2. いない 3. わからない

問 25 高校での集団献血があれば、その経験がその後に献血する動機付けになると思いませんか。

1. 非常に有効 2. どちらかと言えば有効 3. あまり関係ない 4. 全く関係ない

問 26 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

問 26-1 献血の必要性への理解は今までと比べ深まりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問 26-2 資料を読んで献血に協力する気持ちは高まりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問 26-3 アンケートへの記載及び資料を読んで献血に行く回数を増やそうと思いませんか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問 27 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いませんか。広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。
今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願ひします。

プロフィールはこちら → <http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/1i.html>



献血にご協力を
若い皆さんの熱い友情を

血液を必要とする人すべてが輸血を受けられるように。
献血したことのある方もない方も、あらためてご協力をお願いします。
血液を必要としている人はあなたのすぐそばにいるかもしれません。

13

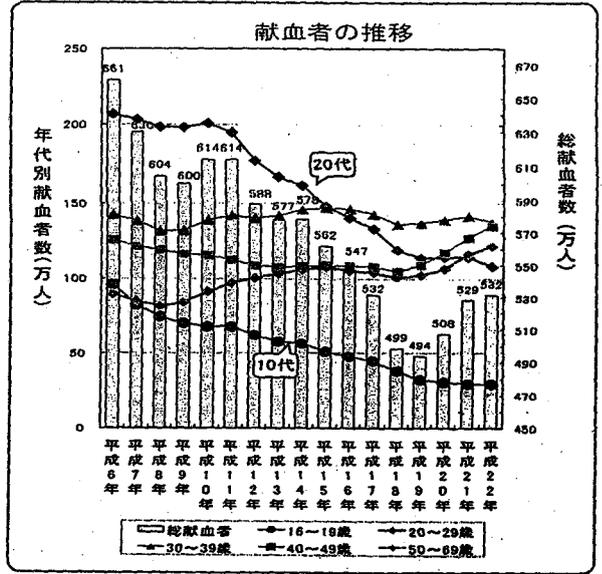
① 献血はどこでできるの？

献血は、献血ルームや献血バスで行うことができます。
全国の血液センターや献血ルームは、日本赤十字社ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)に掲載しています。

② 献血はなぜ必要なの？

血液は様々な働きをしており、生命を維持するために不可欠のものです。そこで事故などで大量に血液が失われた人や、病気で正常な血液を造ることができなくなってしまった人には、血液を補充（輸血）することが必要になります。
しかし、医療技術の発達した現在でも、血液と全く同じ作用をもつものを人工的に作ることはできません。医療に必要な血液は私たち自身が提供するほかに確保する方法がありません。
献血は、病気やけがで血液を必要としている人のために、見返りを求めず血液を提供することです。健康な人のボランティアによって、多くの人の命が救われているのです。

若年層の献血者が減少しています



現代の医療に欠くことのできない血液。
その血液の確保が徐々に難しくなっています。

原因の一つは、若年者数自体が少子社会の影響で減少しているほか、若年人口に占める献血者の割合も減少しています。

別の原因として、血液の安全対策の強化も挙げられます。
血液にはウイルスなど病気の原因となるものが潜んでいる可能性があり、献血の前の問診でいくつかの条件に当てはまる方については、献血をご遠慮いただいています。
感染症についての新たな事実が明らかになるにつれ、献血をご遠慮いただかなくてはならない人が増えてきているのです。

このままでは輸血を必要とする方々に血液が届けられないという危機的な状況となる可能性もあります。

献血はひとりひとりの思いやりによって支えられているシステム。皆さんのご協力をお願いします。

厚生労働省 お問い合わせ:
厚生労働省医薬食品局血液対策課献血推進係 (電話 03-3595-2395)

14

けんけつちゃん販売の権利関係について

知的財産権(商標権・著作権)は電通が保有している

		国が販売	第三者が販売
知的財産	権利保有について	権利を国に譲渡する場合、約2~3千万円と主張(電通)	電通が権利保有したままでも販売は可能 ※但し、キャラクターのクオリティ管理のため、デザイン制作の受注が条件(電通)
	実施料について	不要	キャラクター実施料・ロイヤリティについて発生する可能性がある ※但し、国が指定した第三者の場合においては、実施料・ロイヤリティは発生しない
財政法関係		財政法第13条に基づく特別会計(国の特定の収入と支出を経理する)を設置する必要があるが限定的。 (真に国として行う必要がある事業のみ)	-
販売可能性		x	o

1

けんけつちゃん販売のメリット・デメリット

	販売した場合	販売しない場合
献血推進上のメリット	<ul style="list-style-type: none"> キャラクターを目にする機会が増え、認知度が上がる可能性がある。 輸血歴などにより、実際に献血協力できない方が購入することで、献血協力への一つの行動となる。 売り上げができれば、献血推進の活動費に充てることも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> キャラクター誕生以降、地道に認知度をあげている(広報業界では成功例と言われている)ため、販売による問題などのリスクを心配することなく、これまでどおりの広報が可能。
献血推進上のデメリット	<ul style="list-style-type: none"> 無償の献血と金銭を伴う販売を行った場合に国民の理解を得られるかどうか。 販売に問題が起きた場合(裏で利益をあげていたなど)、多くの国民からの無償の愛を裏切ることになり、これまでの献血協力者が離れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 露出が限定的(献血推進キャンペーン会場、ルームなど)となる。
資金やその管理等	<ul style="list-style-type: none"> 収支管理等を適正に行う必要がある。 収支報告などのあらゆる情報を国民に向け、しっかりと公開する必要がある。 	-

2